

---

# ゲームキャラもアニメキャラも全員逃げて戦って大暴れ！逃走中！

りゅーと

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゲームキャラもアニメキャラも全員逃げて戦って大暴れ！逃走中！

### 【Nコード】

N8687X

### 【作者名】

りゅーと

### 【あらすじ】

えりか「キャラ崩壊やギャグは当たり前！」  
トウイン「ミッションは過酷でハプニング起き放題！」  
はやて「大乱闘もやっちゃいまーす！」  
アルル「フンガー！」  
りゅーと「てへぺろwww」  
ウルフ&スバル&ゆり「帰れ！！！」

## 招待状は世界各地に届けられた（前書き）

最初のオープニング。初めてですので、よろしくお願いします。

ルイージ「ずいぶん丁寧だね。ちゃんとやってねー？」

アルル「大丈夫かな・・・？」

なぎさ「ワクワク・・・」

## 招待状は世界各地に届けられた

ある日の事・・・

りゅーと「最近、このにじファンにいろんなゲームやアニメのキャラを使ってで逃走中が行われているよね・・・。」

パソコンである小説サイトを見ているりゅーと。パソコンの画面には二次創作の作品が投稿されているサイトが映し出されている。それらの小説はあるアニメやゲーム、マンガの二次創作ものも多く、パロディ作品やオリジナルストーリーを公開している。その中で最近話題のパロディ小説があり、その小説にはタイトルやタグにはある言葉が入っている。それは・・・

逃走中

それはテレビで人気のある番組であり、高視聴率を獲得している番

組だ。

その番組は出演者が「逃走者」と言う逃げる者になり、「ハンター」と言う黒ずくめの男達から逃げると言うシンプルなゲーム。そのゲームでハンターから逃げきったら、時間に応じた賞金がもらえるところという魅力もあり、出演者の意外な一面を見れるという注目すべき点もある。

さらに、逃走中にはミッションと言うゲームに影響を与える様々な課題、時折にゲームとリンクするオリジナルドラマが展開されるため、見る側にも楽しみを与える。

りゅーと「私もこの逃走中は好きだから、やっちゃおうかな！まずは自分の好きなアニメやゲームのジャンルから逃走者をチョイスしに行こうっ」と！

そう言うと、りゅーとは複数の手紙を持ってどこかへ出かけた・・・

プリキュアの世界にて・・・

えりか「お？手紙？これ、逃走中のオフアーじゃん！」  
つぼみ「これって、逃げてお金がもらえるんですよね？」  
いつき「他のシリーズの子も出るみたいですよ！参加します！」

ぶよぶよの世界にて・・・  
アミティ「ソニックも来るみたいだつてよ！久々に会える！」  
アルル「主人公として負けられないよ・・・！カー君、行くよ！」  
ラフィーナ「絶対に逃げきって見せますわ！おーほほほほ！」

なのはの世界にて・・・  
なのは「あ！ついに来たんだ！みんな、参加する？」  
フェイト「うーん・・・なのはが参加するなら私も！」  
はやて「仕事もないし、ちょっと出てみつか！」

スマブラの世界にて・・・  
マリオ「スマブラチームの意地としてでも絶対に逃げきるぞ！」  
ルイーダ「うん！参加できなかつた人は次の逃走中にも出れるみたいだよ。」  
カービィ「次に出演する人はテレビを見て対策を練ってねー！」  
リンク「ゼル伝組は全員参加！つと。他はいないかー？」

????の世界にて・・・

りゅーと「君達はゲームの妨害役に出てくれない？好きなように暴れちゃってもいいからね？」

「???」「OK!じゃあ、???2と???3と???4、行くぞ!」  
「???2」「勝手に決めないでくださいよ。ですが、仕事もないのでいいですよ。」

「???3」「分かった!じゃあ、準備をしてくる!はぁー・・・」  
「???4」「ちよつと!???3さん!能力を使わないでください!」

果たして逃げ切れるのは・・・?

## 招待状は世界各地に届けられた（後書き）

取り扱うジャンルはスマブラとプリキュアとぷよぷよとリリカルなのは+。

全部の作品は知っていますが、なのはシリーズの方は知人や弟から借りたため、かじり程度でしか知らないのていりいと違っていらごめんなさい・もう一度見直そうと。

ちなみに+の方は最後に出て来た4人で、彼らの登場によってゲームが大変な事になります。

誰なのかは話が進むにつれ、ヒントや相手の正体が明らかになります。

感想をお待ちしています。ではー。



## エリア情報とルール説明（前書き）

逃走中の舞台となるエリアの情報とルールの説明をば。

## エリア情報とルール説明

「逃走中のエリア」

夢が集う国：ドリームワールド

「エリアの情報」

作者が逃走中の舞台で作り上げた特殊なエリア。見た目は文明が栄えた国で、エリアごとによって環境が違っていたり、町があったり、謎の遺跡があったり、森があったり、海があったりする。

ちなみにこのドリームワールドは5つのエリアに分かれており、自由に行ったり来たりができる。隠れる場所が多くある分、移動の面に困る時もある。

「広さ」

東京ドーム7個分とかなり大きい

【エリア説明】

「東エリア」

森が占めるエリア。場所や時間帯によっては明るさが違う。自然の障害物やオブジェが多いので、運が良ければハンターの回避にもなるが、悪いとハンターからの不意打ちもあり得る。

「西エリア」

海が占めるエリア。漁港や貿易が盛んのエリアであり、多くの船が泊まっている。隠れる場所が少な目。何かの取引が行われそうな倉庫や入り組んだ道がある。

「北エリア」

謎の遺跡があるエリア。ある文明が栄えた当時の名残もあり、その面影を匂わせる。絶好の隠れ場所であるが、足場の悪さや自然のトラップもあるので要注意。視界が悪い。

「南エリア」

お店が多く並ぶエリア。食料品や衣料品、武器や防具などの装備品、外国から仕入れた嗜好品もある。隠れる場所は少なめ。しかし、直線的な道や見通しのいい場所が多くある。ハンターの振りきりが可能。

「中央エリア」

住宅街エリア。他のエリアとは平均的。隠れる場所や障害物の多さ、明るさなどは均一なので逃げるのに適している。他のエリアの中央にあるので、人の出入りが多い。

「????」

後半になってから解放される新エリア。秘密です。

## 【ルール】

- 1：時間は100分。1秒につき200円上昇（逃げきれば120万円獲得）
- 2：エリア内にいるハンターは4体。彼らに捕まると確保となり、賞金は0円。牢獄へ転送される。
- 3：自首も可能。ゲームのリタイア各エリア内に（2つずつ）ある公衆電話から自首を申告すれば、その時点の賞金が獲得が可能となる。
- 4：逃走者全員には携帯が配られ、確保情報や自首情報、ミッションや通達はメールで送られる。逃走者同士での連絡も可能。
- 5：一部の逃走者が持っているスキルや技は特定の場合のみにしか使えない。
- 6：変な事を起こしたら強制失格にするぞ！！さらには・・・

以上です。次は逃走者情報。

## エリア情報とルール説明（後書き）

攻略はエリアによっての環境や持ち前のスキルをどうするかが鍵。ある程度は大暴れをしてもいいですが、死者が出るまでの大暴れはしないように。

逃走中が好きな人なら分かりますが、一部のエリアを見るとあるミッションのフラグが・・・？

カービー「エリア縮小や100体ハンターが来そうだよー」

オリマー「どこに隠れましょうか・・・（地図を見る）」

ひかり「能力はお預け・・・。困ったなー・・・（タッチコミュニンをかざして空を見る）」

## 逃走者情報その1（前書き）

つぼみ「最初はスマブラチームからの紹介ですね。ちなみにスマブラはDXやX混合です。」

なのは「かなり人数を絞ったみたいだけど、凄多いねー。」

ピット「出番のない人は次までお預けだねー。暇だー・・・。」

ウィッチ「まあまあ、お茶やお菓子を摘まみながら待っておきましよう。」

## 逃走者情報その1

逃走中の参加者。キャラの設定はリゅーと設定が多めです。  
最初はスマブラから紹介を。人数多いなー；

「スマブラチームから(25人)」  
・マリオ

ご存知ミスター任天堂であり、ルイージの双子の兄。ピーチ姫が大好き、クッパとワリオはライバル関係に当たる。性格はうまい話に釣られやすく、今が楽しければいいというタイプであるも、いざという時には頼りになるスマッシュブラザーズのリーダー。

メンバーの全員とは仲が良く、マリオファミリーや大人組とは特に気が合う。別の職業をやっているもう一人の自分がいるらしい。スキルは空を飛んだり、炎を放ったり、肉弾戦と能力自体はよいが面倒くさいのはパスしたり後回しにする傾向があり。考え方と戦闘は弟と違う部分があるため、それが逃走中にどう出るか？  
足の速さは普通であり、戦闘はガンガン行くタイプ。ミッションは金に関係するもの以外は他人任せ。ワリオよりも長く生き残ってやる。

・ルイージ

永遠の二番手や影の実力者と呼ばれるマリオの双子の弟。スマッシュブラザーズの中で実力者の一人に入る。お化けが大嫌い。面倒見がよく、誰とでも仲がいいが、マリオファミリーや初期組、デデデとは気が合う。

スキルはジャンプ力が若干高めであり、戦闘ではアイテムを駆使する頭脳戦が得意。先の事を考えて行動する部分がある。マリオとの

違いがどう出るか？

足の速さはやや早く、戦闘はしっかりと考えるタイプ。ミッションは基本的に行くが、明らかに金目当てのものや不安要素が渦巻くものは踏み止まる一面があり。

#### ・ピーチ

キノコ王国のプリンセス。マリオの事が大好き。お菓子作りとお茶会が趣味で女子会をしょっちゅう開く。女子チームのまとめ役。見た目に反して、意外とお転婆な一面があり、マリオパーティや大きなパーティではこの人が関係している（しかも、悪役や異世界の住民が平然という）。

スキルは女性ゆえに低い部分が目立つも、野菜や傘、フライパンやゴルフクラブを武器に戦ったり、全員を眠らせる技を使うなどとトリッキーな戦い方をする。

足の速さはやや遅めであり、戦闘はあくまでも優雅に。ミッションは不利になるものは必ず行くが、気分によってのが多い。

#### ・ワリオ

トレジャーハンターやゲーム会社の社長と金に関する事には力を入れるメタボひげ。マリオとはライバル関係。にんにくとクレープが好物。マリオファミリーや悪役キャラとは仲がいい。

スキルは体力と攻撃力が高めで攻撃に大きな動作がある。マリオよりも長く残る事と逃げ切りを狙っている。金をちらつかせれば、本気を出すか？

足の速さは遅く、戦闘ではおならや嘔みつき、タックルと肉弾戦が多い。ミッションはマリオ同様に金に関するもの以外は他人任せ。マリオよりも長く生き残ってやる。



・ヨツシー

マリオのパートナーである緑の恐竜。性別は謎に包まれている。マリオファミリーと大食いメンバーとは仲がいい。大食いメンバーの一人。性格は穏やかで敬語を話し、語尾に「〜です」とつく。

スキルは全般的に高く、卵を産んだり、尻尾やべろを使いこなすが、食べた物によつて炎や氷を吐いたり、空を飛べると可能性がある。足の速さは早めで、戦闘では上記の通りに食べた物によつて変化が伴うので、アイテムの活用が鍵となる（炎や氷を吐いたり、地震を起こしたり、空を飛んだり可）。背中（鞍）には人が乗る事が出来るので、彼（？）の行動力と食欲によつて左右される。ミツシヨンは積極的に参加より。

・ドンキーコング

ジャングルの王者のゴリラ。バナナが大好き。大食いメンバーの一人で、マリオファミリーと大食いメンバーとは仲がいい。今回は出れなかったデイディーのためにも頑張る。賞金は高級バナナの代金に使う予定。

スキルは肉弾戦をベースにお得意のパンチで攻撃。野性味あふれる動きで勝負！体の大きさと重さが仇。空中復帰も厳しいので要注意。足の速さは意外にも速めで、戦闘では上記の通りに肉弾戦とパンチとパワーで勝負！ミツシヨンは気分次第。

・リンク

ハイラルを幾度も救った勇者。勇気のトライフォースの所持者。ゼルダ姫とは両思いであるが、中々行動に移せない。誰でも仲が良く、特に同色カラーや真面目なキャラ、剣士組とは仲がいい。根がいい人すぎるので、厄介事に巻き込まれる。簡単に言うくと苦勞人（

ツッコミ持ち)。

スキルは剣術をベースにさまざまな道具を駆使して戦う。弓の腕はプロ級。

足の速さは普通で、戦闘は上記のとおりに道具を織り交ぜての剣術メイン。ミッションは必ず行く。

#### ・ゼルダ

ハイラルの姫君。知恵のトライフォースの所持者。リンクのことが好き。やや天然であるが、しっかり者。女子組やゼル伝組とは仲良し。

スキルは魔法を駆使し、別人格のシークになって戦う時も。魔力は高めで、攻撃・防御・転移魔法は全部扱えるが、特殊ハンター戦や特別な条件以外は使えない。通常時はゼルダで逃げます。

足の速さはやや遅め(シークは速い)で、戦闘では魔法をメインにミッションは必ず行く。

#### ・ガノンドロフ

リンクとゼルダの持つトライフォースを我が物にしようとするゲルドの盗賊王。力のトライフォースの所持者。リンクのライバル。

ゼル伝組や悪役キャラとは仲がいい。スマブラにいる間は対決は一時休戦となっている(他の世界も同じ)。

スキルは力技や独自の魔法を使う。攻撃力は一、二位を争うほど高い。リーチの短さと動きの遅さが致命的。

足の速さはかなり遅く、戦闘では魔力の込めた拳や魔法、肉弾戦を。ミッションは他人任せ。

#### ・ヤングリンク

リンクの子供時代。子供組メンバーの参謀。性格は大人のリンクや猫目君とは違い、悪戯が大好きなクソ餓鬼で凄い生意気。やや反抗期気味。大人の自分や一部の人をおちよくるのが趣味。

基本、誰とでも仲よし。特に子供組や自分と同じ波長の人、悪乗りをする人と組むとやばい事に。リンクに怒られることは当たり前。スキルは大人リンクと同じで剣術と道具を駆使して戦うも、剣術は劣っている。その分の素早さと身軽さは持っている。

足の速さは速めで、戦闘はリンクと同じ（ただし、悪戯心が働くの  
で要注意）。ミッションは気分次第。

#### ・トウインリンク

海の世界から来た猫目リンク。子供メンバーの新人入りであり、たくさんリンクがいてびっくりしたらしい。たまに猫っぽくなる。好奇心旺盛で人懐っこいが戦いになると別。変な嘘に騙されやすく、その度に保護者のリンクやウルフが原因を叩きのめしに行っている。。。

誰とでも仲が良く、ゼル伝組や子供メンバーとは仲良し。最近ではウルフとプリンと仲が良く、セットになっている。スキルはリンクとヤンリンと同じように剣術と道具を駆使して戦うが、リンクやウルフの指導もあってかトリッキーな戦い方を身に付けた。

足の速さは速めで、戦闘では剣術と道具を駆使する。ウルフとプリン、一緒にいるチームのサポートにも努める。ミッションはちゃんと行く。

#### ・レッド

ポケモンマスターを目指す少年。ピカチュウ、プリン、ピチュー、ゼニガメ、フシギソウ、リザードンのトレーナー。個性のあるポケ

モンたちに悩まされているも、ちゃんとポケモンのことを信頼している。

ポケモン達の健康管理やトレーニング、コンテストの管理をしつかりしているため、実力はある。ジムやリーグ、施設の制覇なんて当たり前前。趣味はポロツク作りとポフィン作り。

スキルはポケモンがあると対応ができるが、手持ちは三匹&使用は特殊ハンター戦と一部の条件にしか使えないので、その間は逃げないといけない。

足の速さは普通で、戦闘ではゼニガメとフシギソウとリザードンを使う。ミッションは他人任せ&自首狙い。

#### ・ピカチュウ

任天堂を代表する人気ポケモン。可愛げもあるかと思ったら、主人のレッドに対してはちよつと生意気で、悪ぶりたいお年頃。実はこう見えても、主人の事を心配しており、主がレッドである事を誇りに思っている。弟にピチューがいる。ポケモン組のリーダーとして逃げ切りは狙う。

スキルは持ち前の素早さと雷系の技で戦う。さらに電気を貯め込む特性持ち。意外と頭が切れる。

足の速さはかなり早く、戦闘では雷属性の技を使う。ミッションはなるべく行く。

#### ・プリン

任天堂を代表する風船ポケモン。サ行がうまく喋れない(しゃししゅせしよとなる)。歌とおしゃれが大好き。

ポケモン組と女子組とは仲がいい。最近ではウルフとトゥーンと仲がいい。可愛い顔をして、意外とやる一面も。

スキルは飛行能力と逆転の可能性がある技、他者との連携が得意。

特にウルフとトゥーンとはコンビネーションが抜群。技の威力と身軽さが致命的。

足の速さはかなり遅く、戦闘ではサポートに努める。ミッションはなるべく行く。

#### ・カービィ

ポップスターから来た星の戦士。大食いメンバーのリーダー格。スマブラチームの食事代はこのピンク玉が絡むため、火の車になりかける。

性格は明るくて無邪気で思ったことをすぐに言ったり、考えるより行動派。一種のトラブルメーカーであるが、どこか憎めない性格。誰とでも仲が良く、子供メンバーや小さいキャラ、大食いメンバーとは大の仲良し。逃走中に参加するメンバーを食べようとするので、大王やメタナイトが止めに入る場面がみられる。

スキルはお得意のコピー能力と飛行能力をフルに活用するので、どんな戦いにも応用ができる。こちらも技の制限がかかっている（通常でマイクやクラッシュなんかされたら死ぬもんね〜）。

足の速さはかなり遅く、戦闘はコピー能力をフルに！ミッションは気分次第。

#### ・デデデ大王

ポップスターの大王。わがままでいるとやらかすが、こう見えても他者の事を考えており、特にライバルのカービィや部下のメタナイト、ワドルディ達を大事にする一面をもつツンデレ大王。国の事はちゃんと大事にしていますよ。カービィと同様に逃げ切りを狙う。

カービィやメタナイト、悪役キャラ、パワー系キャラとは仲良し。特にルイージとネスはある事がきっかけで仲良しに。ツッコミの素

質があり、暴走するカービイにはハンマーで強制鉄槌を。

スキルは武器のハンマーを使つてのが多い。さらに自身の体を生かしての攻撃も。意外にも身軽に動けるらしい。作戦を考えて戦うので油断はできない（亜空の使者で黒幕を見つけたり、カービイシリーズで黒幕の暴走を抑えるときに自身の命がどうなるかと構わないと体を張る）。

足の速さはかなり遅く、戦闘では持ち前の頭脳とお気に入りハンマーを駆使して戦うゾイ！ミッションはある程度は行くゾイ。

#### ・フォックス・マクラウド

雇われ遊撃隊「スターフォックス」のリーダー。性格は真面目で責任感が強い優等生タイプだが、異性には弱い。

数多くいる宇宙組とは仲良し。ピーチ姫のお茶会によく行く。逃走中は逃げ切つて半分は自分のため、半分はローンの返済に使う。

スキルは足技メインの格闘戦と持ち前の身体能力、射的の腕で相手を確実に仕留める。スピードは速い。一部のキャラより体重が軽いので吹き飛ばされやすい。

足の速さはかなり早く、戦闘では銃と足技メインの格闘戦。ミッションは必ず行く（特にお金関係！！）。

#### ・ファルコ・ランバルディ

フォックスと同じ「スターフォックス」のメンバーであり、エースパイロット。性格は熱くなりやすく、プライドが高いとフォックスとは真逆。こう見えても意外とお人よしで、チームや仲間を大事に思っている。リーダーであるフォックスとはたびたび衝突するが、なんだかんだうまくやっている。

フォックス同様に宇宙組とは仲がいい。大食いメンバーや食べ物に執着がある人は苦手。鳥とかそうめんとか言うな！！

スキルはフォックス同様に格闘技メインと銃を使うと同時に、空中での技も多く多用する。ジャンプ力高め。しかし、本人の性格ゆえに相手の挑発に引っ掛かりやすいため、それでピンチに陥る時もある。  
足の速さは普通で、戦闘では銃や格闘戦と同時に空中戦も。ミッシヨンは気分次第。

・ウルフ・オドネル

ならず者集団「スターウルフ」のリーダーであり、フォックスのライバル。トゥーンとプリンの保護者になりつつある狼。

一匹狼で他人とは慣れ合う気はないものの、苦手な子供や女性に気に入られる狼。人を寄せるカリスマを持っているため、何故か自分の性格とは違う人とは気が合う。周囲のポケに突っ込みを入れる貴重な人材。

スキルは長年に培ってきた戦闘能力や自身で身につけた格闘技を用いる。銃や武器の扱いはお手の物。トゥーンやプリンに戦術を教えたのはこの人。諦めが悪いが、味方になると心強い。恩をちゃんと返すタイプ。

足の速さはやや遅めで、戦闘では前に出て戦い、持っているスキルや武器だけじゃなく、アイテムさえも使いこなす。さらに場を切り抜ける方法と仲間の能力をフルに活用できる作戦を即座に考えるので別のチームにとってはありがたい。ミッシヨンは気分次第だが、頼まれると断れない時が……。

・ネス

田舎町オネットから来た超能力者の少年。子供組のリーダー。性格は明るくて思いやりのある子だが、ヤンリン同様にヤンチャで悪戯が大好き。たまに腹黒くなる&ホームシックになる。

誰とでも仲がいいが、ルイージと子供組はもちろん、最近になって入ってきたリュカとデデデとは仲がいい。同じ超能力者のリュカにPSIの指導をする時も。超能力の研究中であり、ミュウツの所で弟子入り中。

スキルは超能力だけでなく、野球バットやヨーヨーなども武器にしたり、時には能力を自分にぶつけて強力な体当たりを繰り出すとトリッキーな戦い方が得意。

足の速さは速めで、戦闘では超能力とおもちゃを使つての頭脳戦。ミッションは必ず行く。

#### ・ポポ

氷山登山家で有名なアイスクライマーの男の子。パートナーのナナとは友達以上恋人未満の関係。

性格は優しく思いやりのある子で用心深い。簡単に言うと「石橋を叩いて渡る」タイプで行動力のある女子に引つ張られやすい。少し臆病な所もあるが、ナナを酷い目に合わせた奴には容赦しない。

スキルはハンマーと氷や雪の技を使つての攻撃。さらにナナとの連携が合わさると数倍の力を発揮する。二人行動が基本。

足の速さは普通で、戦闘ではパートナーとの連携攻撃。ミッションは怖いから行かない。

#### ・ナナ

氷山登山家で有名なアイスクライマーの女の子。パートナーのポポとは友達以上恋人未満の関係。

性格は明るくて活発な恋に敏感の女の子。簡単に言うと「案ずるより産むが易し」タイプで考えるより即行動タイプなので、ポポが冷や冷やしている。勝気な部分があるが、感情を表に出しやすい一面も。



スキルはハンマーと氷や雪の技を使つての攻撃。さらにポポとの連携が合わさると数倍の力を発揮する。二人行動が基本。足の速さは普通で、戦闘ではパートナーとの連携攻撃。ミッションは気分次第だが行くに寄り。

・Mrゲーム&ウオッチ

2Dゲームから参戦した黒い平面の人。ぺらぺらして横からしか見ないと見えないと思われるが、マスターハンドの力によって3Dになった。

礼儀正しく、誰にでも敬語を忘れない。古参ゲーム組やロボットとは仲がいい。古参ゲーム組のリーダー格。片言で喋る。

スキルはゲーム同様にいろいろなアイテムを出したり、姿を変えて戦う。特にジャッジは痛い。アイテムを使つての戦闘や連携は得意。頭を使う。

足の速さは遅めで、戦闘はほぼオールマイティ。ミッションは必ず行く。

・オリマー

ホコタテ運送の会社員。宇宙を駆ける運び屋であり、ピクミンを操る宇宙飛行士。家庭持ちであり、子供の扱いは慣れている。

家事の手伝いや庭いじり、物の運搬が得意。ピクミンの世話や散歩が好き。個性あふれるメンバーに驚くも、家庭持ちの人や大人組とは仲良し。ピクミンの件は事故だったため、ちゃんと和解している。スキルは本人自体は弱いが、握力と腕力は高め。ピクミンに指示を与えて戦う時やお宝の運搬は一寸の狂いもなく、犠牲を抑えてやるので凄い。飲み込みや応用は早い方。

足の速さは遅めで、戦闘ではピクミンやアイテムを使う(戦闘時や特定の条件下で出せるピクミンの数は各色2匹ずつで計10匹)。

ミッションはなるべく行くように決める（特にお金絡みは奥さんが怖いので・・・;)。

・ソニック・ザ・ヘッジホッグ

セガから参戦した青いハリネズミ。自由奔放で刺激がある事を好む。走る事は大好き。

マリオやカービィなどのスマブラキャラとはすぐに打ち解け、さらに同じセガのぶよぶよキャラのアルルやアミティとは仲がいい。音速やスピード狂のキャラ、同じゲストのスネークに対しては対抗意識を持つ。

スキルは持ち前のスピードを生かして戦ったり、カオスエメラルドの力を使ってスーパーソニック化して戦うと変化形の技を使う。少し勝気な部分も見られるので、少しピンチに陥る時も・・・。

足の速さはかなり早く、戦闘ではスピードを生かし戦いかつ好戦的。ミッションは気分次第。

スマブラ組からはこの人数で。出番のなかった人は次の逃走中に出演予定。

次はプリキュアチームとなのはチームとぶよぶよチームの紹介をば。

## 逃走者情報その1（後書き）

プリン「以上でしゅね。ゲームの性能を一部参考にしたり、定番の組み合わせをチョイスしているみたいでしゅ！」

トウーン「亜空間トリオや隠しトリオや剣士組も定番だもんね。僕も一緒に出れて嬉しいなー！」

ウルフ「俺もだ……。しかし、ミッション関係はくれぐれも随に（まにまに）にならないでほしいんだが……」

スバル「随に？」

いつき「随にと言うのは他人の意志や事態の成り行きに任せて行動するさまやある事柄が、他の事柄の進行とともに行われるさまだよ。」

アルル「不利になるのは同時に来ないでほしいよ……」

トウーン「まにまに……」

トウーン&プリン「マニ・マニ・モリ・モリ」

ウルフ「歌詞が違えよー!!」

元ネタはQさ のザ ヤマの一言です（笑&11月12日に訂正しました）

## 逃走者情報その2（前書き）

アミティ「マル」

ウルフ「前回の後書きからそのネタを持ってくるなああああああ  
ああー！」

シグナム「何してるんだか……」

トウーン「ねえーねえー！ウルフも踊ろー！」

ヴィータ「リーダーもやろうな！」

二人「はいいつ!?!」

（数分後）

フォックス「おーい、次はプリキュアとなのはとぶよの紹介……」

フォックスが部屋に入るとマル ダンスを子供キャラ達に交じって  
踊っている狼と守護騎士の将が……

ウルフ&シグナム「恥ずかしい……」

フォックス「……（無言でドアを閉める）さあ、紹介をしよう「ス  
ルー」とはいい度胸だな貴様？」

リデル「今回の紹介は最後です。フォックスさん、逃げた方が……

「・  
美希「あ、撃たれた・今度は炎の剣が・あらららら・」

追記：前書きを訂正しました（11月12日）

## 逃走者情報その2

次はプリキュアとリリカルなのはとぶよぶよからの逃走者をば！

「プリキュアチームから（12人）」

・九条ひかり

「ふたりはプリキュアMH」から参戦。変身するとシャイニールミナスになる。なぎさやほのかのために逃げきる。

性格は優しく謙虚であるが、考えはしっかりしており、自分の意見をはつきり言う。成績優秀で真面目で人のお手伝いを積極的にする。ちよつと天然で周囲の変化には苦笑いする。なぎさやほのか、黄色系キャラとは仲がいいが、自分と同じ属性の事は気が合う。もちろん、プリキュアのみんなとは仲良し。

スキルはタッチコミュニケーションを使ってシャイニールミナスになって戦う（ちなみにこの際に記しておきますが、プリキュアキャラは特殊ハンター戦のみに変身が可能。だが、変身アイテムにある一部の効果は通常で使用が可能）。戦闘は苦手でサポート重視。

足の速さはやや遅く、戦闘では他者の補助に努める。ミッションは必ず行く。

・日向咲

「ふたりはプリキュアSS」から参戦。変身するとキュアブルームになる。ソフトボール部のエースで口癖は「ナリ」。

性格は明るくて活発で考えるより行動派に当たるため、パートナーの舞や周囲を冷や冷やさせる事をやるが、実はこう見えても機転を働かせるので侮れない。舞やプリキュアキャラ、主人公格やリーダー格のキャラ、スポーツが好きなキャラとは気が合う。家族のため

にも逃げ切りを狙う。

スキルはミックス・コミュニケーションを使ってキュアブルームになって戦う。パンチメインの格闘戦重視。特定の条件でしか変身が出来ないので、それまでは何とか逃げようと考え中。

足の速さはかなり早く、戦闘では格闘戦が得意で前に出て戦う。舞との連携や機転を働かせた作戦も考える。ミッションは必ず行く。

#### ・美翔舞

「ふたりはプリキュアSS」から参戦。変身するとキュアイーグレットになる。美術部に所属しており、絵を描く事が趣味。

性格はパートナーの咲とは逆にお淑やかで大人しく、物事に集中しやすい。咲の暴走をなだめる事が多く、彼女の暴走に冷や冷やしている。基本的には敬語。咲や他のプリキュア、青や白のイメージカラーのキャラ、おっとり系キャラとは仲がいい。

スキルは咲同様にミックス・コミュニケーションを使ってキュアイーグレットになって戦う。ブルームとは逆に遠距離系の技を使う。変身が出来ない間は隠れてやり過ごす。

足の速さは遅く、戦闘では遠距離が得意で遠くから攻撃する。咲との連携や他社の後方支援に努める時も。ミッションは必ず行く。

#### ・夢原のぞみ

「Yes!プリキュア5シリーズ」から参戦。変身するとキュアドリームになる。プリキュア5のリーダー。

何の取り柄もないが、明るくて他者のために頑張る性格であり、困っている人や落ち込んでいる人を一生懸命励ましたりする。精神的にも強く喜怒哀楽が激しい。持ち前の性格からか、誰とでも仲良くなれる。また、大食いなので見た目に反してかなり食べる。

スキルはピンキーキャッチュを使ってキュアドリームになって戦う。

急所をついての必殺技を好み、その威力は敵も仰天するほど。

足の速さは普通で、戦闘では前に出て戦う。プリキュア5メンバーとの連携や他者との連携にも協力的。アイテムの使用も若干は可能。ミッシオンは不利になるのは参加する。

・夏木りん

「Yes!プリキュア5シリーズ」から参戦。変身するとキュアルージユになる。スポーツ万能少女でのぞみの幼馴染でありツッコミ役。

運動関係に強く、ボーイツシュで男勝りだが、お化けが苦手だったり、可愛いアクセサリーやカッコイイ男の人に弱いと女の子らしい一面も。プリキュアキャラや赤系キャラ、運動が好きなキャラとは仲がいいが、同じスキル持ち（ツッコミ素質）とは気が合うらしい。スキルはピンキーキャッチユを使ってキュアルージユになって戦う。炎を用いた技を駆使するだけじゃなく、ドリームやアクアと連携を取る時もある。

足の速さは速めで、戦闘では炎系の技を使って前に出て戦う。連携技も繰り出し、特にドリームとアクアとはいいタイミングで発動する。ミッシオンは必ず参加する。

・水無月かれん

「Yes!プリキュア5シリーズ」から参戦。変身するとキュアアクアになる。才色兼備であり、学園で生徒会長を務めている。

根が真面目で責任感が強く、みんなに頼られるが本心を心のため込んでしまう癖がある。仲間思いで感情的になりやすい。プリキュアキャラや青系キャラ、くるみや知的なキャラとは仲がいい。出れなかった親友のこまちのためにも頑張る。

スキルはピンキーキャッチユを使ってキュアアクアになって戦う。



水を用いた技を駆使するだけじゃなく、ルージユと連携を取る時も頭を使って戦う。  
足の速さは遅めで、戦闘では水系の技を使い考えて行動。連携技も繰り出し、特にルージユとはいいタイミングで発動する。ミッシヨンは場に応じて行動。

・美々野くるみ

「Yes！プリキュア5GoGo！」から参戦。変身するとミルキイローズになる。その正体はパルミエ王国のお世話役見習いのミルク。

見た目とは裏腹に打算的かつ気の強い性格。身勝手で腹黒い性格もあり、過去にメンバーとの衝突があった。プリキュアキャラとは仲がいいが、自分とは考えが刺り合わない相手とは衝突が起きる。スキルは青いバラの力でミルキイローズになって戦う。戦闘自体は強いものの、体力の消費が激しく変身が解けてしまう時がある。足の速さは遅めで、戦闘では奇襲攻撃を行う。ミッシヨンは行かない。

・花咲つぼみ

「ハートキャッチプリキュア！」から参戦。変身するとキュアブロッサムになる。花が好きで女の子でプリキュア初の控え目な主人公。性格は内気で引っ込み思案で目立つ事が苦手で、よく緊張する。根が真面目で礼儀正しく敬語を話す。人の痛みや苦しみを理解する優しい子で、相手の夢や思いを踏みにじる相手に対しては容赦しない。えりかやいつき、プリキュアキャラや自分と似たキャラとは仲がいい。自分と性格が真逆の人には振り回されやすい（特にえりか）。家族のためにも逃げ切りを狙う。

スキルはココロパフォームでキュアブロッサムなって戦う。戦闘時

は花の力を使つての技が多いが、たまにお尻で攻撃する時もある。ココロパフォームにはパワーアップ能力はあるが、一部の効果は通常時に使える。

足の速さはやや遅めで、戦闘では花の力を使つて戦う。ミッションはハンターが怖いので行かない。

・来海えりか

「ハートキャッチプリキュア！」から参戦。変身するとキュアマリンになる。ファッションや服のデザインが趣味。

性格は喜怒哀楽が激しく、おせっかい焼きで相手をぐいぐい引つ張るムードメーカー。その性格ゆえのトラブルはよく起きる。自分の身長とスタイルに悩みを持つ。誰とでも仲良くなれる性格であり、特につぼみに気を使っている。家族のためにもお金は持ち帰る。

スキルはココロパフォームでキュアマリンなつて戦う。戦闘時は水の力を使い、相手に合わせた戦い方が出来る。使えるものがあつたら使う。こちらもココロパフォームの能力は制限されています。

足の速さはやや速めで、戦闘では水の力を使つて戦う。ミッションは近かつたら行く&自首狙い。

・明道院いつき

「ハートキャッチプリキュア！」から参戦。変身するとキュアサンシャインになる。生徒会長を務める文武両道の女の子。

外見が男の子っぽく見えるので、よく女子からアプローチを受ける。穏やかな性格で常に笑顔を絶やさない。礼儀正しく敬語を話す。真面目に見えるが、実は女の子らしく可愛いものが大好き。つぼみやえりか、プリキュアキャラやおっとりとしたキャラとは仲がいい。家族のためにも逃げ切り狙い。

スキルはシャイニーパフォームでキュアサンシャインになつて戦う。

戦闘時は日の力を使つての技が多く、自身が覚えている武術や防衛技を使いこなすとほぼオールマイティ。言うまでもなくシャイニーパフォームはココロパフォーム同様に制限あり。

足の速さはかなり速めで、戦闘では日の力と武術を使つて戦う。ミッシヨンは必ず行く。

#### ・北条響

「スイートプリキュア」から参戦。変身するとキュアメロディになる。運動センスが抜群の女の子。

甘いものが大好きで明るくておつちよこちよいだが、負けず嫌いで曲がつた事が大嫌い。活発に見えるが、寂しがり屋で泣き虫な一面も。幼馴染の奏とはケンカする事がよくあるが、心の底ではお互いを信頼している。奏やプリキュアキャラ、自分と同じタイプの子は仲がいい。主人公キャラやリーダー格キャラとは気が合う。

スキルはキュアモジューレでキュアメロディとなって戦う。前に出て戦い、奏との連携攻撃を繰り出して戦う。諦めが悪く、最後まで粘る。モジューレの使用は制限があり。

足の速さはかなり速めで、戦闘では格闘戦と連携技を使う。ミッシヨンは必ず行く。

#### ・南野奏

「スイートプリキュア」から参戦。変身するとキュアリズムになる。お菓子作りが趣味。

しっかり者で周囲から頼りにされているが、実は努力家で納得のいかないことは決して譲らない一面を持つ。猫の肉球が大好き。幼馴染の奏とはケンカする事がよくあるが、心の底ではお互いを信頼している。響やプリキュアキャラ、自分と同じタイプの子は仲がいい。食べ物の差し入れをよくしており、食べる事が好きなキャラから気

に入られている（特に響や大食いメンバー）。

スキルはキュアモジュールでキュアリズムとなつて戦う。前に出て戦い、響との連携攻撃を繰り出して戦う。諦めが悪く、最後まで粘る。モジュールの使用は制限があり。

足の速さは普通で、戦闘では格闘戦と連携技を使う。ミッションは必ず行く。

「なのはチームから（7人）」

・高町なのは

「エース・オブ・エース」の称号を持つ最強の魔導師。魔力があり得ないほど高い。

明るく優しい性格で強い正義感を持つが、辛いこと、悲しいことを抱え込んでしまう癖がある。他者のために頑張る癖があり、それが原因で衝突がしばしば見られる。親友のフェイトやはやて、なのはキャラや自分と同じ性格や魔法キャラとは仲がいい。怒らせると危険。少し、頭冷やそうか？

スキルは砲撃系魔法をメインに他の補助魔法や防御魔法も使いこなす。攻撃重視なので一発貫つと危険。何の前触れもなしに発動なんてザラ。念のために説明ですが、なのはチームは魔力と戦闘能力が高いのでかなり抑えています（特になのはは死人が出る恐れがあるので大幅にダウン）。武器の使用は特定の条件下のみ。

足の速さは少し遅めで、戦闘では魔法をフルに活用。ミッションは必ず行く。

・フェイト・T・ハラオウン

なのはに並ぶ魔術師の少女。なのは同様に強い魔力を持ち、なのは、

はやてとは親友。

クールに見えるが、心優しい少女であり、強い意思と頑固な一面を持つ。少し運に見放されやすい所が目立つ。なのははやて、なのはキャラや自分と同じ境遇のキャラとは仲がいい。周囲の変化にビツクリしている模様。

スキルは接近戦や広範囲の魔法を駆使するだけじゃなく、電撃を使う。サポート系や防御系が弱いのが玉に瑕。こちらも制限あり。

足の速さは普通で、戦闘では魔法と電撃を駆使する。ミッションは積極的参加だが、運がどうなるかで左右されがち。

・八神はやて

闇の書の主であり、守護騎士ヴォルケンリッターを従える魔導騎士なのは、フェイトとは親友。

ある事がきっかけでヴォルケンリッターの主になる。明るくて前向きで心優しいが、心に抱え込む癖がある。関西弁をよく話す。その性格ゆえに誰とでも仲良くなれる。面白い事には喰いつきやすく、おっぱいマニアである。

スキルは遠距離や広範囲、遠隔発生と後方支援が多い。頭を使って戦う。体力面は致命的に低い。もちろんの通りに制限はあり。

足の速さはかなり遅く、戦闘では支援に努める。ミッションは他人任せ。

・スバル・ナカジマ

機動六課に所属する少女。なのはの後輩であり、ティアナの友人。前向きで能天気なムードメーカーだが、意外と内気で気が弱いところもある。はやてと同じくおっぱいマニア。なのはを尊敬しており、魔法や武器の扱いや発動などの研究、トレーニングはしっかりとする。こちらこそ誰とでも仲良くなれ、特にティアナとは親しい間柄。

スキルは籠手とローラーブーツを装備し、格闘技を駆使して戦う。チャレンジ精神があり、とりあえずやってみるかと思敵やミッションには怯まない。

足の速さはかなり速く、戦闘では前線に出て戦う。ミッションは必ず参加。

#### ・ティアナ・ランスター

機動六課に所属する少女。なのはの後輩であり、スバルの友人。プライドが高いが、面倒見のいい性格でスバルのフォローをしている。いろいろと縁があるスバルとはなんだかんだいってうまくやっていってる。過去の挫折や劣等感、ある事がきっかけで人と話す事が少し苦手で、スバルや一部のキャラとしか話さない。

スキルは拳銃を使つての攻撃や幻術魔法を駆使する。後方よりであり、狙われると危険。当分の間は逃げて隠れてやり過ごす。

足の速さはかなり速く、戦闘は後方での支援。ミッションはハンターが怖いので行かない。

#### ・シグナム

はやてを守るヴォルケンリッターのリーダー。ヴォルケンリッターのまとめ役であり、はやてとヴィータの保護者。

生真面目で責任感が強く、考えが武人らしい。男勝りでありつつも、女性らしさもちゃんとある。はやての胸のマッサージに悩まされている。はやてやヴィータの暴走、さらに似た部類の人がいるので苦労している模様……。

スキルは剣と炎を使いこなす接近戦のスペシャリストでフェイトを倒すほどの力を持つ。他者の助太刀にも参戦する。

足の速さは速めで、戦闘は言うまでもなく接近戦重視。ミッションは必ず参加し、はやてに關係する事は優先的になる。

・グイータ

ヴォルケンリッターのアタッカー。ヴォルケンリッターの問題児であり、はやてとシグナムがいないと暴走する。

勝気で自由奔放で少しわがままな部分があり、勝手に行動する一面があるが、根は芯が強い心優しい少女。特定の人にしか懐かない。スキルは武器のハンマーや遠距離技、防御面にも優れたオールラウンダー。なのはやシグナム以上の実力がある。

足の速さは遅めで、戦闘は好戦的。ミッションは行かない。

「ぷよぷよチームから（7人）」

・アルル・ナジャ

「ぷよぷよシリーズ」から参戦。魔導師の卵の女の子のボクっ子。明るく天真爛漫でサバサバしたちよつと毒舌の女の子。いろいろな変人（？）に狙われているも、持ち前の運と根性で何とか乗り切る。魔法の素質は十分あり、上位クラスは扱えるが、たまにミスって別世界に飛ばされる時も・・・（これがきっかけでアミティやソニックとは知り合った）。アミティやソニック、ぷよキャラや魔法キャラとは仲がいい。逃げ切ったらカー君とカレーの旅に行く模様。スキルは持ち前の魔法で勝負。ピンチな時にも持ち前の運や根性で乗り切る時もあるので名は十分知れている。

足の速さは普通で、戦闘では魔法を駆使する。たまに思い切ったの行動や運もプラスにも。ミッションは必ず行く。

・アミテイ

「ぷよぷよファイバーシリーズ」から参戦。プリンプタウンの魔導学校に通う女の子。赤ぷよ帽が特徴。

勉強は嫌いだだが、魔法の方には一生懸命である。明るくて活発で前向きな女の子だが、たまに奇妙な行動をとる時も。魔法の素質はアルル同様に十分あるが、たまにミスって別世界に飛ばされる時も・  
・（これがきつかけでアルルやソニックとは仲良くなった）。アルルやソニック、ぷよキャラや魔法キャラとは仲がいい。

スキルは自分が習得した魔法で勝負。威力も強いのでぷよキャラにも制限があり（一部の条件では使用が可能）。

足の速さは普通で、戦闘では魔法を駆使する。機転を働かせる時もあるので油断は出来ない。ミッションは必ず行く。

・ラフィーナ

「ぷよぷよファイバーシリーズ」から参戦。お嬢様であり、アミテイのライバル。

高飛車かつ高圧的な態度をとり、自分が一番じゃないと気が済まない性格。守銭奴。成績優秀だが、魔法は扱えず体術を使う。腰のポーチで体術の力を魔導力に変換している。一部のキャラと気が合い、クルークとは犬猿の仲。

スキルは体術メイン。接近戦を特化しており、たまにアイテムを使う。

足の速さは速めで、戦闘では接近戦特化。ミッションはお金関係以外他人任せ。

・シグ

「ぷよぷよファイバーシリーズ」から参戦。虫が好きなマイペースな少年。



常にボーっとしており、常にマイペースの天然ボケ。目の色が違う事と手が違う事を気にしない。基本、誰とでも仲がいい(?)。スキルは魔法を使って戦う。外見に似つかず、強力な魔法を繰り出す。考えが分からないので相手や味方も困惑する。足の速さはかなり遅く、戦闘では魔法を使う。ミッションは他人任せ&自首狙い。

#### ・クルーク

「ぶよぶよファイバーシリーズ」から参戦。成績優秀なアミティの同級生。

自意識過剰で嫌味で他者を見下しているため、敵を作りやすい。独特な笑い方が特徴。レムレスを尊敬しており、危険な魔法に手を出している噂が……。常に一人であり、ラフィーナとは犬猿の仲。スキルは強い魔法と最上位の魔法を使って戦う。才能はいいが、調子に乗っての自滅もある。足の速さは遅めで、戦闘では独自で習得した魔法で勝負。ミッションは行かない&自首狙い。

#### ・レムレス

「ぶよぶよファイバーシリーズ」から参戦。光の属性・彗星の魔導師。

甘いものが好きでお菓子を振る舞う人当たりのいい性格。発言や行動が原因で胡散臭く見られる。誰とでも仲が良く、特に家が食べ物屋のキャラとは仲良し。後輩のフェーリとは仲がいい。

スキルは魔法メインで白魔法や黒魔法を扱う。魔法にも制限かけられているも、本人はそれを気にしない。

足の速さはかなり速く、戦闘では魔法を状況に応じて使う。ミッションは必ず行く。

・フェーリ

「ぶよぶよファイバーシリーズ」から参戦。占いとまじないと黒魔術が趣味のゴスロリ少女。

自分の世界にどっぷり漬けているダークな少女。先輩のレムレスに恋しており、彼に近づく女の子は誰であろうとどんな理由であろうと容赦しない。奇声と妄想が原因で周囲がちよっと引きかける時も（一部例外あり）……。その部分がない時は基本誰とでも仲良し。

スキルは黒魔術と占いのサポートタイプ。ダウジングで探しものは朝飯前。

足の速さは遅めで、戦闘ではサポート系の魔法。ミッションは興味ない（レムレスからの頼みがあると必ず行く）。

以上。計51人

## 逃走者情報その2 (後書き)

「おまけ」ハロウィンの日に出したかったネタ  
つぼみ&えりか「トリック・オア・トリート! (部活で作った魔女  
の衣装)」

リンク「はい、お菓子のカボチャプリン。新作の衣装? 似合ってる  
よ!」

響&奏「リンクさん、お菓子といたずら、どっちがいい? (服装が  
猫又&二人で作ったケーキと店の新作)」

リンク「あ、ケーキありがとうございます。」

ゼルダ「リンク、トリック・オア・トリート? (セクシーな衣装で  
登場)」

リンク (姫からどっちもほしい・・・ (赤面))

リンク「次は誰が来るかn」

ヤンリン&ネス「リン兄ー! デッド・オア・アライブー!! (ジエ  
イソンの格好でお菓子を強請る&二人が通った道にはマリオとファ  
ルコとレムレスとココとファルコンとスネークとその他もろもろの  
屍)」

カービィ「菓子もろともお前を食わせるー!! (般若のお面を被っ  
て奇襲&狙いは料理のあるキッチン)」

アイク「肉食いてえええええええええええええええええ!! (関係ない)」

リンク「・・・ (笑顔でマスターソードを取り出す)」

ドガゲスバキボカドゴベキィ！（話し合い中の音）

リンク「ヤンリンとネス、ハロウインはお菓子を貰うは合っているけど、それは強奪です。マリオさんやファルコさんたちに謝ってきなさい。カービィは前々からつまみ食いにするなと言ってたのを忘れてないよね？アイク、おまえは場の空気に乗るな（説教モード）」  
ウルフ「流石、フォックスと並ぶ初代代表する子守の達人（Xの子守担当）」

補足：リンクとフォックスは子供組の面倒を見ている設定です（D  
Xではファルコ、Xではウルフが加わった）

コメントとお気に入りの登録をしてくれた皆さんにありがとうございます！

感想やお気に入り登録は大歓迎です！初めてですが、よろしく願います

さらに補足ですが、プリキュアキャラは変身すると能力がグーンと上がる＆なのはキャラは通常時は私服で逃走。

次は本編突入と同時にオーブニングゲーム！

## オープニングゲームは運を頼りに（前書き）

祈里「オープニングゲームが始まったわ！」

うらら「のぞみさん、りんさん、かれんさん、くるみさん、頑張ってください！」

ほのか「先輩として応援しているわ」

マルス「リンク、剣士組リーダーとして頑張って！」

アイク「・・・無理すんな」

ロボット「アツ！カイシデス！！！」

シャマル「それではどうぞ（案内）」

## オープニングゲームは運を頼りに

りゅーと「みんな来てくれたんだね！じゃあ、恒例のオープニングゲームでもやっちゃいますか？」

ピーチ「あら？あれは・・・」

ウォッチ「ヤッパリティバンノコレデスネ・・・」

ソニック「Oh・・・」

かれん「あららららら・・・」

レムレス「来たね・・・」

逃走者全員の前にあったのは52本の鎖が入ったボックス。ボックスから出ている鎖の色は単色の色もあれば、ラメを使っているものもあり、二色以上の色を混ぜた鎖もある。逃走者はゲーム前にこの多くある鎖から一本引かないといけない。

しかし、そのうちの一本は異様に長く伸びており、その先には4体のハンターが入ったボックスをロックする門に繋がっている（鎖とハンターボックスの間は20m）。このハズレを引いた瞬間、門は外れ、ボックス内にいるハンターが一斉に放たれる・・・！

全員がこのゲームに挑戦し、ハズレを引くことなく鎖を引くのに成功したらクリアとなり、ハンター放出までの時間を3分間与えられる。

本家でも恒例のオープニングゲームの鎖引きは事前に用意されたくじ引きで決まる・・・。

このくじ引きでも逃走中の運を左右する・・・。

アルル「ボク、10番!」  
アミテイ「ラッキーセブンの7番目!」  
ナナ「私は2番ね・・・(最初ね・・・)」  
舞「23番。中間ね。」  
マリオ「俺は44番。不吉だ;」  
はやて「29番やな。ぼちぼち」

オープニングゲームのスタートを切る最初の逃走者は・・・

のぞみ「私だよ!行ってくる・・・!」  
1番目は夢原のぞみ・・・

りん「のぞみー!変なのを引いちゃだめだよ!」  
つぼみ「最初でドボンはやめてくださいね!」  
マリオ「一応逃げる準備でもしておくか」  
のぞみ「どつという意味よ!?!」

ボックスから少し離れた場所にいる逃走者の野次を適度に相手した

後、彼女は鎖のあるボックスの前に立つ。  
夢の名を持つプリキュア5のリーダーが選んだのは……

のぞみ「髪の毛と同じこのピンク（アザレア色）で……！」  
全員（すっげー単純だー……；）  
のぞみ「凄い失礼なことを考えてるでしょ……もうっ！行くよ……！」  
ティアナ「ちよつと待って……心の準備が……！」  
のぞみ「そーれ……！」

アザレア色の鎖を握りしめて気合を入れて引くのぞみの姿に残された逃走者は大慌てで逃げる準備をする。  
クリアかハンター放出か……！

ジャラ……シーン



のぞみ「セーフ・・・みんなー、私はクリアしたよ」

くるみ「ちよっと！予告もなしに引かないでよ！ビックリしたですよ！！」

咲「心臓に悪すぎる！ハンター以外の恐怖を出さないでよ！」

かれん「のーぞーみ・・・」

のぞみ「あれ、何で怒ってるの？」

ネス「落ち着こう；クリアしたつてことは逃げられるんだよね？」

のぞみ「あ！じゃあ、行ってくる！みんな、頑張つて！」

そう言うとのぞみはその場から離れて西エリアの方へ向かった。

なお、ハンターの放出が無かった逃走者は先に逃げる事が可能で、離れた場所からのスタートが可能だ。だが、ゲームは続くため、残っている逃走者はクリアかハンターが放出されるまで居続けなければならぬ。

次は・・・

ナナ「あたしの番！」

2番目はアイスクライマーのナナ・・・

ポポ「ナナ、よく考えて選んで！」

カービィ「最初だからまだ大丈夫だと思う・・・（怖い）」  
ピカチュウ「運が頼りだ。鎖の権利は俺らじゃねえし」  
ヨッシー「ちなみに色はどれですか？」

多少の覚悟を持つ少女はボックスの前に立つ。内心の不安を抑えつつ、残された鎖を選ぶ。

氷山登山家の片割れが握った鎖は・・・

ナナ「パステルカラーのピンク！」

ドンキー「理由はウホ？」

ナナ「あたしが集めているグッズと同じ色だから！」

フェイト「イメージカラーのはありがちだもんね。準備を・・・」

ナナ「いくよ！えいつ！」

意を決した彼女は鎖をボックスが倒れるかの勢いの如く強く引つ張る。尻もちをつきそうになるも、後ろを振り向く。  
クリアかハンター放出か・・・！

ジャラ！・・・シーン

ナナ「うわわ・・・！結果はセーフ・・・！」

いつき「ナナも大丈夫だね。」

クルーク「ひやひやした・・・；」

リンク「セーフだと分かってもまだ緊張感が・・・」

ナナ「じゃあ、行ってくるね！ポポやみんなも頑張ってる！」

ポポ「うん！僕もそっちに行くから！」

スバル「うーん、青春で微笑ましいな」

フォックス「俺か・・・」

3番目はフォックス・・・

ウルフ「狐、絶対に引くなよ？」

ファルコ「リーダー、ヘマすんじゃないやねえよ？」

レッド「頼むからセーフで!!!」

フォックス「俺に変なプレッシャーを与えるな!!!」

嫌なプレッシャーに苛立つスターフォックスのリーダーは残された鎖を一通り見るとそのうちの一本を手取る。  
フォックスの持つ研ぎ澄まされた瞳に映った色は・・・

フォックス「白だ」

ヤンリン「理由は？」

フォックス「俺の直感が「これだ」と言ってた」

シグ「あやしそー；」

舞「ハンターが出そうで怖い；」

フォックス「お前ら黙ってる！！」

自分を雑に扱う逃走者達に切れたフォックスは周囲の反対を押し切って白の鎖を引く。

クリアかハンター放出か・・・！

ジャラ！・・・シーン

フォックスの引いた鎖はセーフ。しかし・・・  
フォックス「よし！セー・・・ぎゃあああ！！！！罅體マーク付き  
だー！！」

ガノン「おい！何してるんだよ！！」  
オリマー「という事は・・・」

フォックスが引いた鎖の先端には罅體マークが付いていた。罅體マ  
ーク付きの鎖を引いてしまった場合はペナルティとしてハンターボ  
ックスを2m前進する。こうなるとハンターに捕まるリスクが一段  
と高くなる・・・！

ゴゴゴゴゴ・・・と鳴り響く音に残された逃走者は青ざめる・・・。

ヴィータ「2mって、あんなに近づけるのかよ!？」

奏「凄く近くにいるんだけど・・・」

デデデ「足が遅い人は捕まるゾイ・・・」

トウーン「フォックスの馬鹿ー！」

なのは「何してくれるのよー!!」

フォックス「知るかー!!ああもう、俺は逃げるぞー!!」

フォックスが先に逃げた後、ゲームはまだ続く・・・  
その後・・・

- 4 番目のルイーダが緑を引いてセーフ
- 5 番目のりんが赤を引いてセーフ
- 6 番目のつばみが黄色を引いてセーフ、しかし罠マーク
- 7 番目のアミティが金を引いてセーフ
- 8 番目のレムレスが青を引いてセーフ、しかし罠マーク
- 9 番目のいつきがラメ入りイエローを引いてセーフ
- 10 番目のアルルがゼブラを引いてセーフ
- 11 番目のシグナムが紅白を引いてセーフ、しかし罠マーク
- 12 番目の奏がパールホワイトを引いてセーフ

ラフィーナ「私の番ですわ！」  
13 番目はラフィーナ・・・

ゼルダ「このあたりで出てきそうに怖いわ……」  
フェーリ「距離は12メートル……！」  
ソニック「構えておいた方がいいかもな……」  
ラフィーナ「13って嫌ですわね……」

不吉な数字の番に順番が回ってきたは成績優秀で良家のお嬢様で知られるラフィーナ。

怪しげなフラグが立つ雰囲気を選んだのは……

ラフィーナ「臙脂色でお願いしますわ……」

ひかり「念のために聞きますが、理由は……」

ラフィーナ「ここには居たくないからよ！！早く終わらせたいわ！！」

響「いつになったら、終わるの……」

ラフィーナ「覚悟はしましたわ！」

ハンターが出てもおかしくない雰囲気にはラフィーナは鎖を引いた……。

クリアかハンター放出か……！

ジャラ！・・・ガコーン！！！！

ラフィーナ「放出・・・！？」

スバル「来ちゃったー！！！」

ファルコ「逃げるおおおおお！！！」

ラフィーナがハズレの鎖を引いた瞬間、ハンターボックスのかんぬきが外れた！

かんぬきが外れた音が響くと、残っていた逃走者達は全員逃げ出した！ボックスから出てきたハンターが目につけたのはもちろん・・・

ビーーーーー

LOCK ON RAFFINE



もちろん、至近距離にいたラフィーナだ。だが・・・

ラフィーナ「ここで捕まる私じゃありませんわ!!」

持ち前のスピードでラフィーナは後ろを見ずに全力疾走で前へ進み、東エリアへと走り出す。即座に建物の陰を利用したため、幸いにもハンターの視界から外れ、スタートと同時に確保は免れた。だが、ターゲットを失ったハンターが目につけたのは・・・

ビーーーーー

LOCK ON DONKYKONG

ドンキー「俺かウホー!!?」

ドンキーだ・・・。

大急ぎで走るも、そこは障害物のない道。その上、直線。彼も速く

走るが、ハンターから振り切るのは容易ではない。徐々に距離を詰  
められ、最早、逃走不可能……。

ドンキー「スタートからこれはないー！！！」      ポン

99:02      ドンキーコング確保      残り50人

ドンキー「しよっぱなから牢獄かー！！デイデー、すまーん！！  
つて、牢獄に俺がいるウホ!?」

りゅーと「捕まると自動的に牢獄に転送されるんだ。はじめて起動  
させてみたけど、システムは異常なし!!」

なお、確保された逃走者は自動的に牢獄に転送されます。捕らわれ  
たジャングルの王者のその姿はまさに動物園でよく見られる猿コ  
ナーだ……。

ドンキー「誰かこっちに来いウホー！！俺だけだと寂しいし!!」  
涙」

プンプンプン!

プリン「メールが来たでしゅー!」

確保情報は全ての逃走者にメールで伝えられる。

マリオ「ドンキーが捕まったのか・・・」

フォックス「始まったか・・・！」

つぼみ「ハンター怖いです・・・」

シグナム「すごい緊張する・・・！」

ピーチ「どこのエリアに逃げようかしら・・・」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが・・・

R u n F o r M o n e y 逃走中

舞台は作者が作りだした特殊な国「ドリームワールド」。

その国は文明が栄えた国で、多くの自然や独自で発達した文明はエリアごとによって環境や地域が違う。ドリームワールドにあるエリアは全部で5つ。東エリアは森が占めるエリア、西エリアは海が占めるエリア、南エリアは店が多く立ち並ぶエリア、北エリアは遺跡が残されているエリア、中央エリアは住宅街が建ち並ぶエリアとなっている。

ドリームワールドのエリア面積は東京ドーム7つ分とあり、逃走者はこの国内を逃げ回る。

カービィ「うわぁ〜！おいしそうな食べ物があるペポー！！」

ティアナ「東エリアは森ね。そこに逃げましょう・・・！」

ウルフ「遺跡って俺様が出た場所で懐かしいな。後で行ってみるか」

ソニック「町で軽くランニングと行っておきますかつと！」

アミティ「うわぁ〜！凄いきれいな海だー！！修学旅行が懐かしいなー。」

クルーク「1秒で200・・・400・・・600・・・」

ガノン「逃げるだけで稼げるなんてこれはいい・・・！」

ヨッシー「逃げ切ったら、おいしいものを食べたいですー!!」

賞金は1秒ごとに200円ずつ上昇。100分間逃げ切れれば120万円を獲得出来る。

えりか「ある程度貯まったら自首でもしようかなー？」

シグ「30万ぐらいでいいやー」

ルイージ「自首は考えた方がいいかもね・・・」

更にこのゲームは自首も出来る。各エリア内にある公衆電話から自首を申告すれば、その時点の賞金を獲得しリタイアとなる。

ハンター「・・・」

但し、エリアには4体のハンター。捕まれば失格・・・賞金は0円・

・  
・

彼らから逃げ切るのは容易ではない・・・

はたして、逃げ切れるのは誰か・・・？

## オープニングゲームは運を頼りに（後書き）

「確保者の言葉」 1人目：ドンキー

デイディー「アニキー・・・」

ドンキー「俺をそんな目で見るなー！！これはある意味酷いぞー！！」  
キャラ「最初の確保は辛いですもんね；牢獄トークを待ちましよう  
ね。」

シエゾ「ほれ、バナナをやるから一発芸でもしろ」

ドンキー「ふざけんなー！！（怒）モグモグモグモグ・・・」

ドラコ「食べるなよー！！」

次はミッションを発動

最初のミッションはこれで！（前書き）

エレン「タイトル通りにミッションが来るのね。最初はどつするかしら？」

ロイ「お手並み拝見で見せてもらうぜー。ありよ？」

ドンキー「・・・（放置とバナナが無くなった事で隅っこでいじける）」

ゆり「誰かいないとああなっちゃってるのね・・・」

りんご「ほら、リンゴあげるからどうぞー。リンゴだけに」

ピチュー「木の実あげるでチュー！おいしいよ！」

ドンキー、食べ物差し入れに0.1秒で復活！！（早えーよ！

ルカリオ「さっきの落ち込みはどこに行ったんだ！！」

サタン「さー、見てらっしゃい寄ってらっしゃい！世界で一匹しかない喋って踊れるゴリラだよー！見物料は200円でs」

ミュウツー「商売するな！！（サイコキネシス」

サタン「ぎゃーっす！！」

ラファイナ「本編をどうぞ！後ろは放置でよろしくてよ？」



## 最初のミッションはこれで！

エリアに散り散りになった逃走者達。彼らは限られたエリア内に身を潜め、ハンターの追跡から逃げる。一瞬の気の緩みは時として命取りとなり、死を意味する・・・。

カービィ「あー・・・お店に置いてある饅頭やドーナツが美味しそうー！！食べたいー！！」

南エリアを歩くカービィは露店の物を見ていた。食べ物に弱い彼は美味しそうな匂いを放つお菓子やカラフルなパッケージのお菓子に目を取られる。大好物の食べ物になるとカービィは目を輝かせて涎を垂らす。しかし、売り物を勝手に食べるのはよくないのでお金を持っていないことを悔やむ。

露店の物に気を取られてしまい、背後から接近している黒い影には気付いていない・・・

ハンター「・・・！」

ビーーーーー

LOCK ON KIRBY

背後から接近するハンター。徐々にスピードを上げるハンターとカービィの距離はあっさりと詰められ、最早、逃走不可能……。

カービィ「試食のだけでもいただきますー」      ポン

97:14      カービィ確保      残り49人

カービィ「ハンター、いつの間にか来てたペポ……（涙）。せめて、試食のパンだけでもお願……ああー！！！！（強制転送）」

伝説の星の戦士、ハンターと食べ物に敗れる……

♪♪♪♪♪！

はやて「『確保情報、カービィ確保。残り49人』カービィ君、食い物にきいとられたんやなあ〜？」

デデデ「星のカービィチームは我輩のみゾイ……メタナイトに怒られるぞ……」

響「あららら……今日は我慢しなきゃ！（南エリアにいる）」

ハンターは常に神出鬼没。どこから現われるか分からない。彼らは逃走者を見つけると確保に向かう。黒き影は逃走者を確保する役割に徹しており、逃走者を見失うまではしつこく追い続ける……。逃走者には安息はない……。

フォックス「どこからハンターが来るか分からないからな……」

ポポ「ナナ、どこにいるのかな……？距離は十分離れているけど……」

ゼルダ「リンクの無事を祈りましょう……！私ももちろん逃げます！」

行動力のあるフォックスとパートナーを探すポポとゼルダ。三人は西エリアの棧橋に向かい、偶然にも橋の中心で合流した。

フォックス「お、お前らはパートナーを探しているのか？」  
ゼルダ「ええ・・・」

ポポ「いつもナナが一緒だったから・・・。凄い不安・・・。」

他愛のない会話をする三人。しかし、そこにハンターが接近。

ハンター「・・・」

ポポ「ここは見通しがいいから気を付け・・・ハンターいる！」

ゼルダ「えっ？本当だわ！！」

フォックス「逃げるぞ！」

ハンターを見つけた三人は大急ぎで場を離れる。幸いにも相手はこちらに気づいていないようだ・・・

ネス「お金を手に入れたら、欲しいゲームやバットでも買おうかな？あと、妹のトレーシーやママ、パパにもプレゼントも・・・」

中央エリアの住宅街にいるのは超能力少年のネス。彼は賞金の使い道を考えており、親孝行をしようと考えている。持っているPSI

を制限されている彼は普通の少年と変わりない。  
物陰から様子を窺いつつ、移動をする。慎重に行動するネスに・・・

ハンター「・・・」

ハンターだ……。前方や横を確認するネスはハンターの接近に気が付いていない。

ハンター「・・・！」

見つかった・・・！

ビーーーーー

LOCK ON NESSES

ネス「こっちの方は・・・うわっ！？ハンター！！逃げないと！！」

いち早くハンターに気付いたネスは大急ぎで走り出し、建物の影や曲がり角を利用しながら逃げる。常にリンクなどに悪戯をして日ごろから走り回っている彼は地の利を使った逃走は朝飯前。「来るな」と願い、後ろを振り返る。

ネス「よしっ……！」

うまく撒いたようだ……

ゲームが開始して時間がまだ経たない頃、逃走者はハンターを警戒しながら身を潜めたり、道を走る。肉体や精神が削られつつある彼らに……

ピピピピ！

ワリオ「メールだ！『ミッション1』……」

フェーリ「『各エリアにハンターボックスを4個ずつ設置した。』

という事は20個もあるの!？」

ソニック「残り時間80分になるとボックスの扉が開き、ハンターが放たれる。」うげえ……」

いつき「阻止するには横にあるレバーを二人同時に下げないといけない。」へえ……」

『ミッション1』ハンター放出を阻止せよ!

エリア内に20個のハンターボックスが設置された。一つのエリアにつき、ボックスは4個。残り80分になるとボックスの扉が開き、ハンターが放出される。阻止するにはボックスの横にある二つのレバーを同時に下げ、封印しないといけない。このミッションをクリアするには逃走者同士の協力が必要だ。

ひかり「これはやります!中央エリアからやりましょう!」

ピカチュウ「面倒なミッションが来たな……」

リンク「増えるのはごめんだ!行くぞ!」

アルル「ボクは行くよ!」

奏「行くに決まってるでしょ！大量放出だけは嫌！」

ピーチ「動きたくないけど、せめて近くのだけはしましょう。」

レムレス「ここは協力が必要だ・・・！誰かを呼ばなきゃ！」

なのは「これはしないとね・・・！行くよ！」

のぞみ「りんちゃんに連絡して・・・！」

ルイージ「流石にこれはまずい・・・！」

ウォッチ「トナリノエリアカラコウリヤクシマショウ！」

ミッションに動くのは行動力や責任感のある者や先を考える逃走者達。彼らは自分がいるエリアや近くのエリアにあるハンターボックスに向かう。

しかし、4体のハンターに見つかるリスクを冒して進まないといけない。危険を顧みずに行く者もいれば・・・



ラフィーナ「さっきの疲れが残ってるからパス・・・(ゼーゼー)」

ティアナ「開始早々から二人消えてるから嫌・・・!」

シグ「自首したいからパス」

くるみ「誰かがしてくれるんじゃないかな？私はこのミッションはしない」

ヴィータ「あたしはこの場所から動きたくないぞ!!行きたくねえし!!!ミッションやって捕まってる!!」

ガノン「これは誰かがやるだろうな。俺はパス。」

つぼみ「ハンターは怖いです・・・!!!」

ハンターの恐怖で動けない逃走者や他人任せの逃走者もいる・・・。  
残り80分になるまでハンターの封印ができるのか・・・!!!

プリン「どこにあるんでしゅか・・・？ハンターボックス・・・？」

東エリアにいるプリンはハンターボックスを探そうと森の中を歩く。スマブラチームの中でも足の遅いプリンは一歩一歩が走ってるが、誰が見ても歩いているようにしか見えない。ハンターに見つかることを確保は確実。しかし、プリンはミッションに貢献するため、危険を冒してでもボックスの封印は果たすと決めている。

昼間でも日が届かない場所に進む彼女は泣きたい気持ちをグツと堪え、周囲を見渡す。その思いは実を結び・・・

プリン「あつたでしゅ！」

密集している木の陰にある二つのレバーが見ついた銀色のボックス。それは逃走者がミッションで探していたハンターボックス・・・。プリンは大喜びするも、あと一人の協力者が無いとこのボックスの封印は出来ない・・・！

プリン「あと一人来てほしいで・・・！？」

ガサツ！！

背後の草むらから響く音。その音は静かすぎる森の一角に響き、プリンの耳に響き、その音に彼女は硬直して動けなくなる・・・。心の声で「誰がいるんでしゅか・・・？」と呟くも、相手が答える

わけがない。その音は何度も響き、草むらを大きく揺らす……。味方が……。？ハンターか……。？それとも……。？

ウルフ「あの猫はどこに行きやがったんだよ……。俺様を電話で呼ぶなり……。ん？プリン？」

プリン「ウルフしゃん~~~~~!!!」

ウルフ「お、おい!!!どうしたんだよ!!!？」

現れたのは同じスマブラチームのウルフだった。味方の誰でもよかつたが、特に一番仲のいい人が現れた事に彼女は緊張の糸が解れ、同じ逃走者の胸に勢いよく飛び込む。

プリン「驚かせないでください!!プリン怖かったんでしゅよ!!!」

ウルフ「俺のせいだよ……。ん？その後ろのは……」

プリン「プリンが見つけたんでしゅよ!!!手伝って!!!」

ウルフ「え……。？ああ……。？」

目の前にある脅威を消そうと二人は横にあるレバーに手をかける。そして……

ハンターボックス封印

残り19個（東エリア残り3個）

プリン「ありがとうでしゅー！」  
ウルフ「これでいいか？じゃあ・・・」ウルフ、やってくれたんだ  
！！」

厄介事に巻き込まれる前に去ろうとする一匹狼の前に現れたのはト  
ウーン。彼の登場にウルフはぎょっとし、プリンは笑顔になる。声  
の持ち主は彼だったらしく、どうやらトウーンもミッションに参加  
しようとしていたのだ。彼の手には携帯が握られており、番号の画  
面が表示されている。

実は先ほど、ウルフはトウーンにミッションの誘いの電話をかけら  
れたのだ。同志の存在にプリンは笑顔になり、トウーンも「偶然に  
も隠しトリオがそろったね！」と彼女に抱きつく。なじみのあるメ  
ンバーの再会に、プリンの先ほどの不安が嘘のように吹き飛ば  
きやあきやあとはしゃぐお子様に手を引っ張られる無口な狼の彼。  
だが・・・

ウルフ（俺様は参加するとは言ってねえぞ！つか、お前が一方的に  
電話をかけてきて、勘違いしたのだから！！！）

（数分前）

ウルフ「ミッション？」

トウーン「うん、一緒にやろう！」

ウルフ「(面倒だな・・・)表にあるものもあれば、隠れている場所にもあるからな・・・」

実はここに来る前、トウーンからの電話でミッシヨンの誘いの電話が来たのだ。こういう面倒な事が嫌いなウルフは断ろうとしたが・

ウルフ「地形が悪いから俺様はパ「来てくれるの!?!」・・・え?」  
トウーン「一緒に参加してくれるんだね!やったあ!」

ウルフ「え?あ・・・;」  
トウーン「僕さ、東エリアにいるから来てくれる!絶対にだよ!」  
ウルフ「ちよつと待てー!!!俺は・・・「ガチャ」・・・行くか;」

「

こんなやり取りがあったのだ(笑)。

泣き出すと厄介であるため、軽くて済まそうと思ってもプリンに遭遇してしまったため、断りにくくなってしまったのだ・・・。

ヨッシー「どなたかいなんですかー!?!」

一方、中央エリアではヨッシーが大通りで偶然にもハンターボックスを見つけたのだ。緑の恐竜はもう一人の協力者を得ようと周囲に誰がいないかと走り回る。しかし、そんな彼の近くにハンター……。

ハンター「……」

スバル「ボックスってどこにあるのかな？って！ヨッシーだ！！」  
ヨッシー「あ！スバルさんですー！」

ハンターが近くにいる事に気付いていないヨッシーの前に現れたのは機動六課のスバルだ。元気よく手を振る彼女にヨッシーも同じく手を振る。

スバル「ヨッシーが見つけたの！？すっごいじゃん！」  
ヨッシー「大通りに偶然にあったんですよ！下げるのを手伝ってくれますか？」  
スバル「いいよー！」

さっそくとミッションに取り掛かる二人にハンターが徐々に接近してくる。ハンターを減らせる事に喜ぶ二人は忍び寄る危険に気付いていない……。

ヨッシー&スバル「せーの!!」

ハンターボックス封印 残り18個(東エリア・中央エリア残り  
3個)

同時に・・・

ハンター「・・・!」

見つかった・・・!

ビーーーーー

LOCKON YOSHI SUBARU

ヨッシー「次はどこに行きましょう・・・って!ハンターが来てます

「逃げましょう！」  
スバル「嘘でしょ!?!」

至近距離でハンターに見つかった二人は大通りの先にある分かれ道へ走る。ヨッシーは右の道、スバルは左の道へ逃げる。ハンターも同じように逃走者を確保に向かうため、二人のどちらかが逃げた道を走る。

狙われたのは・・・

ヨッシー「私ですかー!!?!?えええー!!!!」

ヨッシーも持ち前の運動能力で走り続けるも、至近距離で見つかったため振り切れない。最早、逃走不可能・・・。

ヨッシー「うわわわわー!!」      ポン

92:56      ヨッシー確保      残り48人



ヨッシー「何でこうなるんですかあ〜！せつかく、封印したのにー  
！！食べ物の夢が……」

クルーク「メール……？」

ワリオ「『確保情報、ヨッシー確保。残り48人』マリオファミリ  
ーキャラは何してんだよ！！」

スバル「ヨッシーが捕まっちゃった……！」

りん「スマブラチームは何やってるのよ！！もうっ！」

咲「10分で三人ってまずいよ……！しかも、大食い組だし……  
」

リンク「ハンターに見つかったのか……！これは早く動いた方が  
いいぞ！」

くるみ「結局はこうなるのよね……」

ヴィータ「こいつら、完全にバカだ・・・！ミッションなんかすると捕まりやすくなるんだよ！！さっさと捕まれ！！」

残り時間が90分を切ろうとしている時、封印できたボックスはわずか2個。残り80分になると封印できなかつたボックスからハンターが放出される・・・！

はたして、間に合うのか・・・！

最初のミッションはこれで！（後書き）

「確保者の言葉」 2人目：カービィ 3人目：ヨッシー  
サムス「任天堂珍獣動物園？」

三匹「うおい！！つか単位がおかしい！！」

こまち「あらあら、珍しいわー」

エリオ「種族を言っと・・・ゴリラ、恐竜、リトルグレイ（酷）」

カービィ「ふざけるなペポー！ついでにぼくの餌は毛虫以外ならOK！」

ヨッシー「私はドルピックタウン産のマンゴージュースでお願いします！」

ドンキー「バナナオンリー！！」

スネーク「誰かこの動物園という名の牢獄を黙らせるー！！」

キャロ「と言うか、この牢獄に人が来ないと凄いさびしくなりますよ・・・」

アコ「あ・・・気付いた」

アイテムは多くあるので元ネタは分かるかな？（前書き）

ドクター「ネタばれすると今回は確保者はいない。」

三匹「がーん！！」

ルルー「相当放置プレイがきついよね……」

クツパ「前書きに十分なスペースがあるから小ネタでもどうぞ」

「小ネタ」伝説の戦士の見つけ方

ハミィ「先輩、先輩。プリキュアの見つけ方を教えてくださいニヤ。

」

メップル「プリキュアの見つけ方？君は新しいサポートキャラメポ

？やり方は簡単だメポ！まずは素質のある子を見つけて……おー

い、そこの君ー！」

なぎさ「ん？あたし？」

ハミィ「あ、女の子が気付いたニヤ！まずは素質がある子だニヤプ

ね！それで？それで？」

メップル「素質のある子に目をつけたら……」

メップル「僕と契約して、光の使者になつて」

なぎさ&タルト「どぞのQBの真似をするなあああああああああ

あー！！つか、プリキュアにさやかがいるからやめれー！（ハリセ

ン」

メップル「ぎゃああああああああメポー……！！……！！」

ハミィ「ツツコミの強さも大事だニヤ！」

フレプリの美希さんの声とまどマギのさやかの声は同じ人です。あ  
ら？色も同じだ。ついでにポジションm(殴

アイテムは多くあるので元ネタは分かるかな？

残り80分になるまで18個のハンターボックスを封印しないとハンターが18体追加され、その数は22体となる……！  
はたして、全てのボックスを封印できるのか！？

シグナム「舞、行くぞ！」

舞「せーの！えいっ！」

ひかり「なのはさん！」

なのは「OK！ひかりちゃん！」

ルイージ「これでよし……！」

咲「西エリアの1つ封印成功ナリー！」

リンク「ボックスを見つけた！」

デデデ「もちろん行くゾイ！」

のぞみ「りんちゃん、こっちー！」

りん「よっしやー！封印！」

響「ここで諦めたら女が廃る！」

ヤンリン「リン兄やトウーンに続けるぜー！」

ネス「ピカチュウ、見つかる前にやるよ！」  
ピカチュウ「わぁってるって！」

いつき「お願いします！」  
ウォッチ「ハイ！」

ミッション1のメールが届いてから逃走者達はハンターボックスを封印しようと動き始めた。逃走者達は近くにいた同志に声をかけたり、携帯で連絡を取り合つての合流と迅速に行動をする。しかし、ハンターボックスの位置は伝えられていないため、自力で探さないといけない。

だが、一つのエリアに絞つたり、目についたものを片っ端からやっていくと積極的に動き、シグナムと舞が南エリア、ひかりとなのはが中央エリア、ルイーダと咲が西エリア、リンクとデデデが南エリア、のぞみとりんが西エリア、響とヤンリンが中央エリア、ネスとピカチュウが南エリア、いつきとウォッチが東エリアのボックスを封印し、残り10個となった（東エリア残り2個、西エリア残り2個、南エリア残り1個、北エリア残り4個、中央エリア残り1個）。

ソニック「アミティ、見つけたぞ！急げ！」  
アミティ「ソニックが早いつてばー！！！」

ハンターボックス封印 残り9個（東エリア残り1個、西エリア残り2個、南エリア残り1個、北エリア残り4個、中央エリア残り1個）

さらにソニックとアミティが東エリアの明るい開けた場所でハンターボックスを見つけ、その数を減らしていく。全力疾走で走るソニックについて来れないアミティはレバーを下ろすと同時にその場へあたり込む。

アミティ「ちよつと疲れたー……。休もうよー！」

ソニック「アミティ、そんな程度で弱音を言っていると残れないぜ？逃走中はSpeedが命だぜ？」

アミティ「こっちの身にもなってよねー！そう言えば、ボックスっていくつかな？」

ソニック「うーん……。分かん。お、メールだ」

ミッション1の最中にメールが届いた。確保メールかと思う彼らが画面を開くと意外なものが書かれていた。

かれん「何かしら？『通達1』……」

レッド「『全てのエリアに宝箱を無数設置した。』『宝箱って？』」



ラフィーナ「その宝箱の中には逃走中を助けるアイテムが入っている。』本当!?!」

通達1: アイテムを手せよ!

たった今、エリアに無数の宝箱を設置した。その宝箱の中にはゲームを有利に進めるアイテムが入っている。なお、宝箱は地上に設置している訳ではないので、意外な所にもある。その際に逃走者が持つ一部の技や能力の使用を認める。

アルル「マジで!これは探さなきゃ!」

ピーチ「欲しいわね……。ついでにもらっておきましょう!」

ファルコ「アイテムか……。持つておく必要があるな。」

ティアナ「欲しいけど、ハンターがいるから嫌……」

ヴィータ「あたしは行かねえ……。!取りに行った瞬間にハンターに捕まるってオチだろ!ミッション同様に向かうそいつらもバカだ……。!」

通達のおかげで逃走者達は希望を見出し、宝箱を探しに行く。ずっと動かなかった者達も「逃げ切りには持っておこうかな?」「アイテムがあれば、ミッションに参加できるかも」と立ち上がり、動き出す。しかし、ミッションは続いている事は忘れてはいけない。アイテムはあくまでも救済処置だ。

オリマー「宝箱ですか……。今いるエリアにありますでしょうか?」

場の空気を変えるメールが登場してから数十秒後、西エリアの港にいたオリマーはあるものを見つける。

オリマー「あれ?海の底に何か沈んでいる?」

西エリアの漁港を歩くオリマーが見つけたのは浅瀬に沈んでいた宝箱。その宝箱は手を伸ばせば届くものの、柵から乗り出さないといけないため、誤って転落してしまう恐れがある。しかし、彼はそんな事を気にせず、すぐにある行動に移す。

オリマー「こつこつのは彼らの出番!青ピクミン!」

ピクミンを呼び出すと宝箱に向かって青ピクミン二匹を投げる。水に強い小さな生物は宝箱を運搬すると近くの栈橋の方に持っていき、オリマーを呼ぶ。「お疲れ様」と頭を撫でてあげると彼は宝箱を開ける。

オリマー「これはチーム回復だまですね。効果は・・・同行している逃走者の疲労やダメージを回復する。持っておきましょう。」

当たりと言えるアイテムを見つけた宇宙の運び屋は次のアイテムを見つめるように近くを歩く。また、怪しそうな場所や重たいものなどは他のピクミンで切り替えると対応が可能だ。こういうときに能力が使えるのはありがたいのだ。

同時に他の逃走者も持っている能力や道具で宝箱から入手していく。

ヤンリン「フックショット！中身は・・・パンがたくさん！？ツタージャのミニ蒸しケーキいちごにポカブのミニ蒸しケーキチョコにミジュマルのミニ蒸しケーキにミルホッグのチョコチップメロンパン・・・全部のポケモンパンが入ってるー！！？」

咲「って、PANPAKAPANの新メニュー！？ひええー！！これは捕まったらやばいナリ・・・」

なのは「シャトー・ロマーニ・・・これさえあると魔法が使い放題

だね」

フエイト「ウサギずきんね。ハンターに見つかった時に持っておいた方がいいわね。」

奏「双眼鏡を入手！もう一つ見つけたわ。ん？チュチュゼリー……」

レッド「中身は……おとしあなのタネ！よしっ！」

はやて「捕獲ネット発見したで！効果は足止めだけ？これで十分や！」

アルル「魔法で落として……！中身は……ゲキカラスプレーが3回分！もーらい！」

中身は逃走に有利なアイテムがあり、ハンター撃退用のアイテムもある。入手した逃走者はガッツポーズをし、すぐに使う者もいれば、いつ使うかと考える者もいる。それを武器にハンターボックスを探しに行く者も増えた……。

ピーチ「どこかに宝箱はないかしら？」

西エリアで宝箱を探す彼女はハンターを警戒しつつ探す。意外な所にあるかもしれないと探しつつ、辺りを見回す。すると、ベンチの下に宝箱があった。すぐに見つかった事に喜ぶキノコ王国の姫君は宝箱をベンチの下から取り出し開けた。しかし、入っていた物は・

ピーチ「あら？特殊ハンター戦用スター……？特殊ハンター……？」

見つけたのはご存知無敵アイテムで有名の星。しかし、スターは通常でも使えないように規制がかかっており、ロックがかけられている……。これは一体……？

さらに別の場所でもピーチと同じように規制のかかったアイテムを見つけた者もいた。彼らの手には……

のぞみ「あたしの持っているハンマーが使えないよ！どーして!？」

レムレス「こつちも見つけたよ（ボム兵）。あれれ？使えないや？ん？説明書だー！えーっと・・・ボム兵は攻撃用アイテムで特殊ハンター戦のみに使用可能？（逃走中用に一部のアイテムは改良しています）」

アミティ「特殊ハンター・・・？」

ソニック「アミティ、ちょっと怪しくねえか？俺もアイテムで捕獲ネットとファイアフラワーを見つけた。捕獲ネットは使えるけど、Flowerの方はNoだ。」

フェーリ「あの作者の事だから、嫌なミッションを考えていると思うわ。一応は持っておきましょう。」

かれん「それと、アイテムには一部のキャラ専門のものもあるみたいだし、交換や譲ってみるのもいいかも。どせいさんは誰が使うのかしら・・・？」

使用が可能と特定条件下での使用が可能なアイテムの存在に疑問を

浮かべる一同。それと同時刻、別の場所ではりゅーとがミニノートを持っており、耳に付けているインカム型通信機で誰かと会話をしていた。画面には逃走中の映像が映し出されており、逃走者の活躍や不正をしつかりと見ていた。走り回る各世界の逃走者達に彼女はにっこりと笑みを浮かべる。

りゅーと「みんな、ちゃんと動いてるねー。最初のミッションはこういう風に軽めだけど、簡単には取らせないわよー？ミッションで失敗するかハンターに捕まるからって？だってさ……」

そう言うと彼女は画面を切り替える。画面には複数の映像があり、その一つ一つに謎の人物が……。画面には誰かの顔の一部が映し出されており、全部で四つ。四人だ……。着々とミッションを貢献するネスやリンク、のぞみ達の映像なども彼らの目に入っている。すると四人のうちの一人が口を開いた。

「……1「逃走中つーのは見た事あるけど、ここまで本格的にやるとはなー。あの中に俺の娘と同じ年の子もいるし、ちよっと戦いづらいなー……」

「……2「あなたたつて人は……。この依頼を引き受けたのはあなたの考えもない行動からですよ、……1さん。」

「……1「そこまで言わないでよ、おじさん、ちよっと悲しくなっちゃう。だけど、この人数やエリアなら俺らでも戦えるし、それに能力もフルに使えるぜ！なっ？」

「……2「確かに。僕達の能力が十分に生かされる地があるのは嬉しいです。しかし、僕達の出番が来るまではかなりの後半ですよ？たとえ残っていても撃破が出来るかが問題ですよ。」

最初の人物に相槌を打つかのように横にいた人物も適度に話をする。お互いの性格や素質に問題があるように見えるが、傍から見ると仲のいいように見える。それに合わせるかのようにりゅーとも会話に参加する。

りゅーと「結局は全員と戦う事になるけど、単品でも強いのにセツトだと全滅もあり得るわ。単独行動も可能だけども、トップバッターは誰が行くの？」

「???3「最初は私が行こう」

「???1「おっ、???3が最初に行くのか？」

何かの話し合いをしていると映像を楽しく見ていた別の人物が名乗りを上げる。この立候補に先ほどの二人も興味を示し、話を聞く。話の中心となったその人物は通信機に向かって「能力の使用に制限がないなら、私の能力が得策だろう」と具体的な作戦を語りだす。その作戦は語られる口を持つ本人にとっては自信があるとも言える。

「???3「全エリアを集中的に攻撃すれば大丈夫・・・」

「???4「???3さん、あなたが一人で行くと死人が出ます。僕も同行します。」

「???3「え？何で？戦って倒す依頼な、あなたの能力、殺傷能力が十分にありません；こっちにも被害が出ます；」

全員が賛同している時、ずっと黙っていた最後の人物が待ったをか



ける。その作戦は確実に成功するも、万が一のデメリットを考える  
と両方にも大きな被害を被ってしまうのは確実にだと思われたのだろ  
う。その言葉に???2も「ありえますね・・・」と冷静になって  
考える。りゅーとの方も「???4の言うとおりにちよつと考えな  
おそう・・・」と嫌なシナリオが見えたのが目に見える。

りゅーと(そーいや、こいつはとんでもない事をしてしまうからス  
トッパーを用意した方がいいわ。)

???3「いや、加減が出来るよ???4君・私は一般人にも手を  
あげる事は流石に・・・」

???4「だったら、僕の家を崩壊させたのは誰ですか?僕が台所  
の黒い悪魔が出て来て大騒ぎになった時に遊びに来た???3さん  
は「強盗か!?何があつた!」と窓から突撃と同時に能力で僕の  
家を半壊させたのはあなたですよね?(睨)

???3(・・・)

明るい声で話す???3の話に毒を吐くかのように???4はビシ  
バシと言いまくる。このやり取りに三人は「???4、すげえ・・・  
」と傍観するばかり。しかし、ミッションの時間も減っているので、  
無駄な事には時間を使いたくはない。

???1「俺からのお願いだ。???3は???4と組んで行動を  
しろ。???3がメインで???4が裏で行動をすれば、大きく撃

破も可能だぜ！こういう時には???4の能力が便利だよな。」  
???2「???3さんが暴れた分、行動が出来ます。それに??  
?4先輩の作戦も・・・」

りゅーと「待つて。???4も前に出てもらうわ。???4には少  
しの程度の手助けしか出来ないけど、これをベースに手を加えちゃ  
えば、少ない動きであつちに大きいダメージを狙うことだって可能  
よ?。」

すると、りゅーとはミニノートのキーを強く叩くと、???4にの  
みあるデータが送られる。そのデータが送られると受取人はすぐに  
データを開き、中身を流す程度に読む。だが、これを見た瞬間、?  
???4は「そうか・・・」と何かを見出す。

???4「これなら僕も出れます。場合によっては???3さんの  
能力をフルに活用させるだけじゃなく、両者の被害も抑えられます。」

???3「じゃあ、私も出てもいいのか!」

???1&???2「うん!」

りゅーと「じゃあ、???3と???4の二人は準備を!残りの?  
???1と???2はトレーニングやスーツの点検をして!」

???1「いつちよやるか!」

???2「はい!」

りゅーとが裏で何かを計画している中、ゲームは着々と進んでいる。

•  
•  
o

アイテムは多くあるので元ネタは分かるかな？（後書き）

「確保者の言葉」なし

カービィ「もうちょっと出たかったペポー！そしたら頑張れたのにー！！」

ヨッシー「このミッションはやる気があつたです・・・」

ドンキー「俺も動けば大丈夫だったウホ・・・」

りゅーと「もうちょっと粘れば、アイテムも手に入って活躍や逃げ切りも・・・」

カービィ「食べ物入手がしたかつたんじゃあああああああああああああー！！」

ヨッシー「大食いは負けられませんのにですー！！！！」

ドンキー「もうちょっと牢獄の方もピックアップしてくれー！！腹減ったー！！！！」

りゅーと「食べ物狙いかよ！？」

りゅーと「言っておくけど、食べ物系のアイテムの大半は回復系に分類されているから、大食い組が放たれると今後のミッションで悪影響を及ぼす！次の話までに大人しくしてなさい！」

カービィ「えっ！？もう終わり！？」

りゅーと「当たり前よ！あたしはミッションや通達などで忙しいからねー！じゃっ！！」

ヨッシー「横にいてもいいからちよつとー・・・」

ドンキー「俺らは動物園で飽きられているから作者いてくださいー！マジでー！？」

- ・ 牢獄からの言葉を無視し、彼女はミニノートを持ってどこかへ行く・
- ・

はらり・・・ん？何かが落ちたようだ・・・  
「特殊ハンターの情報」ヒント1：ジャンルはアニメ枠

## 急げ！急げ！（前書き）

今回の小説は前の話と合わせて1話分だったのですが、長すぎたため分けて投稿しました。あと、キュアノアさん、報告ありがとうございます。ちゃんと訂正をしましたのでご確認を。  
ちゃんと説明文の確認をしなきゃな自分；

急げ！急げ！

一方、場所は変わって北エリア。北エリアには遺跡や遺跡跡地が無数にあり、地形の状態が悪い。ハンターには見つからない可能性は高いが、移動の面で不便なエリアに行くのはよっぽどの事ではない限り誰も向かわない。

だが、北エリアにはある二人の人物がいた。一人は・・・

響「宝箱のアイテムが欲しいなー・・・どこにあるのー・・・？」

北エリアの遺跡周辺を歩くのはスイートプリキュアのキュアメモデイこと北条響。先ほど、ミッションに貢献した彼女はアイテムを探そうと遠くに来たのだ。一つでも多くのアイテムを持っておこうと軽い足取りで道を歩く。そんな彼女の前に・・・

響「草むらの中に怪しげな箱が！？これが宝箱・・・！」

心の中でガッツポーズをする少女はダッシュで箱のもとに駆け付ける。レアアイテムを希望する彼女は笑顔で箱を勢いよく開けた！  
中身は・・・！！！！

宝箱の中身：パーティグッズ用のうこの帽子&ひげメガネ



響「べしい!!!(叩きつける)」

ちなみに宝箱の中身はハズレやトラップがありますので要注意。  
響「最初にそれを言ってよ!!！」

一気にどん底に叩き落されたプリキュアとは余所に北エリアにある  
自首用の公衆電話にシグはいた。ゲーム開始時からこの場所を見つ  
けた彼はずっと動かないでいた。ぷよフィーの新主人公でデビユー  
を飾った少年の狙いは……

シグ「早く自首したいな」

自首だ……。

自首はエリア内にある自首用の公衆電話から自首を申告すれば、ゲ  
ームからのリタイアとなり、その時点までの賞金が獲得となる。賞  
金を獲得する方法は逃げ切り以外にもある。だが、ハンターに確保  
されると賞金は0……!

シグ「んー・・・30万円ぐらいあれば大丈夫かな？それまでの間に虫さんを探そうっと！」

マイペースで目標金額に達するまでに大好きな虫を探す彼はミッシヨンに見向きもせず公衆電話前に居続ける・・・。

ウルフ「なあ、北エリアの遺跡に行かねえか？」

トウーン「んにゃ？」

プリン「遺跡でしゅか？」

他のハンターボックスを探すウルフ、トウーン、プリン三人は目に付いた宝箱を開けながら開けた広場で話し合いをする。ちなみにウルフはビームソードと赤いクスリとかみなりドツカン、トウーンはスピードブーツとさかさまキノコ、プリンはチューインボムとスパイクロークと多くのアイテムを手に入れている。

十分すぎるアイテムの入手に暫し考えたスターウルフのリーダーは別ので入手したいちごとうぶを食べながらある考えを浮かべる。同じようにいかりまんじゅうを頬張る小さな勇者とTAKO CAF Eのたこ焼きを食べるポケモン界の歌姫も耳を傾ける。

ウルフ「いや、遺跡に行けばハンターボックスとレアアイテムが入った宝箱があると思う。ちょっと危険だが、やってみないか？（苺と豆腐がマッチしてねえ・・・）」

トウーン&プリン「お宝探しの冒険!？」

ウルフ「たとえ、変な場所にあっても俺らの能力で取りに行けるだろ?どうだ?」

トウーン「ダンジョン攻略は好きだよー!」

プリン「任せてください!プリンも頑張るでしゅ!」

一致団結した隠しトリオは休憩を済ますと今いる東エリアから北エリアへと向かった。

ヴィータ「あー・・・かつたりいー・・・」

一方、中央エリアではにじファンでは評判の悪いヴィータがゲーム開始時からベンチの下に隠れていた。ヴォルケンリッターのアタッカーはミッションにも貢献しないうえに他の逃走者に対して罵倒や暴言を吐くなどと態度が酷い。口だけ達者である彼女はハンターが増えない事を願う。

ぽんぽんぽん!

ヴィータ「ミッション、クリアメールか！？ん？」

フォックス「『現在封印されていないハンターボックスの数は残り9個。』こんなに残ってるのか！？」

ゼルダ「『そこで封印されていないハンターボックスのあるエリアを通過する。』どこなの！？」

アルル「『東エリア残り1個、西エリア残り2個、南エリア残り1個、北エリア残り4個、中央エリア残り1個だ。』北エリアの方は誰も行ってないじゃん！」

マリオ「ハンターにビビりすぎだろ・・・！」

くるみ「何やってるのよもう！早く全部封印してよね！！」

ヴィータ「ふざけんなよ！時間が少なえのにちんたらしてんじゃねえよー！！」

ミッション終了の残り時間が7分を切ろうとしていた時、逃走者達は封印されていないボックスを封印しようとする。しかし、動くハンターに見つかる危険が高まる！逃走者はハンターの目を掻い潜りながらボックスの封印を目指さないといけない・・・！

さらに誰も手をつけていない北エリアには地形や環境が最悪であり、体力と精神の消耗と引き換えに進めないのだ！誰が北エリアのハンターボックスの封印を行わないと4体のハンターの放出は確定となってしまう！

アルル「こうなったら、ボクが北エリアに行くよ！」

ルイージ「ここは他の人に任せて北の方に行こう！」

咲「うん！レムレスはここをお願い！」

レムレス「僕が1つはやっておくから、北はお願いするね！」

えりか「北の方はまずいじゃん！ちょっと遠いけど、アイテムでうおおー！！！」

スバル「みんな、ちゃんとしてよね！あたしはやってくる！」

リンク「大王、あっちの方に行ってくる！」

デデデ「分かった！」

北エリアに向かうのはアルル、ルイージ、咲、えりか、スバル、リンクの六人。さらに偶然にも向かっていったウルフ達も加えらると合計九人になる……！

さらに一部の者達は他のエリアのハンターボックスを封印するため、

エリア内を駆け回る・・・！

レムレス「西エリアのはどこにあるんだ・・・！」

ファルコ「どこに置いてんだよ！見つかんねー！！」

レムレス「ファルコ、君も探しているの！！よかつたら、僕と一緒に  
に行かないか！」

ファルコ「いいのか！じゃあ、探しに行くぜ！！」

ピーチ「かれんちゃん行きましょう！」

かれん「分かってます！ピーチさん、ハンターには気をつけましょ  
う！」

ピーチ「了解！」

同じエリアに滞在していたレムレスとファルコは西エリアのボックス、かれんとピーチが中央エリアのボックスの封印に向かう。ミッション終了まで間に合うのか！

アルル「ついた・・・つか、体力の消耗がやばい・・・！」

北エリアの奥深くに佇む古代遺跡、そこにはある文明が築き上げた  
巨大な建造物が形となって残っていた。遺跡は豪族の宮殿や王家の  
墓、大きな戦にあった戦場の砦や独立した王国などといくつかの推

測はあった。しかし、その面影は消え去り、建物は長い間雨や風に晒された事によって老朽化され、自生する植物がそれを覆い尽くす。小さな建物は壁や瓦礫しか残っておらず、原型が残っているのはほんの僅か……。

足場の悪い遺跡に魔導師の卵であるアルルが息を切らしながら遺跡にやって来た。広大な歴史の建造物に「あの時を思い出すね……」と言葉を零す。さらに……

えりか「とーちゃーく！あれ？一番じゃないや；」

リンク「お前らもハンターボックスと宝箱目当てか？」

スバル「こんなに来てる！」

ウルフ「面倒だなおい……；」

トウイン「リンクも来てたんだね！」

プリン「これなら大丈夫でしゅね」

咲「一番の……りじゃなかつたナリ……；」

ルイージ「こんなに来てるんだね。」

同じ同志達の登場に全員は驚きと喜びを隠せず、すぐに遺跡の中に入ろうと取り掛かる。だが、大人数で行くと初めて踏み入れるエリアの道筋や出入り口の確保と地形や環境の把握が厳しいので小分けにして行動するのがいいと考えた。ハンターに見つかった時の対策も必要だからだ。

くじ引きの結果、こうなった……

宝箱探し係：スバル、咲、ウルフ  
ハンターボックス係：トウイン、アルル、えりか  
地形把握係：ルイーダ、プリン、リンク

えりか「よっしゃー！いつくよー！」  
全員「おー！！」

効率よく目的を果たすため、彼らは行動を始めた……。  
はたして、うまくいくのか……？

つぼみ「ハンター怖くて動けないです……。…」

南エリアの裏路地で身を潜めるのは花が大好きなキュアブロッサム  
こと花咲つぼみ。彼女はハンターに恐れて、スタート時から個の状  
態だ。やらないといけないのは分かっているが、体が恐怖で動けな  
い……。あの「史上最弱のプリキュア」のフレーズを貰った理由  
がなんとなく分かる……。

つぼみ「何でミッションがあるんですか……。…。ひっ！」



大通りで鳥が空へ羽ばたく音に短い悲鳴をあげて裏路地の奥へ走る。全速力で走る彼女は前方を見ていなかったのか、何かにぶつかる。派手な音を立てて後ろに盛大に倒れる彼女は後頭部をぶつけた。

つぼみ「いたた……。つて、これはハンターボックス!?」

偶然の産物なのか、つぼみの逃げた先には黒づくめの格好をした男が入った銀色の箱……。そう、ミッションの対象物のハンターボックスであり、南エリアの最後のボックスだ……。これを止めれば、南エリアのハンターボックスは全部封印となる。

つぼみ「これは封印しましょう!誰かここに来て……。!」

時間が刻一刻と減る中、つぼみは大通りに誰かが通りかかる事を願う……。

ルイーダ「ハンター怖いな……。それ以前にもみんな大丈夫かな……。?」

リンク「大丈夫だって!それよりも逃げ道の確保はどうだ?」

プリン「出来たでしゅー!お部屋はたくさんあって、隠し部屋はなかったでしゅ。外は……」

遺跡の入り口で待っている地形把握係のルイージとリンクとプリン  
の三人は遺跡の入り口付近と外を散策する。三人の手には簡単な地  
図が描かれた紙があり、気になった点がびっしりと書かれている。  
冒険をしていた彼らにとっては地形の把握や地図の作製は楽であり、  
怪しいものがないかと一つ一つを念入りに調べる。そのおかげか、  
意外な場所にあった宝箱を見つけ出すのに成功。  
最後に先に行ったアルル達の帰りを待ち、北エリアの情報を逃走者  
達に教えるのみ。

プリン「こつちの道はちよつと遠回りになるんでしゅけど、根っこ  
や岩がないので中央エリアに逃げられるんでしゅー！」  
リンク「遺跡の方はちよつと袋小路になっているから隠れ場所にな  
るのとハンターに見つかる行き止まりに追い込まれての確保もあ  
る。そーいや、宝箱は周辺にもいくつかあったけど、中身は？」  
ルイージ「おいしい水となんでもなおしが3つずつ。いる？」  
プリン「ちようだい。プリンはレイガンとスターロッドとリップス  
テッキとー……」

周辺の状況を報告する三人はここまで来るまでの間に見つけたアイ  
テムの交換を行なう。しかし、そこに黒い影が……

ハンター「……」

ルイージ「プリキュアのお店のものやポケモングッズ、スマブラのアイテムがあるねー。どれだけ見つけ・・・ハンターいる!!!」  
プリン「本当!? ちょっと身を潜め・・・隠れる場所がないでしゅ!」

リンク「げえ!？」

遠くにいるハンターを見つけたルイージとリンクとプリン。相手は気付いていないため、隠れてやり過ごすことは可能だが、遺跡の入り口周辺には隠れる場所が少ない。早く行動しないとハンターに見つかって確保される・・・。

リンク「ここは遺跡の中に入るぞ!!!こつちだ!」

大急ぎで入ってすぐの廊下の曲がり角に身を潜めて外の様子を窺う。しかし・・・

三人「ハンターが入ってきた・・・!？」

なんと、ハンターが遺跡に入ってきたのだ。エリア内にある建造物が侵入可能であれば、逃走者はもちろんハンターも進入が可能だ。焦る彼らは奥へ逃げるも、通ってきた道をなぞるかのようにハンターも歩く・・・。すたすと歩く音は狭い通路に響き、三人の耳に嫌というほど入ってくる・・・。

さらにこの遺跡にはスバル、咲、ウルフ、トウーン、アルル、えり  
かがおり、彼らはハンターがいる事を知らない……。ふとした夕  
イミングで部屋から出ると問答無用で確保されるのは目に見える・  
。

逃げ道を奪われた逃走者達、はたして脱出は出来るのか！

逃げ！逃げ！（後書き）

「確保者の言葉」今回もなしー

「小ネタ」時期的に来るあれは子供にとって怖い

ウルフ「お前ら、この俺様から逃げられると思ってんのか？」

リュカ「ふええ・・・」

トウーン「逃げ切れないよ・・・」

逃げ惑うリュカとトウーンを追いかけるのは自分達と仲のいいウルフ。彼は二人を見下しており、いつもの優しい目は獲物を狙う捕食者のように鋭くなっている・・・。

一方の小さな二人の子供は泣きそうになっており、後ずさりをして離れるも、背後は壁・・・。逃げられない・・・。

トウーン「正面突破は無理だよ・・・」

リュカ「捕まっちゃう・・・」

ウルフ「覚悟決めたか？」

ドクター「インフルエンザの予防接種をするから、そこに座ってね。」

ナース「ピーチ「はい、腕を出してねー」

リュカ&トウーン「うー・・・」

ウルフ「これが終わったら、ピーチ姫がお茶会を開くから我慢しろ」

インフルエンザの予防接種です（笑）。こっちはまだ軽い方です。  
え？軽いつてどういう事？理由は・・・

ピチュー「注射、嫌でチュー！！びええーん！！（放電）  
ファルコ&ミュウツー「ぎゃああああああ！！！！」

リンク「ドクター・・・こいつらを捕まえ・・・ガクツ（悪戯をするネスとヤンリンのトラップで大怪我）」

ネス「離せー！！」

ヤンリン「俺は反対だー！！」

ドクター「今回も怪我人が出たか・・・」

遺跡での一難ラッシュ、そしてミッション1終了！（前書き）

「小ネタ」宣伝

マリオ「腹減ったなー・・・スープでも食べるか・・・」

ピーチ姫を救う旅に出ているマリオは空腹を何とかしようと、持っているコインでケ ヲッキーへ向かう。彼が頼んだのはこの冬限定のチキンクリームホットパイのセットを頼む。

マリオ「いただきまーす」

いはいはいはいはいはい・・・

しら（特別出演）「冬はケンタ キーでカーネルおじさんと一緒に  
ジョジョ立ちをするしらですー！！」（スープから登場）

マリオ「ぎゃああああああああああ！！！！しらさん、何やって  
るんですかー！？」

なんと、クリームスープからしらさんが現れたのだ！！突然の事に  
マリオは驚きの声をあげ、椅子から転げ落ちる。

しらさん、ごめんなさい

マリオ「しらさん、どうしたんだよ!? あんた、小説は!」  
しら「おめえのところの作者が小説のネタと出演依頼を出してきたんだよ! 採用と同時に宣伝を頼んだんだよ! 目立つようにな!」  
マリオ「だったら、スープの中じゃなくてもいいだろ!」  
しら「こつちだつて嫌だつたよ!」  
マリオ「そうだよな。こんな出演方法は・・・」

しら「トムヤムクンスープの中から派手に出たかつたんだよおおお  
おおおおおおおおお!」  
マリオ「帰れ!」

しらさんのスマブラ 中もよろしく!  
しらさんの小説では新しいゲームの募集もしていますので、よかつたら募集に協力してみてください?

しら「みんなは真似しちゃダメだぞ」  
マリオ「誰がするか!」



遺跡での一難ラッッシュ、そしてミッション1終了！

トウーン「うにやにやにやにやーンにやーン」

えりか「ボックスを探して旅に出るえりかさま」

アルル「ぶよぶよ4つくつつけると1連鎖」

ハンターボックスの封印を任されたトウーンとえりかとアルル。三人は謎(?)の歌を歌いながら遺跡内を歩く。遺跡内部は壁に口ウソクが一定の間隔を開けながら並ぶように飾られており、一本一本が己の身を削りながら灯りを灯し続ける……。

えりか「ここのお部屋はない……」

アルル「見つからないね……」

トウーン「うにや……」

細い通路を歩く三人は一つ一つの部屋を確認しながら目的のハンターボックスを探す。しかし、部屋に入ってもルーン文字が彫られた壁画の部屋や開けられた石の棺だけの部屋しかないとい結果が得られない。そして、腕に付いている装置を見ると時間が刻一刻と減っていく……。

ハンター放出まであと5分

えりか「時間がまずい事になってるよ！急ごう！」

トウーン「うん！」

アルル「時間ギリギリまでに粘るよ！」

ミッションに参加すると意気込んでいた三人は走りだし、一つ一つの部屋を探す。そして、ある部屋に着くと部屋の中央にハンターボックスが……！

トウーン「見つけた……！やるよ！」

えりか「うん！せーの！」

ハンターボックス封印 残り8個（東エリア残り1個、西エリア残り2個、南エリア残り1個、北エリア残り3個、中央エリア残り1個）

アルル「やったあ！」

えりか「よし、次のも見つけ……」

プリン「大変でしゅー！」

アルル「どうしたの？何があつたの？」

ルイージ「みんな、ハンターが入ってきた！」

トウーン「えっ！」

役目を果たしたハンターボックス係のいる部屋に地形把握係の三人が入って来た。ハンターが接近してきた事を告げるとハンターボックス係の三人はぎよっとなる。そこにコツコツと遺跡内に響く足音が・・・

リンク「来てる！来てる！」

えりか「ここ部屋が狭いのー！」

アルル「静かにして！」

トウーン「お口チャックして！」

ハンター「・・・」

六人は部屋の死角になる場所に一点となって集まり息を潜める。自分達のいる場所に一歩ずつ近づく足音は自分達の命を奪うカウント。それは死の宣告……。ここを耐えれば、逃げる事は可能。耐えられなかったら・・・！  
ゆっくりと通路を歩きながら辺りを見渡すハンターが自分達を見つせずに通り過ぎる事を願う・・・。

ルイージ「へっ・・・へっ・・・」

トウーン「ルイージ、あとちょっとだから我慢して！」

出そうになるくしゃみや息を出す呼吸も命取りとなりえるこの状況。

ついにハンターが自分達のいる部屋の前に来た・・・！

六人（お願い・・・！）

ハンター「・・・」

気付かれなかったようだ・・・

アルル「死ぬかと思った・・・」

プリン「怖かったでしゅ・・・」

トウーン「これ以上長居すると危ないね・・・」

これ以上の長居は危険と判断した一同はハンターに見つからないように忍び足で移動をする。ところが、リンクが踵を返した瞬間、彼がつけている緑の帽子がえりかの鼻を掠めた。ふわりと舞う軽さ、加減のいいスピード、絶妙なかゆみ。その三拍子は海の名を持つプリキュアのくしゃみの発生源にもなった。

えりか「ぶえーくつしよい!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」  
えりか以外全員「!?!」

女の子らしくなくしゃみ。そのくしゃみは狭くて音が反射する遺跡内部に十分広がり、先ほどのハンターの耳に響いた。外へ出ようとしたハンターは後ろを振り向き音の方へ……!

ハンター「……!」

見つかった……!

ビーーーーー  
L O C K O N L I N K T O O N L I N K E R I K A L  
U I G I P U R I N A R L E

リンク「何やってんだオイ!!」

トウーン「ぎにゃー!!こっちに来てるよー!!」

ルイージ「えりかの馬鹿ー!!」

えりか「ごめんなさい!!!!」

ハンターは六人を捕まえようと動き出す。自分達に向かってくるハンターにトウーンとアルルは持っているパワーアップ系アイテムで出口へ走りだし、ルイージとリンクは近くの小部屋に駆け込み、えりかは気合いで走りだし出口へ逃げる。だが、足の遅いプリンはこちらんハンターの標的にされる。

ハンター「・・・!!」

襲ってくる黒ずくめの男に確保されると思われたその時。プリンは懐からあるものを取り出す。そう、ここに来る前に入手したスパイククロークだ。姿を消せるという効果のあるレアアイテムを起動させると彼女は背景に同化してハンターの視界から消えた。

プリン「えいでしゅ!!」

ハンター「!!」

標的を見失ったハンターは追跡の足を止め、辺りを見渡す。ハンターの動きが鈍くなった隙に急いで出口へ逃げる。さらに先ほどの地図で別のエリアへ逃げるルートを割り出し、ダッシュをする事によってプリンは短時間で中央エリアへ逃げる事に成功した。

プリン（ウルフしゃんのトレーニングのおかげで助かったでしゅ・  
・！）

トウーン「ぜえ．．．ぜえ．．．」  
アルル「ハンターは来てないよね!？」

一方、出口に向かって逃げたトウーンとアルルは持っていたスピードブーツとゲキカラスプレーの使用で遺跡の裏へ逃げた。合計10分間だけ早く走れる靴と一時的に攻撃力と移動力を上げるスプレーに感謝しつつ、二人はその場に倒れ呼吸を整える．．．。

アルル「えりかのせいだね．．．ボクの持っているアイテムがあと1回だけだ．．．」  
トウーン「これ以上動けない．．．ん？アルル、これ見て！」

二人の逃げた先には偶然なのか、遺跡の裏にもう一つのハンターボックスがあったのだ。偶然の産物に大喜びする二人は呼吸を整えながら、レバーを下ろす。

ハンターボックス封印 残り7個（東エリア残り1個、西エリア残り2個、南エリア残り1個、北エリア残り2個、中央エリア残り1個）

フェーリ「ふふふん」

遺跡で一悶着があった頃、フェーリはリンクら同様に宝箱のアイテム狙いで同じ遺跡に来ていた。幸いにも遺跡の最深部にいるため、あの逃走劇に巻き込まれずにじつくりと作業に集中している。ちなみに彼女がいる部屋は棺がたくさんある部屋。

明らかにミイラが入っていきそうな石で出来た棺桶でもお構いなしにフェーリは鼻歌を歌いながらダウジングを行う（彼女の占い能力はアイテム探し程度までのレベルに下げています）。

フェーリ「こーゆー場所にはアイテムが多くあるのよ！私の占いは的中するわ！」

こういう場所にもいくつかあると踏んだ彼女は持っている力で一つ一つ開ける。これまでに見つけたのはスピードブーツと捕獲ネットと回避重視のアイテム。万が一、遺跡から出た時にハンターと遭遇したら逃げる事も可能だ。

「手応えあり！」とニッコリ微笑む占いの達人をは「ここで大きな当たりをドーンと当てちゃいましょう！」とレアアイテムを手にして逃走中を有利に進めようとする。そう豪語するとダウジングロッドを構える！



フェーリ「当たり当たり当たり当たり当たり当たり当たり当たり当たり当たり  
たりたりいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい！！キエエ  
ー！！」

完全に奇人と化した彼女はかたっぱしから棺にロツドロかざしまく  
る。少ししか開かないロツドの動きを察知するとすぐさまに次の棺  
に移動し、外れだとすぐに移動と即座に行動を移すと神技を繰り出  
す。だが、ある棺の前に来るとダウジングロツドが大きく開く。

フェーリ「きゃあああああああ！！！！当たりが来たわー！！  
！！これで先輩と一緒に逃げ切れますー！！！！」

がちゃ

ハンター「・・・」  
フェーリ「へ？」      ポン

83:41      フェーリ確保      残り47人

フェアリー「最悪ー！どうしてハンターが来るってことを出なかったのよー！先輩、ごめんなさい！」

別の意味での当たりを引いたようだ・・・

ピュピュピュ！

ひかり「フェアリー確保。残るは47人」また捕まったわ・・・！」

レムレス「フェアリーが捕まった・・・！ぷよぷよから確保者が出た・・・」

クルーク「僕より先に捕まるとはねー？ぷぷっw」

ポポ「同時にフェアリーが北エリアの遺跡にあるハンターが入った棺を開けたため、ハンターが1体追加。」はあっ！？」

ウオッチ「よって、ドリームワールドにいるハンターは5体となった。」トラップニヒツカカツテカクホサレタンデスネ・・・」

ヴィータ「ミッション終了前に余計な事するんじゃないやねえよ!どいつもこいつも欲張りやがって!」

ミッションでの犠牲者と予想外のハンターの追加に逃走者達が声を上げる。大半の人達がフェーリに対して怒りを持っているだろう・・・。それと同時に・・・

ハンター放出まであと3分

ピーチ「中央エリアの最後のボックスはどこにあるのよー!」  
かれん「早くしないと増えてしまうわ!」

ミッション終了時間が迫る中、ピーチとかれんは中央エリアにあるハンターボックスを探す。これ以上の放出は望まない二人は悲鳴を上げる足を無理に動かしつつ、中央エリアにあるハンターボックスの封印を狙う。

ヴィータ「あん?あれは・・・」

ずっと隠れ続けるヴィータの目に入ったのは二人の姿。あまり早くない足取りでどこかへ向かう姫君と水のプリキユアを見て、封印狙いとすぐに判断する。

ヴィータ「あいつら、まだ封印を狙ってんのか？封印しても、どうせ捕まっちゃうんだよ・・・！飛んで火に入る夏の虫だよ・・・！バカが！」

ヴィータに暴言を吐かれている事を知らない彼女達はマンションの一角に同化するように置かれているハンターボックスを見つける。しかし、ボックスの周辺にはハンター・・・！

ハンター「・・・」

ピーチ（さっさと行ってよね！しっ！しっ！）

時間がないというのにハンターがこの場から消える事を願う二人は物陰から様子を窺う。しばらくして、ハンターはその場から離れ、その隙を見逃さずにすぐに封印をする。

かれん「間に合ったわ！」

ハンターボックス封印 残り6個（東エリア残り1個、西エリア残

り2個、南エリア残り1個、北エリア残り2個)

ゼルダ「あれはつぼみさん？どうしたのかしら・・・」

つぼみ「誰か来てー！お願いしますー！」

ハンターボックスを探すゼルダの目に飛び込んだのは裏路地に通じる道から顔を出すつぼみの姿。誰かを探すかのように何度も顔を動かす少女にハイラルの姫君は困っている人を放っておけず、すぐに声をかける。

ゼルダ「つぼみさん、どうしたんですか？」

つぼみ「あ！ゼルダさん、こんにちは！凄く美しいですね！お姫様に会えるなんて・・・」

ゼルダ「褒めてくれてありがとう。それよりも、どうしたの？」

つぼみ「お願いですけど、じつは・・・」

事情を聞くとゼルダはすぐに承諾し、裏路地のハンターボックスの封印に向かう。怪しく佇む銀色の箱の脅威がこれで消える・・・。

ゼルダ「同時に行きましょうー！」

つぼみ「いっせーのでー！」

ハンターボックス封印 残り5個（東エリア残り1個、西エリア残り2個、北エリア残り2個）

ハンター放出まであと1分

ファルコ「まずいぞ！残り時間が1分を切った！」  
レムレス「どこなの・・・！」

西エリアのハンターボックスを封印に目指す、ファルコとレムレスは西エリアを駆け回る。二人の足は限界に近く、ちよつとした段差でも転びそうになる。全部とは言わずに1個でも減らしたい・・・！

ハンター放出まであと30秒

レムレス「30秒・・・！あつた！」  
ファルコ「じゃあ、下ろすぜ・・・！？」

ハンター「……！」

見つかった……！

ビーーーーー

LOCK ON      LEMRES      FALCO

停泊している船の上にハンターボックスを見つけたと同時に二人はハンターに見つかった。予想外の事態に彗星の魔導師とスターフォックスのエースパイロットは倉庫の曲がり角を利用して逃げる。幸いにも振り切れるも、同時にハンターボックスから離れてしまいうえに二人は離れ離れになってしまった……！

ファルコ「あれはもう諦める……！ちっ……！」

1  
.  
.  
.  
2  
.  
.  
.  
3  
.  
.  
.  
4  
.  
.  
.  
5  
.  
.  
.  
6  
.  
.  
.  
7  
.  
.  
.  
8  
.  
.  
.  
9  
.  
.  
.

ハンター放出まであと10秒・・・



プシューーーーーーガコン!!

ムムムム!

フォックス「メールだ!」ミッション1の結果・・・」

ソニック「東エリアと西エリアと北エリアのハンターボックスの封印が失敗したため、ハンターが5体放出された。」Unbelievable!!」

ワリオ「ドリームワールドにいるハンターの数合計10体となった。」残り80分間はハンター10体から逃げないといけないのかよ!!ざけんな!」

ナナ「根気良くやればよかったわ・・・」

いつき「誰かが少しはしたんですね・・・」

ガノン「全部放出よりはましだな・・・あの小娘・・・（怒）」

ティアナ「余計に動けなくなっちゃったじゃん・・・！」

グイータ「15分で15個の封印だど！！？ふざけんじゃねえよ！  
！もうちよつと短時間で全部は出来ただろ！！」

残り80分を切る中、逃走者47人に対し、ドリームワールドにいるハンターは10体となった！  
ミッションの貢献度が今後の逃走中を左右すると十分見えた。ミッションに参加をすれば良かったかと悔む者もいれば、次のミッションは動いた方がいいと意識する者もいれば、ミッションに興味を持たずに身を潜む者もいる・・・。  
しかし、多く増えてしまったハンターの数に逃走者全員が受け入れないといけない・・・。

「ミッション1終了時の結果」

逃走者：47人

ハンター：10体

「アイテム所持者」

ルイーダ：レイガン、おいしいみず、なんでもなおし、北エリアの地図

ピーチ：スター、スーパースコップ

リンク：マキシムトマト、おいしいみず、なんでもなおし、北エリアの地図

ヤンリン：ウサギずきん、おとしあなのタネ、フリーザー、ポケモンパンセット、スマッシュボール

トウーン：スピードブーツ（残り8分）、さかさまキノコ  
レッド：おとしあなのタネ

ピカチュウ：スクリユーアタック、ゲキニガスプレー（未使用で3回分）、ピーピーエイダー

プリン：チューインボム、スターロッド、リップステッキ、おいしいみず、なんでもなおし、北エリアの地図

デデデ：ケセランパサラン、モンスターボール  
フォックス：レイガン、スマートボム

ファルコ：ミックスオレ3つ、オボンの実3つ  
ウルフ：ビームソード、赤いクスリ、かみなりドツカン、遺跡搜索

中・・・

ネス：デクの実、ホームランバット、ボム兵、スキップサンド

ナナ：フリーザー

オリマー：チーム回復だま

ソニック：ファイアフラワー、捕獲ネット

ひかり：ヨツシークッキー、マジックシールド

咲：PANPAKAPANの新作パン、遺跡搜索中・・・

舞：赤のコウラ、ゴールデンハンマー

のぞみ：ハンマー、プリキュアパンセット  
りん：ハリセン、捕獲ネット  
かれん：どせいさん、望遠鏡  
いつき：スマツシユボール  
響：例のパーティグッズ（笑）  
奏：双眼鏡、チュチュゼリー

なのは：シャトー・ロマーニ  
フェイト：ウサギずきん  
はやて：捕獲ネット  
スバル：遺跡捜索中・・・  
シグナム：双眼鏡

アルル：ゲキカラスプレー（あと1回）  
アミティ：バナナの皮、緑のクスリ  
ラフィーナ：ワープスター  
レムレス：カオルちゃんのドーナツ、ボム兵

遺跡での一難ラッシュ、そしてミッション1終了！（後書き）

「確保者の言葉」4人目：フェーリ

フェーリ「私の占いが・・・しかも、クルークに負けた・・・OT  
L」

ドンキー「久々の確保者で喜びたいんだが、近づけない・・・」  
ヨッシー「相当シヨックだったんですね・・・」

カービィ「ねーねー、占いの能力で自分の恋も占ったりしないの  
？」

ザフィーラ「おい、その話題は・・・」

フェーリ「先輩と私の恋は100%ラブラブよ！！私の占いは10  
0%的中よ！なむなむなむ・・・」

ナッツ「ちよつとおい！牢獄がやばい事になってるぞ！！あの子の  
周囲に変なものがあるんだが！！？」

フェーリ「????????????????」（怪しげなポーズと呪文で占い中）  
リュカ「何これ！？何これ！？悪魔を呼ぶ儀式なのー！？」

クロノ「なぜに郵便マーク！！？」

牢獄はカオスですWWW

確保ラッシュ（前書き）

ミウツ「タイトルからして嫌なフラグだが・・・」

ラブ「だって、前回のミッション1があれだったから、ない方がおかしいと思うよ?」

せつな「これは2〜3人は消えちゃうかもね・・・」

シェゾ「無事に逃げ切ってく・・・ぐげえ!この悪臭は何だ!?!?」

一同がいる部屋に謎の悪臭が発生!その悪臭は部屋に生けていたガーベラの花が一瞬にして枯れ、待機中のキャラはその場に倒れていた・・・。

一体、何があったのか・・・!?

## 確保ラッシュ

残り80分を切る頃、賞金は24万を超えた。エリア内には10体のハンター、それに対して残る逃走者は47人……。

シグ「あと少しで30万。やった〜！」

自首までの金額が手に入ると喜ぶシグは電話ボックスの前で捕まえたトンボに紐をつけて遊んでいた。ビンの中にいるお気に入りのお虫を見て喜ぶ彼はハンターが増えた恐怖にも怯まず、ただ腕に付いている装置の金額を見続ける……。おそらく、次のミッションも興味を示さないだろう……。

レッド「60万ぐらいになったら自首でもしようかな〜？ぐへへ」

北エリアにずっと身を隠しているのはポケモントレーナーのレッド。彼はミッション1には参加せず、自首のためにずっと草むらに身を潜めている。積極的なポケモン達に対してこの主人は怠け者だ。この姿を見たら何と言われるのだろうか……。  
賞金の使い道を考える少年の近くに……

ハンター「・・・」

レッド「ポケモンフーズや最高級木の実の買い占め、現在挑戦中のフロンティアやスロットの費用にしようかな？つて！ハンター！」

自分のいる場所に接近する黒スーツの男の存在に気付いたレッドは大急ぎで移動を始める。だが、その姿をハンターが捉えた！

ビーーーーー

LOCK ON RED

レッド「ハンター速い速いつて！・・・あ！あれがあつた！！」

何かを思い出すとレッドは地面に何かを埋める。追いかけてくるハンターは直線的な動きで彼に向って来ており、確保しようと足を動かす。だが、レッドが何かを埋めた場所に足が触れた瞬間！

グシャア！！



ハンター「!?!」

レッド「いよっしゃー!おとしあなのタネ作戦成功ー!」

そう、レッドが地面に埋めたのは宝箱から入手したおとしあなのタネだった。彼は自分の通り道に埋め、自分を確保しようとするハンターの足止めに使ったのだ。突然の事に相手は驚いて穴にはまり、出ようともがくも、穴は思った以上に深く、出るのに時間を要してしまった……。

ようやく穴から体を取り出すも、赤い少年の姿はなかった……。撒かれたようだ……。

ワリオ「あー……。どれだけ待つんだよ……」

ミッションに貢献せずに南エリアのゴミ捨て場付近に隠れるのはマリオのライバルのワリオ。彼は賞金の事にしか興味がなく、ミッションには協力しない。そのせいでハンターが増えたのは事実だろう……。

そんなワリオに忍び寄る黒い影……

ハンター「……」

ワリオ「残り80分はさっさと終わってくれよな……。賞金を  
入手したら、スペシャルニンニクを買って……。ぐあっ！！ハンタ  
ー！！！」

ハンターがこちらの方に歩いてくる事に気付いた彼は反対側の方に  
逃げるも、そちらにもハンター。両脇から迫ってくる黒ずくめの男  
にワリオが考えたのは……

ワリオ「ゴミに紛れてやり過ぎす！！！」

黄色の貴公子はゴミをまもって隠れる。こんなチープすぎる作戦に  
二人のハンターは……

ハンター「……！！！」

見逃す訳がなかった……

ビーーーーー

LOCK ON WARIO

ワリオ「俺は頭がいいぜ！スカポンタンのマリオはこんな作戦は考えないだろうなー？」  
ポン

79:12 ワリオ確保 残り46人

ワリオ「え？終わり・・・？ふがー！！マリオに負けるなんて俺は認めないぞー！！」

逃走中は甘くない・・・

ビュビュビュ！

シグナム「静かにしろ！見つかる！」

デデデ「ワリオ確保。残るは46人。悪役キャラが減ったゾイ・・・」

」

マリオ（笑顔でガッツポーズ）

りん「ハンターが増えたせいだ……！」

ラフィーナ「きゃあああああー！！」  
ハンター「……！」

東エリアの森で一人の少女の悲鳴が響いた。布を裂くような声を上げるのはラフィーナ。彼女は別のエリアへ移動しようと前へ進んだ時、ハンターに出会ってしまったのだ。後ろから追いかけてくる無表情の男にラフィーナは全力で逃げるも、長時間逃げているため体力とスピードは落ちてくる……。

ラフィーナ「これだと捕まってしまう……そうだ！ワープスターがありましたわ！」

そう言うと先ほど入手した星の形をした乗り物を動かして、空へ飛ぶ。空中に逃げられた相手には流石のハンターも追跡は不可能だ。はじめて乗る乗り物に操作の慣れないラフィーナは向かい側の西エリア

へ逃げる。

ラフィーナ「これなら私も逃げられますわ〜！おーほほほほほほほほほほ……」

高笑いして逃げるラフィーナは倉庫の前に着地し、体に着いた葉っぱや枝を払い、乱れた髪を整える。危機を逃れたお嬢様に……

ハンター「……」

ビ—————  
LOCKON RAFFINE

ラフィーナ「これでよし……さ……」 ポン

78:50 ラフィーナ確保 残り45人

ラフィーナ「ここで終わりなんて・・・何かの間違いよ・・・！」

現実是非常なものだ・・・。彼女の確保と同時に牢獄へ転送される  
ところを偶然にも見てしまった者がいた。

ティアナ「ラフィーナが捕まったわ・・・！あわわ・・・」

倉庫内に隠れていたティアナだった・・・。偶然にもラフィーナの  
確保を見てしまった彼女は大急ぎで隠れていた場所から離れる。し  
かし・・・

ハンター「・・・」

ティアナ「って、きゃあああああああああ！！！！」  
ポン

ハンターから離れようとした機動六課の少女に襲いかかった悲劇は  
逃げた先に別のハンターという不幸だった・・・！突然の事にティ  
アナは悲鳴を上げると同時に動けなくなり、その数秒後にハンター  
の手が肩に触れた・・・。

78:43 ティアナ・ランスター確保 残り44人

ティアナ「私何もやっていないのに終わりなの!!?うああー!みんなに怒られるー!!」

ズズズズズ!

フェイト「メールの間隔速くない!?えつと・・・」

ひかり「『ラフィーナとティアナ・ランスター確保。残るは44人』  
二人も!?!」

スバル「ティアー——————!! (涙)」

クルーク「いやったー!あの女も消えた!」

ヴィータ「ティアナの奴、捕まってんじゃねえよ!!動いたら捕まるっていうのに・・・!!」

次々と起きる確保ラッシュに逃走者達は・・・！



確保ラツシュ（後書き）

「確保者の言葉」 5人目：ワリオ 6人目：ラフィーナ 7人目：  
ティアナ

ワリオ「ちきしょー！！何で俺がへなちよこマリオと影地味ルイー  
ジより先に確保されなきゃいけないんだあああああああ！！！！  
ニンニクとレバナラ炒めおかわり！！（やけ食い中）」

ドンキー&カービィ&ヨツシー「・・・（においとおならで気絶」  
フェーリ「・・・（止めようとしたら風上に乗ってきたげっぷの臭  
いで気絶」

ラフィーナ&ティアナ「この牢屋に入るの嫌あああああああああ  
ああああ！！！！（5km避難」

アルフ「おい！この悪臭は・・・ぐばあ！！（狼なので気絶」  
ユーノ「誰か換気をお願いしますー！！！！」

答：今回の話で確保されたワリオのげっぷとおならの臭いです

## 行動とミッションチュー！（違）（前書き）

りゅーと「みんなにお知らせだけど、実習は終わったの。これで更新がしやすくなるわねー。んで、スマブラチームの一部のキャラにフルネームの名前があるキャラがいたから、フルネームに訂正したわ。スタッフ組かな？さてと、次の小説の・・・ん？」

りゅーとが牢獄に行くと牢獄があった場所にパトカーが無数に集まっていた・・・

りゅーと「何があつたのかしら・・・？」

警察「そこ！このエリアに踏み入れない！！」

りゅーと「一体何があつたのよ！？あたしはこのゲームの主催者よ！」

警察「実は近隣の住民から、この噴水広場（牢獄がある場所）で謎の悪臭が発生していて・・・」

救命士「どいてください！重傷者がいます！！（担架でクツパを救急車へ連れて行く）」

保健所の職員「ただいま消毒中です。外に出歩かないでください・・・」

りゅーと「えええー！」

ワリオのやけ食いが原因で警察沙汰に・・・

## 行動とミッションチュー！（違）

フォックス「どうしてもハンターを減らしたいな・・・」

中央エリアの公園のベンチで一休みするフォックスはハンターの多さに悩んでいた。連続で来るメールの数にうんざりしており、彼は「次の犠牲者は自分かもな・・・」と弱音を吐いてしまう・・・。何らかの方法でハンターを減らす方法があればいいのになど悩んでいると・・・

フォックス「うーん、どうしたらハンターは減らせるか・・・ん？」

響「んしょ・・・んしょ・・・！」

フォックス「あれは響・・・？何してんだ？」

スターフォックスのリーダーの目に映ったのは公園の砂場で遊具用のスコップを使って穴を掘っている音のプリキュアの片割れの少女だった。彼女は一生懸命穴を掘っており、ハンターに見つかる事を気にせずに手を動かしていた。

この緊急時に穴掘りに集中している響に近くに行つて声をかけると相手は「うわっ！ビックリした！」と尻もちをついた。驚きようからすると夢中になっていただろう・・・。

響「フォックスじゃん！どーしたのー？」

フォックス「いや、それは俺のセリフだ・穴掘りなんかしてるけど、どうしたんだ？ハンターに見つかるぞ」

響「いやいや、これを見てみてよ」  
フォックス「？」

ふと横を見ると砂場の横にスコップがたくさん入ったバケツがあり、バケツには「ご自由にどうぞ」と書かれた紙が貼られている。明らかにここを掘ってくださいと言わんばかりのアピール感を主張していた。

フォックス「それで？」

響「気付かないの！ここにスコップがあるってことは砂場を掘ってくださいと言っている！穴を掘る・・・つまり、ここにはアイテムが眠っているんだよ！」

フォックス「あ・・・！」

彼女の言葉に彼は意味を理解し、すぐにスコップをとって穴を掘る。「通達のメールの内容が正しければ・・・」と二人は手を動かす。二人が掘った穴は多く、公園の砂場は役目を果たさなくなった。だが、同時に地面からは宝箱が掘り出され、中には青いクスリやハートの器、無敵サングラス、羽ぼうしが見つかった。だが、ある場所を掘った時・・・

カキン！

響「今、音がしたわ！」

フォックス「ああ！響、ここを集中的に掘るぞ！」

響「うん！」

またしても当たりを見つけた二人はその一点をスコップで砂をかき出す。すると、出て来た宝箱は一回り大きいもの。ふたを開けると入っていたのは背中で背負える銃の付いた機械だった……！中身を見た瞬間、響とフォックスは笑顔になった。

フォックス「これは冷凍銃だ！！俺ら、当たりを当てたぞ！」

響「これがあれば、ハンターを1体除外できるよ！」

そう、二人は本家にある当たりのアイテムを見つけたのだ。「冷凍銃」、その効果は本家同様に冷気でハンターを凍らせ、ゲームから1体除外するもの。これを使えば、ハンターの脅威を軽減が十分に出来るだろう……。

ワイワイと喜ぶ彼らに噂のハンターが公園に……

ビーーーーー

LOCK ON HIBIKI FOX

響「来ちゃったよ！やっちゃって！」  
フォックス「もちろんだ！！」

ブシューーーーーー

フォックスが冷凍銃を使用した瞬間、二人を確保しようとしたハンターに向けられた。冷たい冷気のガスは徐々に黒づくめの男の動きを鈍らせ、ついには動かなくなった……。この姿に二人はハイタッチし、お互いの顔を見合わせた。

フォックス「響のおかげだ！ありがとうな！」  
響「いやー、それほどでもー（照）」

いつき「宝箱はもうちょっと欲しいな……」  
ピカチュウ「俺も思う……」

同時刻、西エリアの倉庫を歩くのはいつきとピカチュウ。文武両道の少女とポケモン界の人気者は現在の悪化状況に困惑し、少しでも自分達の負担を減らそうと宝箱を探す。

いつき「ピカチュウ、倉庫に怪しいものはないか調べよう」

ピカチュウ「ああ。だけど、いつき」

いつき「なーに？」

ピカチュウ「なぜに俺を抱っこしているんだ？ 恥ずかしいから下ろせ」

いつき「可愛いから（即答）」

ピカチュウ「・・・」

ピカチュウはハンターに注意しながらアイテムを集めていた。西エリアにある倉庫にいいアイテムがあると踏み、もしかしたらハンターを除外できる例の冷凍中があるかもしれないと考える。その途中でいつきに会い、意気投合をして行動をしている。そこまでは良かったが、可愛いものが大好きな少女にぬいぐるみのように抱っこされ、最初は嫌がったが自分をここまで好意を寄せる彼女の夢を壊さないため、大人しくぬいぐるみようになった。この場面を大きなお兄さん達が見たら、「いつきちゃんの前の中にいるネズ公になりてえよ畜生」という声が飛ぶだろう・・・。

話は戻すが、二人がいる倉庫はエンジンのかかっていないクレーンやトラックが停止し、自分達より大きなコンテナが無数にある。障害物の多さはもちろん、倉庫は昼間であるにも関わらず暗く、自分達が入ってきた入口と吹き抜けの光があっても目を凝らさないと分からない。この使われなくなった倉庫はまるで映画やドラマのワン

シーンにも使われている感じがしており、自分達がテレビや映画に迷い込んだという錯覚に囚われる……。奥の方に行くとマフィアが闇取引していてもおかしくないだろう。黒いサングラスと黒いスーツの男が銃を持って登場してくれるとなおいい。だが、ハンターはお断りだ。

いつき「映画でもマフィアが銃撃戦を行ったりするんでしょうねー。すると国が雇ったエージェントが出て……」  
ピカチュウ「縁起でもない事を言うなって……って、来やがったー!!!」

一步一步、障害物の存在や曲がり角から様子を見て行動する二人の目に映ったのは漆黒の闇に紛れて動く黒い影。それは紛れもなくハンター。最悪な事に相手はこちらに気づいている……!

ピーーーーー

LOCK ON PIKACHU ITSUKI

いつき「これは足の速い私達でも振り切れませんよ!」  
ピカチュウ「落ち着け!スプレーは……よし!使える!!」



襲ってくる黒い影にピカチュウは持っていた紫色の液体が入ったスプレーを向けた！その液体が広範囲に飛ぶと触れた部分から石になっ  
ていき、やがてハンターは石と化して動けなくなった。そう、ピ  
カチュウが使ったのはゲキニガスプレーだ。スプレーに調合されて  
いる特殊な成分が相手を石に変えたのだ。しかし、石化の効果はあ  
くまでも時間稼ぎであり、短時間でハンターの脅威から逃げないと  
いけない……。

二人がコンテナの影や曲がり角を利用してハンターとの距離は変  
わらず、もぬけの殻となったコンテナの中に隠れたと同時に石が砕  
ける音が倉庫内に響く。

いつき「相手はしつこいです……スプレーを使って出口に戻って  
も捕まってしまうかも……」

ピカチュウ「確かにありえるな……。ん？おい、俺らはまだチャ  
ンスがあるぞ。」

いつき「え……？」

ピカチュウ「俺らが隠れたコンテナの中、宝箱がたくさんあったぞ  
……！」

いつき「え？本当だ！」

二人が逃げた先には宝箱が多く設置されていたのだ。数は5つとあ  
り、無機物の箱は逃走者を待っているかのように己の存在を主張し  
ていた。大きさは自分達が見て来た小柄なサイズであり、ハンター  
のトラップはない。運が良ければ、ハンターの脅威から逃げられる  
はず……！

いつき「中身は……ロンロン牛乳とすごいキズぐすり2つと……」



！？君達、見てないよね！？」  
いつき「いえ、見てないですけど・・・」  
ハンター「これが月村様の目に入ると俺殺される・・・！その日記の事を黙ってくれるなら、俺がゲームから除外するからさ！！」  
ピカチユウ「え；あの・・・」「うおおおおおおおおおおおおお  
おおおおおおお！！！」

ハンターは日記を奪い取ると全力疾走で倉庫から出て行った。突然の事に二人は啞然となり、整理するまで時間がかかった。だが、一つ言える事は自分達を確保する相手がゲームから1体いなくなった事だ・・・。

「ハンターって喋るんだ・・・」と空笑いをするいつきとピカチユウの足元にある宝箱にはこう書かれていた・・・

「ハンターが逃げ出さなくなっちゃうほどの秘密の物をお取り寄せBOX」 宝箱の名称であり、アイテムの一部です（簡潔に言っとマリパにあった横取りボックスと同じ効果&ハンター1体除外効果）

咲「これでよし！ここでも絶好調ナリ」  
スバル「ティアー・・・；（涙）」  
ウルフ「・・・」

さらに同時刻、遺跡で宝箱を探す咲とスバルとウルフ。三人は与えられた役割をしつかりとこなしており、持っているアイテムは十分すぎる。後はこれらを持つて、中央エリアにいる先に逃げた六人に合流して情報交換を行なうのみ。

しかし、スバルが友人の確保とハンターによる確保ラッシュで自信を喪失してしまったのだ……。

スバル「ティアが捕まったー……うわーん！」

ウルフ「……（怒）」

咲「友人が消えたのは痛いもんね……ん？ウルフ、どうした……」

スッパーン！

小部屋に響いた済まされた音。その音の発生源はウルフの持つハリセン。厚紙で作られた武器は友人の確保を引きずるスバルの頭に衝撃を与えたのだ。

スバル「う……ウルフ……？」

咲「ちよつとやりすぎじゃないの！？女の子にハリセンは……！」

ウルフ「いい加減に目を覚ませ……！」

マイナスオーラを放つ機動六課の少女にスターウルフのリーダーは

叱咤する。赤い目に睨まれたスバルは泣きそうになり、横にいる金の花の名を持つプリキュアの少女も止めに入る。しかし、「咲、お前は黙ってる!!」と言葉に制されてしまう。

ウルフ「お前なあ・・・友人の確保程度でへこんでるんじゃないよ!! 過ぎた事を悔やんでも、それは過去の事だ! あつちには運が無かったとしか言いようがなかったが、残った奴が頑張らないとどうするんだよ!!」

スバル「だって、ハンターが・・・」

ウルフ「知るか! ハンターが増えたなら逃げるなり、減らすなりと自分なりに努力すればいいだけだろ!! 俺だったら、その単純すぎる答えをやればいいだけだ!!」

スバル「・・・!!」

逃走中の本来の目的を忘れていた少女は相手の言葉で正気に戻った。自分を心配する逃走者の姿にスバルの脳裏にある場面が映った。

それは昔、ある事がきっかけで苦しみ、それから逃れようと無理をしていた自分。そんな自分に真剣に叱咤した人物がいた。その人は自分の憧れの人で、真っ直ぐな瞳で自分を止めると同時に優しい言葉をかける。

そのおかげでスバルは自分に自信を持ち、全力で前へ進むと決めた。最初に決意した思いを忘れないように心に留めているため、今の自分がいる。あの時の自分を真剣に心配してくれた憧れの方は自分と同じ逃走者。あの人に自分の活躍を見てもらうためにも頑張らないといけない・・・!!

スバル「ごめん・・・あたし、どうかしていた・・・」

ウルフ「ふん……今は自分の役割を果たす事に集中しろ」

「ハリセンで叩いて悪い」と謝ると叱咤した彼は本来の目的を果たそうと動く。再び静かになった小部屋に三人は宝箱からアイテムを回収しようと手を動かし、必要なものを持って行く。あと少しで作業が終わる時、ずっと黙っていた咲はウルフに声をかける。

咲「ねえ……ウルフ」

ウルフ「あん？」

咲「ウルフってさ、実はいい人なの？」

スッパーン！

ウルフ「咲、お前もスバルに続いて何言ってるんだー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！」

咲「だってさ、メンバーがあたし達で最初は嫌がってたのにハンターがいらないかと先に行って確認したり、隠された宝箱の見つけ方を教えてくれたり、開けにくかった宝箱を開けてくれたりしてたもん！ー！」

スバル「確かに！アイテムの譲り合い時にあたしに適しているものを譲ってくれたもん！」

ウルフ「ぐっ・・・！それは持ち切れなかったただけだ・・・！！」  
咲「じゃあ、ここに来る途中であたしが怪我した時にキズぐすりを譲ってくれたのは？」

スバル「トウーンとプリンとプリンの我が儘にどうして付き合ってるのかな  
？」

ウルフ「てめえら・・・」

ウルフ「俺様を馬鹿にするんじゃないやねえぞこらああああああああ  
ああああ！！！！（ハリセン乱舞&顔が真っ赤）」

咲&スバル「きゃーおそろしいー（棒読み）」

自分をおちよくる少女二人に切れた狼はハリセンを振り回し追いか  
けまわす。異世界の逃走者との出会いや協力で最初は不安を持って  
いたが、相手の意外な一面を見た事によって互いの緊張感は解れて  
いく。

元々人と接する事が好きな二人は誰とでも隔てずに接しているため、  
人との慣れ合いを嫌う相手にも屈しなかったが、ここまで心配をし  
てくれる相手に心許せるようになった。今回の件を通じて、トウー  
ンやプリンが懐いている理由が十分に分かる・・・。気が付くと暗  
い表情をしていたスバルもいつもの笑顔を取り戻していた。

下らないやり取りやミッションに協力する張本人は言葉にせずに遠  
回りに助けてくれる。他者を完全に振り切らない所もウルフのいい  
ところだろう。そう思っていると、今までの騒音を聞きつけてハン  
ターがやってきた。

ハンター「・・・！」

ビーーーーー

LOCK ON WOLF SAKI SUBARU

ウルフ「てめえらのせいでハンターが来ちまっただろーが！！」

咲「そっちが原因でしょー！どつするの？しかもダブルだよー？」

スバル「フェーリのハズレがここまで響くなんて思わなかったね。  
でもさ・・・」

ウルフ「一応は用心して正解だっただろ？」

二体のハンターが向かって来ている事に焦りを感じない三人。ハンターが特定の距離に入った瞬間、ウルフとスバルが前に出て、咲が横へ一歩ずれる。狼の彼が持つのは冷凍中、機動六課の少女が持つのは捕獲ネット、そしてソフトボール部のエースが持つのはサツサの実。

「おまじならっ」と



ブシューーーーーー パン！ タッタッタ・・・

それは一瞬の出来事だった。最初にウルフが冷凍中でハンターの除外をし、次にスバルが捕獲ネットで別のハンターを足止め、最後に咲が三人にサツサの実で速度を上げる。実はミツシヨンの時のミツシヨンの失敗とフェーリのハンター放出を知った三人は遺跡の脱出が困難となり、最低でも二体のハンターに遭遇すると読めたのだ・・・。

そこで、少しの間だけはアイテムの回収に力を入れ、合流が出来るように計画を立てた。この作戦を考えたのは言うまでもなくウルフであり、二人はその指示を受けただけ。作戦と賭けは見事に成功し、ハンターの除外と足止めを確認すると木の実の効果で遺跡を脱出したのだ・・・。

ムムムムム...

のぞみ「メール・・・誰が捕まったの!？」

奏「『北条響とフォックス・マクラウドと明道院いつきとピカチュウとウルフ・オドネルとスバル・ナカジマと日向咲の活躍により、ハンターが3体除外された。』響がハンターを!？」

ファルコ「『よって、ドリームワールドにいるハンターは7体となった。』リーダーとライバルに助けられるとは・・・」

えりか「遺跡の方も成功したんだ!いやったー!！」

ヤンリン「あいつらもやるな!。俺も頑張らないとな!」

なのは「ありがとう・・・」

ヴィータ「ハンターを減らせるなら、さっさとやれよ!10体と聞いて冷や冷やしたぞ!！」

リンク「あ!宝箱を担当してた奴らが来たぞー!」

アルル「こっちだよー!おーい!」

ルイーダ「無事に生き残れたんだね！」

トウィン&プリン「早く！早く！」

えりか「ハンターの除外って凄すぎるよー！」

遺跡から脱出をし、三人は待ち合わせ場所に指定した中央エリアの駐車場に向かう。そこにいたのは遺跡で合流した六人の逃走者もいる。全員が無事である事を確認すると安堵の息を吐く。

アルル「こっちはハンターの封印に成功したよ！全部やりたかったけど、難しかったー・・・；」

トウィン「でもさ、北エリアの全部放出よりはマシじゃん！」

えりか「そうそう！ハンターに見つからずに出来て・・・」

リンク「えりかが言うセリフじゃないし！！つか、俺らを全滅させる気が！」

ルイーダ「僕でも凄い我慢したのに何してるの！！？」

プリン「必要なメンバーがいなくなったらどうするんでしゅかー！」

えりかを除く五人は遺跡で起きたピンチを作った張本人を睨んでいた。その対象となった少女は某お菓子のマスコットのよう舌を出して誤魔化している・・・。

えりか「いや・・・その・・・」

アルル「ちゃんと空気を読んでよねー？そのくしゃみが命取りになるって事を・・・」

咲「そう言えば、どこかから凄い音がしてたけど、あれはえりかのくしゃみだったの！？」

リンク「お前らは何と想つてたんだ？」

ウルフ「あり得ないほどの音だったから、ワリオかガノンドロフが屁をこいた音かと・・・」

スバル「あたしも思つた！」

えりか「酷っ!？」

下らない雑談を終えると一同は情報の交換とアイテムの譲渡を行なう。レアアイテムの存在や北エリアの地図は逃走中を有利に運ぶ。たくさんあるアイテムのチヨイスに悩む彼らに・・・

響「しかし、アイテムがちよつと乏しいな・・・」

フォックス「もうちよつとドンと来るのが良かったのか？」

いつき「あれ?えりか・・・?」

ピカチュウ「お?何してんだ?」

駐車場にやって来たのはハンターをゲームから除外した響とフォックスといつきとピカチュウの四人。彼らは駐車場の集団に近づく。相手も自分達に気付き、手招きする。

ピカチュウ「リンク、何してるんだ?って、このアイテムはどうしたんだ!？」

プリン「ピカチュウちゃん!ハンターの除外、ありがとうでしゅ!」  
ピカチュウ「ああ・・・(真相は伏せておくか)」

同志の登場に彼らはたくさん余っているアイテムと北エリアの地図を渡す。突然の事に四人はビックリし、「まさか、ゲームで不正を働いたの!？」と疑われるも、事情を説明すると納得する。裏で行動をしている逃走者の存在と協力で四人は感謝をし、アイテムの交換を行なう。

アイテムの交換をしようとするフォックスの目に映ったのはライバルの存在……。

フォックス「ウルフ、これはお前がしたのか……?」

ウルフ「勘違いするな。こいつらの手伝いをしただけだ。」

フォックス「お前らしいよな。父さんや俺が認める理由が何となく分かる。」

ウルフ「ふん……」

フォックス「ウルフ、ハンターの除外はありがとうな」

ウルフ「それは俺様のセリフだ。さっさと、アイテムを選べ。」

互いの活躍を褒めると父の遺志を継ぐ狐はアイテムを選ぶ。このよ  
うな協力が逃走者に希望を与える……

響「いやー、よかったー。あたし、アイテムをタダでくれる人に出  
会えてよかったー!」

フォックス「ん? 砂場以外にアイテムはなかったのか? 取られたの  
か?」

響「だってさー……」

響「あたしが見つけたのはパーティグッズのうん　と鼻メガネだけだったのよー！！（涙&未だに持っている）」  
リンク&ピカチュウ&フォックス&ウルフ&スバル&アルル「それ以前にお前がそれを持ち続けている事にこっちはすごい疑問を持っているんですが。つーか、捨てるよオイ（ツッコミ）」

ハンターの除外や裏で行動する逃走者の活躍は逃走中にどう影響を及ぼすのだろうか・・・？

そんな中、逃走者全員の携帯に・・・

ピピピピピ...

アミティ「時間的にミッションかな？『ミッション2』・・・」

ひかり「『中央エリアの公園に紋章発行装置を設置した。』いつ設置したの・・・？」

はやて「『残り65分までに紋章を入手しないと強制失格になる。』  
えええー！！？」

『ミッション2』紋章を入手せよ！  
残り65分まで中央エリアの公園にある紋章発行装置に行き、装置から発行される紋章を入手しないと強制失格になってしまう。なお、紋章が発行されるまでは5秒かかる。

響「さつき、公園にいたよ！」

リンク「本当か!？」

フォックス「アイテムと地図のお礼もあるし、俺らについて来い！」

公園にいた狐と音のプリキュアの先導に一同は公園へと移動をする。場所が近い彼らは紋章発行装置の元へ向かう。

すると、彼らがいなくなった駐車場に人影が現れた……。その人影は腕に付いている通信機を起動させるとある人物へ連絡を取る。

????4「?????1さん、偵察をした結果ですが……」

????1「おお、お疲れ!あいつらの中に要注意人物はいたか?」

????4「はい、いました……」

????4は独自でメモをした内容を????1に報告をする。????4が伝えた内容はスマブラチーム・プリキュアチーム・リリカルなのはチーム・ぷよぷよチームの逃走者のデータ……。

????4「スマブラチームは一人一人が強く、一番用心する人がいます。まずはリンクさんですね。リンクさんは戦闘面や行動面では

優れていますし、人々からの信頼も高いです。他のリンクさんも同様のスキルを持っていますのでリンクさん達には注意した方がよいかと。他には状況の分析が得意なルイーダさんとネスさんとデデデ大王さんとウルフさん、サポートに徹するプリンさんも残すのはこちらが不利になります……。」

「……1「やつぱな……。……2もそいつらをピックアップしてたぜ……。他は？」

「……4「プリキュアチームは単体でも戦える5勢とハトプリ勢。特にのぞみさんといつきさんは必殺技と守りが強烈です。他の子も強いのですが、大抵は……1さんと……2さん同様にバディを組んでいきますので、片方を消せば戦力がダウンします。」

「……1「へー……。……」

「……4「リリカルなのはチームは全員が強敵に見えます。上位クラスとシグナムさんも場合によっては……。最後にぶよぶよチームは主人公が未知なる実力を秘めていると考えられます。甘く見るとこっちがやられてしまいます。」

逃走者の一部が自分達の脅威になると知った……1は「後半のミツシヨンで少なくなると言っても、俺らは完全に不利だな……。……」と愚痴を零す。減っていく時間に焦りを感じる中、……4はある考えを出す。

「……4「ここは予定を変更して援軍を呼びましょう!……5さんと……6に悪いですけど、ちよつとだけ……。……」

「……1「それが妥当だな……。……よつし、俺が……6を呼ぶから、……4は……5を呼べ。」

「……4「はい!」



く???

「あーん、肉まん美味しいー！」

ピピピピ!

「誰からの? あ!??? 4さんだー! どうしたの? お仕事は?」

「??? 4 「??? 5さん、お忙しい中すみません。実はあなたにお願いがあつて・・・」

「??? 5 「なーに? ボクも手伝うよ!」

く事情説明中く

「??? 5 「そこまで相手が強いのか!」

「??? 4 「はい、僕の作戦を実行させるには??? 5さんの協力が必要で・・・。同時に??? 1さんが??? 6を呼んでいます。どうしますか?」

「??? 5 「別にかまわないよ! ボク、??? 4さんが困っているなら、お手伝いするよ!」

「??? 4 「本当ですか・・・!」

「??? 5 「もちろん! 肉まん10個で手を打つよ!」

「??? 4 「ありがとうございます・・・!」

く???)

???6 「私をそんな所に行けつて言うの!? 休日の予定をドタキヤンした拳句の果てに戦えですつて!!」

???1 「いや、そのく……」

???6 「せつかくの休みで戦いに時間を使いたくないわよ! 私のよゆうな女の子がどれだけ忙しいか分かってるの!? もうっ!」

???1 「ごめん……俺はお前が無理だというのは分かっているけど……どうしても力が必要なんだ……」

???6 「あれ? 私……」

???1 「どした?」

???6 「……わね」

???1 「?」

???6 「今度の休日、一緒に映画に行ってくれるなら考えてあげる……」

???1 「映画……?」

???6 「取引よ! 気付きなさいよバカ!」

???1 「映画でいいのか? それならいいぜ?」

???6 「それでいいわ! 次の休日、嘘ついたら承知しないわよ!

嘘……???)とデート!」

・ ミッション2が発動する中、りゅーとが用意した人物達が動き出す・

行動とミッションチュー！（違（後書き））

「確保者の言葉」現在、説教中・・・

りゅーと「ワリオ、あんたね！ハンターに捕まったからと言って、辺り構わずにげっぷや放屁はしないでよ！！この牢獄は他の人も一緒にいるんだから、あんたの物じゃないのよ！！占領は禁止よ！」  
ワリオ「だって！マリオよりも負けたんだぞ！早くに捕まって黙っているなんて無理だアホ！つかさ、この牢獄に俺だけ隔離するな！！」

りゅーと「ワリオのせいで全員が逃げちゃったのよー！！罰として、ニンクとレバナラは1ヶ月禁止！！」

ワリオ「がーん！！」

りゅーと「あんたのせいで警察がいると尋問してきたり、変な紙を渡して来たのよ！逃走中の管理で忙しいのに・・・！分かってい「うぷうぷ」

ワリオ「さーせんwww」

りゅーと「・・・すみません、光の魔法や浄化の魔法や必殺技で真っ白にしてもえませんか？別の意味でね？」

光や浄化の技所持者「はい」

ワリオ「え？ちよつと待て・・・ぎゃああああああああああああああああああああああああああ！！！！！！！！！！」

りゅーと「まったく・・・ミニノートで情報の整理でも・・・はあー・・・」

りゅーとのミニノートの画面には・・・  
「特殊ハンターの情報」ヒント2：男が4人で女が2人、全員能力  
持ち

紋章を入手せよ！（前書き）

「小ネタ」差し入れ

オリマー「ウルフさん、お届け物です」

ウルフ「ん？俺にか？どれどれ・・・」

ウルフへのお届け物：izumiさんからのおんぱん（レムレスおすすめ）

ウルフ「もらっていいのか？」

オリマー「いいですよ。私も紀葉さんから金平糖を買いました。

ピクミンと分けて食べますね。」

響「あれ？そつちも差し入れを買ったの？」

オリマー「そつちもって、響さんも貰っ・・・」

響「？（ドヤ顔でハゲかつらと鼻メガネ装備中）」

二人「！？（嘔き出す）」

izumiさん、紀葉さん、差し入れとコメントありがとうございます！  
ます！じゃあ、本編を・・・

ウルフ「何、自然に進めてるんだよ！？」

## 紋章を入手せよ！

「牢獄 DE とーく」（場所は中央エリアの噴水広場）

ティアナ「ようやくニンニクとニラの脅威が消えたわ・・・」

ラフィーナ「でも、臭いがまだ残ってますわ・・・（ハンカチで鼻を押さえる）」

フェーリ「私、気を失ってたから分からないけど、警察沙汰になつたみたいだよ。」

ドンキー「ワリオは別の所に隔離しているから大丈夫だウホ。あのオナラとげつぶは凶器クラスだろ。」

ワリオ「むごー！！むごごごごごごごー！！！！（別の牢屋に隔離&縛られている）」

ヨッシー「そう言えば、ワリオさんは朝からニンニクをフライで食べていたような気がします。」

ティアナ「ちなみに食後には歯磨いていた？」

ヨッシー「磨いてませんです（きっぱり）」

カービィ「次の乱闘、ぼくパスする；噛みつかれるとやばいもん；ラフィーナ「スネークの情報でも危ないと言ってたよね；（目の前にいるピンク玉も同じ扱いだったような・・・）」

カービィ「ワリオの噛みつきは最悪だよ！ぼくの体に歯形が残るだけじゃなく、ニンニク臭が染みるもん！鼻が曲がっちゃうペポー！」

フェーリ（カービィの鼻ってどこにあるの・・・）

ドンキー（言うな...）

話は元に戻って、ミッション2は残り65分になるまでに中央エリアにある公園に設置された紋章発行装置から紋章を入手しないと強

制失格になってしまう！幸いにもドリームワールドの中央に目的の物があるのはいいが、ずっと隠れている逃走者や遠くにいる逃走者は悠長にしてはいられない……！！  
果たして、強制失格は免れるのか！？

????「やっと公園に着いたぜ！」

一番乗り公園に着いたのは……

レッド「ハンターに見つからなくてよかった……」

多くのポケモンを扱うレッドだった。彼は公園に着くと目的の装置を探す。すると公園の滑り台の近くに子供が遊ぶ場所とはマッチしない機械があった。あれが紋章発行装置だろう……。

レッド「つーか、こんなに目立つ所に設置するなよ！操作は画面をタッチして……ん？」

Q：ポケモンBWに出るジムリーダーが持つバッジを3つ答えなさい（皆さんも一緒にお考えください（他も同じ））

レッド「ちょっと待てー！？紋章を入手するのにクイズに答えないといけないのか！？ええー……」



最悪な事に紋章の発行の際にクイズをしないといけないという事にレッドは愕然とする。幸いにも自分が分かる問題だったため、横に置いてあるタッチペンを使って問題に答える。すると画面が正解と表示され、画面の下のスライドが開いた。中を覗くと上にセンサーがあり、手が入るスペースがある。

レッド「ここに手を入れて紋章をプリントするのか？んーっと・・・5秒も待たないといけないのか！？ハンター来るな！ハンター来るな！」

クイズを1問正解しないといけないいうえに紋章の発行までに時間を要する事に彼は焦りを感じていた。装置は目立つ所に置いているため、問題の解答中や紋章の発行中にハンターが来られると最悪な結末を迎えるのは誰だって見える。

早く終われと願うレッドの耳にピーと音が入った。そう、紋章の発行が終わった音だ。その音を聞き、入っていた右手を出すと炎をモチーフにした紋章が手の甲にプリントされていた。

レッド「いよっしゃ！これでクリア！」

レッド ミッションクリア

続いて公園にやって来たのは・・・

ソニック「いよっしゃ！到着！」  
アミティ「早すぎるんだってば〜！時間はまだあるのにー！！」

セガの代表する主人公のソニックとアミティだった。音速の青いハリネズミに引つ張られて来た赤ぶよ帽の少女は混乱しつつも、装置を操作する。だが、クイズが出されるとレッド同様に二人は仰天する。

ソニック「これは舐めてるのか！？Shit！」

アミティ「ソニック、落ち着いて！私も考えるから！」

Q：これはある並びで並んでいます。？に入るアルファベットは？

A S ?

1 : A   2 : B   3 : C   4 : D   5 : E   6 : F

(ヒント：？の同時期はV)

アミティ「ソニック分かった！これね・・・(うにょうにょ)  
ソニック「あ・・・！Goodだ！アミティ！」

その後、ソニックが紋章を発行し、次にアミティがクイズに答えて紋章を発行した。

ソニック・ザ・ヘッジホッグ アミティ ミッションクリア

ソニック「さつさと移動するぞ！」

アミティ「うん！あ！アルルだ！って、大勢いるし！？」

アルル「アミティ、ソニック！無事だったんだ！？」

ソニック「俺らは大丈夫だ！だが、紋章の発行の前にクイズがあるらしいぞ！」

ピカチュウ「クイズだと！？聞いてないぞ！！」

一時間かかる事を聞かされたアルル達はクイズに挑戦した。装置の前はたちまち、長蛇の列となり、全員に焦りが生じる。解答中や発行人にハンターが来られると全てが水の泡となってしまう……。出されるクイズはランダムであり、すぐに解ける者もいれば、協力して解く者もいれば、問題をパスして次に挑戦する者もいる……。ひやひやする場面の中、アルル、プリン、リンク、ルイーダ、咲、フォックス、スバル、ピカチュウ、えりか、ウルフ、いつき、トゥーン、響の全員が紋章を発行する事に成功した。

アルル・ナジャ プリン リンク ルイーダ 日向咲 フォックス・マクラウド スバル・ナカジマ ピカチュウ 来海えりか ウルフ・オドネル 明道院いつき トゥーンリンク 北条響 ミッションクリア

フォックス（頭がいいメンバーとパズルが好きなメンバーがいて助

かった・・・；(ひっかけに騙された)

その次にやって来たのは・・・

くるみ「ぜえ・・・ぜえ・・・」

青いバラの力を使うくるみだ。ずっと隠れていた彼女は隠れていた場所からの移動を余儀なくされ、ようやく紋章発行装置に着いたばかりだ。普段は妖精姿で凄し、人の形に自由に変身できる能力を持つ彼女にとっては長距離の移動とその状態でのクイズは重労働だ・・・。

187

Q:これはある共通点で結ばれています。?に入る平仮名は?

ゆ〓の、な〓り、か〓?、あ〓こ

(ヒント:み〓か、み〓く)

くるみ「?に入る平仮名・・・?ヒントは・・・あ!分かった!!」

答えが出ると彼女はタッチペンを握って画面に答えを書き込む。結果は正解。すぐに紋章を手でプリントすると場から離れる。

美々野くるみ ミッションクリア

くるみ「よかったわ……。しかし、この右手にある紋章ってデザインがいいわね……。」

その言葉の通りにくるみの右手にある紋章はデザインが良かった。そのデザインは風をモチーフにしたデザインで、薔薇やビーズとかの綺麗なものにしか興味がない薔薇の乙女も魅入られてしまう……。

その後、紋章を手に入れようと続々と逃走者達が集う……。その一部始終を覗いてみよう……。

Q：ハートキャッチプリキュアに出た多田かなえが持っていたこの花は？

奏「ちよつと待ってよ！？先輩の作品の問題！？これはつぼみに聞いた方がいいかも……！」（電話中）」

ブルルルル・・・

つぼみ「公園つてどこですか・・・ん？電話？もしもし・・・」  
奏「つぼみ！奏よ！お願いがあるんだけどいい！？」

Q：なぞなぞです

花屋を経営している花咲みずきさん。彼女は最近のおながが出てきました。ところがみずきさんは気にする様子はなく、むしろ喜んでいきます。なんで？

つぼみ「本当にクイズがありますね。これは・・・（ふふっ、お母さんもおばあちゃんもお父さんも喜んでました）」

Q：長文を読んで答えなさい

ドクターマリオが持っているビンにはい菌が1匹います。そのばい菌は1分経つと倍に分裂し、60分後にはばい菌がビンを満たします。

では、最初からビンにはい菌を2匹入れると何分後にはばい菌がビンを満たしますか？

クルーク「これは普通に読むと半分と考えがちだけど、これは引っかけ問題だ！答えは・・・分だ！正解！」

Q：なぞなぞです

スマブラ屋敷にロボットが1機いました。するとロボットが3体屋敷に来ました。

では、屋敷にいるロボットは何機ですか？

フェイト「引っかけ問題ね。答えは・・・、当たった！問題文はよく読んだ方がいいね。」

Q：長文を読んで答えなさい

ある日、キャラはヴィータの強制的な命令でアルミニウム1000グラム貰ってこいと言われ、同時に1000円札渡されました。

隣町に行くtoアルミニウム工場があり、そこに行くtoタダでいくつでも貰えますが、自分のいる町と隣町を結ぶ橋は台風で飛ばされてしまいました。舟はありますが、片道で600円とかります。

また、キャラがいる町にはパン屋、薬屋、銀行、魚屋、肉屋、八百屋しかありません。

さて、どうやってアルミニウム1000グラムを入手するにはどうしたらよいか？

りん「・・・；(クイズよりも配役に注目したらしい)」

Q：川渡り問題です

ある日、オリマーは大地のエキスとピクミンとコチャッピーを携えていました。

すると川があり、横には舟があったのでオリマーは舟を使って渡ろうとしました。

しかし、「舟を漕げるのはオリマーだけであり、舟はオリマーと他

の物が1つとしか乗りません」。

さらに「ピクミンはオリマーがいないと大地のエキスを飲み」、「コチャッピーはオリマーがいないとピクミンを食べてしまいます」。さて、全ての物を失わずに向こう岸に行くにはどうしたらいいか？

マリオ「川渡り問題か……。これは初心者向けだから俺でも簡単！」

Q：川渡り問題です

ある日、3人のファルコと3体のカービィが舟で川を渡ろうとしている。舟は1つしかなく、「一度に乗れるのは2人までであり、誰でも漕げます」。

しかし、「それぞれの岸においてカービィの数がファルコの数より上回るとファルコが食べられてしまいます」。

さて、全員が向こう岸に渡れるにはどうしたらよいか？

ファルコ（これ、俺へのいじめかー！？）

一部の問題は配役に悪意があると感じられるも、持っている知恵を振り絞って解いたり、携帯で連絡を取り合って答えたりと、紋章を入手したのだ……。

この地点で新たに紋章を入手したのは奏、つぼみ、オリマー、ひかり、クルーク、ポポ、フェイト、かれん、りん、のぞみ、ピーチ、



ゼルダ、マリオ、ファルコの14人。先ほどの17人と合わせると計31人。  
残り時間が70分を切ろうとした時、紋章を手にしていないのはガノン、ヤンリン、デデデ、ネス、ナナ、ウォッチ、舞、なのは、はやて、シグナム、ヴィータ、シグ、レムレスの13人。65分になる前に紋章を入手しないと強制失格となってしまう！

レムレス「どこに装置があるんだよ……。ああもう!!」

ようやく中央エリアに辿り着いた彗星の魔導師レムレス。彼は紋章発行装置のある公園に行こうとしているのだが、入り組んだ住宅街で迷ってしまい、時間を浪費している。またしても同じ道に戻ってしまう彼は再度地図を出して公園の位置を確認する。

レムレス「もう一度地図を見て……。うーん……」

地べたに座って地図とにらめっこするレムレスの背後にハンター。相手は彼の姿を捉え、走り出す。背後からの危険にレムレスは全く気付いていない……。

レムレス「ここの住宅街の大通りに出て……。いついたの!?!」

ようやくハンターの存在に気付いたレムレスは曲がり角を使い、全力で走るも相手は諦めてはくれない。最早、逃走不可能……。

レムレス「みんぎゃー!!」      ポン

72:32      レムレス確保      残り43人

レムレス「せつかく公園に行けそうだったのに……!紋章が……!」

彗星の魔導師、紋章を前に散る……

はやて「ん?メール……」

マリオ「レムレス確保。残り43人」 ミッションの最中に捕まったのか……!」

フェーリ「レムレス先輩が……!?!」

ナナ「早く行かないとまずいわ・・・！公園ってどこなのよ!？」

ヴィータ「紋章一つで確保ってふざけてるのか・・・！行きたくねえのに・・・！！動く馬鹿みたいに捕まっちゃうだろ・・・！！」

残り65分になるまでに中央エリアにある公園にある紋章発行装置で紋章を入手しないと強制失格となる。

しかし、装置にはランダムで出題されるクイズがあり、クイズ正解後に紋章が手にプリントされるまでに待たないといけないのでハンターに見つかるリスクが大きい。また、装置に辿り着いていない逃走者はハンターの目を掻い潜りながら公園に向かわないといけない・・・！

そんな中、公園に辿り着いた逃走者がいた。その人物は・・・

はやて「よつやく発見したで！問題を・・・えいやっ！」

Q・・・吊り橋問題です（川渡りと同じです）

ある日、ウルフとトウーリンクとプリンとリュカが闇夜の中、細い吊り橋を渡ろうとしている。

橋は古く、「2人分までの重さにしか耐えることができない」。また、暗く危険なので橋を渡る時にはカンテラが必要である。

さて、「ウルフは橋を渡るのに1分」、「トウーリンクは2分」、「プリンは5分」、「リュカは8分」とかかるのだ。

ただし、「カンテラは1つしかないので、2人が一緒に橋を渡る際には遅い方の人に合わせて渡らなければならない」。しかも、「カンテラの火が消えるまであと15分しかない」。

この条件で、15分以内に全員が橋を渡り切るにはどうしたらよいか？

はやて「なんや、この知恵を使った問題は……；つまり、帰りの時間も考えないとアカンのか……；」

頭を使う問題に当たってしまった最強の魔導師はタッチペンを持って考える。幸いにも彼女は幼少期の時にパズルの本を読んでいたのだ、これくらいは朝飯前だ。分からない問題は現在いる家族と一緒に考えていた事もあったので懐かしい。

すらすらとタッチペンを動かす彼女の近くにハンターが……。

ハンター「……」

はやて「一緒に行く人も考えんなあ。ん、リュカ君は……」

ハンター「……！」

見つかった……！

果たして、はやての運命は……！？

紋章を入手せよ！（後書き）

「確保者の声」 8人目：レムレス

レムレス「はぁー・・・捕まっ・・・あのー、牢獄が凄い臭うんだけど・・・」

ラフィーナ「あのメタボが原因よ（ワリオを睨む）」

ドンキー「これでも空気清浄機は使ってるウホ」

フェーリ「先輩まで捕まってしまうなんてー・・・うつつ・・・」

レムレス「フェーリ、泣かないで。そうだ！宝箱から入手したドーナツと僕が持っているお菓子でも食べないか？たくさんあるからどう？」

カービィ&ヨッシー「食べます！！」

ティアナ「これって、ラブの世界の人気ドーナツだよな？フレーバーがたくさんあるわ！」

フェーリ「これだけあると喉が乾いちゃうわ。」

ラフィーナ「作者にジュースかお茶を貰いましょう。作者ー！」

りゅーと「飲み物？警察の尋問が終わったから、ちよつど買って来たわよー。」

ドンキー「おー、気が利くー」

ワリオ「むごごごごー！（俺にも寄こせー！！）」

ワリオ、反省中

それと、小説に出たクイズの答えは次の後書きで説明しますね。分かるかな？

細工する謎の影・・・（前書き）

「小ネタ」素晴らしい差し入れ  
りゅーと「差し入れですよー！」

りゅーとの手にはizumiさんからのチョコレートと紀葉さんからバナナとトマトがあった。

ティアナ「たくさんありますね・・・」

ラフィーナ「おそらく、大食い組へなのでしょうね。」

レムレス「あのチョコレートは人気店なので美味しいよ！」

ドンキー「サンキュー！たくさんあるから、少し食べてウホ！」

カービィ「食べ物！？（じゅるり）」

ヨッシー「やったですー！あー、りゅーとさん、ワリオさんも反省してますし、外してあげましょうか？」

りゅーと「しょうがないわね・・・。だけど、同じような事したら、遠慮なしに技を発動してもいいからね？」

フェーリ「はい」

ワリオ「・・・；（禁止令があるのはつらいけど、大人しくしよう・・・）」

響「えーっと、こんな駄文の逃走中小説に毎回毎回コメントを貰っているだけでも十分なのに差し入れをくださるとは・・・。牢獄組が食べてばかりで・・・」

響「どうもすみませんでした！！（おかつぱのかつらをかぶって謝罪中）」

牢獄組「名前ネタかよ！！？」

izumiさん、紀葉さん、横浜学園都市部さん、コメントありがとう  
ございます。

つか、izumiさん、コメントのネタを採用&ネタ投下はありがとう  
ございますwwww



細工する謎の影・・・

クイズの問題を解いているはやて。しかし、そこにハンターが接近・・・！

果たして、彼女の運命は・・・！？

ビーーーーー

LOCK ON HAYATE

はやて「あとはここを動かして・・・って、こんなタイミングで！？」

もう少しで正解が出せる彼女はハンターの接近に気付いた。紋章が入手できるタイミングでハンターの遭遇にはやてはパニックになるが、ある事を思い出す。

はやて「そーいや、ネットがあつたんや！おらー！」

通達メールがきっかけで宝箱からアイテムを入手した事を思い出した彼女は懐からあるものを取り出す。それはハンターの動きを1分

間だけ封じる捕獲ネット。そのネットで狙いを定めると付属している紐を引いた！

パン！

ハンター「!？」

はやて「今や！はよ紋章を出してーな！」

ハンターが網に絡まって動けなっている隙に問題の仕上げに入り、正解の画面を出す。すぐさま、手の入れるスペースに手を突っ込んで、紋章を入手すると大急ぎで公園から離れ、全速力で逃げ出した。もともと体力の無いはやては腕や足を大きく激しく動かし、しばらくの間は走る事に徹した。

気が付くと彼女は南エリアまで移動をし、振り向いた時には追っ手はいなかった。。。。

八神はやて ミッションクリア

はやて「アイテムを持ってて正解やったわ……死ぬかと思ったわ……」

シグ「あ、もう30万超えてる」

一方、北エリアで虫と遊んでいたシグは目標金額が超えていた事に気づき、自首用の電話ボックスに手を伸ばす。ピッピッと電話を操作する彼は相手に繋がるとこの一言を述べる。

シグ「もしもし、シグだよ。自首しまーす。」

72:11 シグ自首成立 33万3800円獲得 残り42人

シグ「やったあ〜」

自首を成功したマイペースな少年は大喜びで牢獄へ向かう。だが、この出来事は逃走者全員の携帯にしっかりと伝えられた・・・。

ピッピッピッ！

ウォッチ「ヘンナタイミングデメール德斯ネ・・・『自首情報』エ

「？」

なのは「『シグ自首成立。残り42人』シグ君、自首したの!？」

オリマー「人が頑張っているのに何してるんですか!？」

ひかり「と言うか、ぶよぶよ勢が酷すぎませんか!？」

ゼルダ「ぶよぶよ主人公としての自覚を持ちなさいよ!！」

ガノン「この地点でぶよチュー組全滅したぞ！」

のぞみ「牢獄でも大惨事になってるだろうねー……」

ヴィータ「あのマイペースは何しに来てるんだよ!?!? ミッションしろよ!！」

「牢獄 DE とーく」

ワリオ「ようやく、解放された……ん? シグが自首!？」

レムレス「自首って普通に無いし！」

フェーリ「主人公が何やってるのよ！！アルルとアミティに謝りなさいよ！！」

ヨツシー「これはある意味酷過ぎるですー！！」

カービィ「ぷよぷよチーム、もうちよつと粘ってよねー！」

ラフィーナ「同じ主人公として恥ずかしいですわー！！」

ドンキー「外で座るといふから屈辱的だし！！馬鹿にされてるウホー！！！」

ティアナ「しかも、牢獄に転送されないから苛立つし・・・！もうっ！」

ワリオ「ミッションやらずに自首ってありえねえだろー！！」

牢獄も同じようにシグに対しての怒りの言葉が飛び交う。戻って来たら、確実に牢獄にいる逃走者全員から睨まれるのは間違いないだろう・・・。

逃走者達が紋章を入手しようと中央エリアの公園に集まる中、りゅーとは別の場所でミニノートを操作していた。リズムよくキーを叩く音が響き、データを編集する。彼女の目に飛び込むのは・・・

1：RED：火

2：SONIC：風

3：AMITIE：火

4：ARLE：水

5：PURIN：風

6：LINK：地

・  
・  
・

りゅーと「順調にクリア者が増えてるわねー。クイズにも屈さないとは・・・」

意外な結果の表示にりゅーとは新たなクリア者のデータを見る。そこには先ほど、ハンターを振り切ったはやてのデータが・・・。

「残り時間が僅かなのに全員クリアできるかな？」とほくそ笑むと彼女の元にある人物がやってくる。先ほど会話をした???2だ。

???2「りゅーとさん、作戦の方はどうですか？」

りゅーと「やってるわよー。しかし、あの子の作戦って結構えぐいわね・・・」

???2「あの分析力と機転は僕でも見習いたいですね。先輩は十分素質もありますし、能力も使えば上位に食い込めるのに・・・」  
りゅーと「あたしもそう思う！あの子の能力は使い方によっては・・・ね?」

彼女のミニノートには逃げている逃走者の手がアップで映し出されており、その手には発行装置で入手した紋章が刻まれていた・・・。今映し出されている紋章は大地をモチーフにした紋章・・・。その紋章に気付いた???2はずっと見つめ、しばし考える。その

紋章とデータを見ると「なるほど・・・」と呟く。

「???2「あなたが今行なっているミッションは確実に大波乱をもたらしますね。しかも、先輩の手によって・・・」

りゅーと「そう?だってさ、このミッションはあなた達に加勢するために用意したんだけど、それを逆に手に取っちゃうなんてあたしでもビックリしたわ;」

「???2「僕達を甘く見ないくださいね?あと、それと???5さんと???6はもう少しで来ます。」

りゅーと「本当!?じゃあさ、一切の手加減はいらなんて事でしよ?」

「???2「その通りですね」

りゅーと「楽しみになってきたわ・・・」

現在行なわれている逃走中はりゅーとと彼女が用意した謎の影達によって、かき回されていく・・・。

細工する謎の影・・・（後書き）

「確保者の言葉」9人目：シグ（自）

牢獄組全員「自首って馬鹿にしているのかてめえ？」

シグ「お金欲しかったんだもん」

今回は短め&クイズの答えは考える時間を用意したのでミッショ  
ン2終了時に公開しようと思います



## 暴挙とミッション2終了(前書き)

一方、ワリオのやけ食い騒動で犠牲になった待機中の人達は・・・

ザフィーラ「鼻が曲がると思った・・・」

アルフ「鼻が・・・うわーん・・・」

シヤマル「動物系のキャラにとっては苦痛ですもんね。みなさん、

大丈夫でしょうか・・・？」

ルカリオ「もうどく以上に酷すぎる(鋼タイプなので平気だが、ちよつとめまい」

ピチュー「苦しいでチュ・・・」

ドラコ「潔癖症の女子はあそこに行くのを嫌がってるらしいぞ。もうちよつとフア リーズを使いましょう」

ウィッチ「そう言えば、サタンが何も知らずに牢獄に近づいたら、

口から血を吐いて「アルル・・・」と呟いていましたわ。しかも、

口から白いものが・・・」

ピット「羽に臭いがー！！嫌だー！！」

マルス「ぎもぢわるい・・・」

なぎさ「未だに病院で眠ってる人がいるみたいだよ。ぶつちやけ、

ありえない・・・」

ほのか「なぎさが言うとそのままの意味でなつちやうわね・・・」

ダーク「本当にありえない」

## ■暴挙とミッション2終了

続いて中央エリアの公園で紋章発行装置で紋章を入手したのは・・・

ガノン「早くしてくれ・・・！俺は待つのが嫌いだ・・・！」  
ウオッチ「オドサナイデクダサイ！コッチモイソイデマス！」

リンクの宿敵であり力のトライフォースの所持者のガノンと2Dレトロゲームの代表であるウオッチだ。クイズを真剣に答えている2Dの住人に魔王は苛立ち、背後から威圧をかける。ミッションとハンターと背後の逃走者の三重のプレッシャーにウオッチはタッチペンを動かし、ガノンに渡す。この間にもハンターは来てなかったようだ・・・。

さらに・・・

ハンター「・・・」

デデデ「いるか・・・？」  
シグナム「公園前にいるとは・・・！だが、我慢すれば紋章は手に入る・・・！」

公園近くに停車している車に隠れているのはシグナムとデデデの二

人。目的の物が近くにあるも移動が出来ない理由がある。理由はヴオルケンリッターの将が持つ双眼鏡が映し出したのは黒づくめの男・。。紋章発行装置付近をうろろろするハンターにププブランドの大王は舌打ちをする。

デデデ「遠くに行ったらせーので行くゾイ！」  
シグナム「ああ！」

ハンターがいなくなったのを見計らって、二人は装置に近づく。結果は成功だ。その入れ違いに……

なのは「間に合った〜！フェイトちゃんとはやてちゃんが場所を覚えてくれたおかげでギリギリで着いたー！」

エース・オブ・エースの称号を持つ魔導師のなのはだ。少し呼吸を整えてからタッチペンを握り、クイズに答える。問題は一般常識だったため、あっさりと解けた。

Mr.ゲーム&ウオッチ ガノンドロフ デデデ大王 シグナム  
高町なのは ミッションクリア

残り時間が刻一刻と減っていく中、紋章を手にしていないのはヤンリン、ネス、ナナ、舞、ヴィータの5人。強制失格になる前に彼らは紋章を入手できるのか……！

クルーク「残りはまだ少しで5分を切るのか……あのクイズがあるからね！僕みたいな天才じゃないと解けないからね！ウヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤ！」

中央エリアの塀の壁にもたれて高笑いするのはミッシェンをクリアしたクルーク。彼は難問を解いて軽々しくクリアしたと高笑いし、他の逃走者を馬鹿にする。自分が一番と豪語する優等生は上がっていく賞金を見て顔をにやける。現在の賞金は36万近くとなっており、大金が入手出来ると欲を出す。しかし、ハンターに捕まると賞金は0……。

クルーク「これで残れてよかったー。次はどこに隠れようかな？今自首をすれば……ん？」  
ヴィータ「強制失格ってふざけてるだろ……」

隠れ場所を探るか自首に悩むクルークの目に飛び込んで来たのはベンチの下で隠れているヴィータだ。ヴォルケンリッターに遭遇した彼は多少は気になるが、声をかける前に相手が自分に気づく。

ヴィータ「おい、クルーク！お前はミッションをクリアしたのか！？」

クルーク「したけど、ヴィータはまだなの・・・？時間危ないよ・・・」

ヴィータ「だってさ、移動しなきゃいけないミッションってふざけているだろ！！隠れるだけで精いっぱいなのに動くのはきついぞ！」「クルーク「え！？最初からそこにいたの！？よくハンターに見つからなかつたね・・・」

ヴィータ「ミッションなんてだりいよ・・・。なあ、クルーク、あたしの代わりに装置を持ってきてくれないか？」

クルーク「はあっ!?!？」

何と言う事であろうか。ヴィータは自分から動きたくないとクルークに装置を持ってくるように頼んだのだ！

これには流石の彼もノーと断り、ミッションがクリアしていない人にも迷惑がかかってしまうと反論する。第一、紋章発行装置は重すぎるだろう・・・。だが、ヴィータはそれでも諦めきれずに何度も頼むも、答えは同じだ。

ヴィータ「いいじゃねえかケチ!?!ん？その右手の甲にあるのは・・・？」

クルーク「これ？これはミッションクリア時に入手できる紋章だよ」

クルークの手には水をモチーフにした紋章が刻まれており、それがミッション2のクリアに関係していた。その証を見た相手は・・・

ヴィータ「だったら、その紋章をあたしに譲れ!!」  
クルーク「何言ってるの!? これは僕が自力で手に入れたものだよ  
! 第一、手にプリントされていて・・・」

ヴィータ「ケチケチすんじゃねえー!! 紋章をよこせよ! ダメガネ  
!! (爪を立ててガリガリと引っかく)」  
クルーク「いででででででででででででー!!!!」

クルークの持つ紋章を奪おうとヴィータは右手を引っかきまくる。  
少女とは思えない力に相手の手は真っ赤になり、そこから赤い液体  
が流れる・・・。しかし、ガリガリと猫のように引っかいても結局  
は無理だという事がようやく分かり、手を離して諦める。

ヴィータ「あー、ダメかー・・・」  
クルーク「当たり前でしょう! 公園まであと30mなんだから、走  
れば十分間に合うでしょ!!」

なんと、ヴィータがいる場所から公園までは30mとかなりの近距  
離だ。少しの移動と1問のクイズをすればミッションがクリア出来  
るといふのにも係わらず、他人をこき使ったり、紋章を奪おうとす  
る少女にクルークは呆れかえる・・・。

クルーク「そんな事している暇があるなら行ったらどうだい！あと4分だよ！」

ヴィータ「マジかよ！？お前のせいで時間ロスしちゃったじゃねえかー！！」

完全に人のせいにする逃走者にクルークは呆れ、言葉を失った。痛む右手をさする彼が思ったのは「さっさと捕まれ」の一文しか出てこなかった……。

強制失格まであと4分

ヴィータが公園に向かつてる頃、時間ぎりぎりまで紋章を入手しようとする逃走者がいた。そこにいたのは……

ナナ「解けたわ！舞のおかげよ！」

舞「ううん、お互いさまよ。次は私の番ね。」

ナナと舞の二人だ。遠い場所からようやく公園に着いた彼女達は大きく急いでクイズに挑むも、難問に当たってしまう。その答えを二人で絞り出すのに数秒の時間を要した。正解の画面を見るなり、すぐに手を入れて発行をすると氷山登山家の少女の手に紋章が刻まれた。

残るは銀の翼の名を持つプリキュアの紋章を発行のみ……。出された問題はスマブラの問題でアイテムの効果問題だった。だが、横にスマブラ出演者がいるのでクイズは楽だった。後は手を入れて紋章を発行して入手するのみ。しかし……！

ハンター「……」

ナナ「舞、ハンターが来てる！」

舞「そんな！あと少しなのに……！」

遠くにハンターがいる事に気付いた二人は公園から離れる。その入れ違いざまに何も知らないヴィータがやって来た。

ヴィータ「装置は……。あつたぜ！ん？紋章がすぐに発行できると！？手を入れればいいのか……！」

最悪な事にハンターの存在とクイズに答えて紋章を発行する事を知らないヴィータはすぐに発行が出来るものと勘違いしてしまい、スペースに手を入れてしまったのだ！本来なら舞が持つはずの紋章は彼女の手の甲に刻まれる……。それと同時にハンターが地面を蹴った！

ヴィータ ミッションクリア



ヴィータ「はぁー・・・ようやく終わった！ん？ハンターがこっち  
に向かって来たー！！？」

ビーーーーー

LOCK ON VITA

ヴィータ「せっかくクリアしたのにふざけんじゃねー！！」

ハンターに捕まりたくないと彼女は公園を出て住宅街の角を利用して遠くへ逃げる。その機転のおかげでハンターを撒く事に成功したのだ・・・。

ナナ「いなくなっただかしら・・・？あれ？」

舞「どうしたの？」

ナナ「さつき、ヴィータが走ってたみたいだけど、ハンターはあっちの方に行ったのかしら？」

舞「ヴィータちゃんには悪い事をしちゃったけど、戻って発行を・・・あれ？」

ネス「ぜえ・・・ぜえ・・・」

ヤンリン「ネス、あと少しだ！頑張れ！」

舞「あれはネス君とヤンリン君だ！まさか、クリアしてないの！？」

移動しようとした時、時間ぎりぎりですとヤンリンがやって来たのだ。超能力の少年の口には足が速くなれるスキップサンド、小さな時の勇者の頭には同じく足が速くなれるウサギずきんがあった。汗のかき様とフラフラの体は相当遠くから来たのだろう……。

ナナ「ちよつと二人ともクリアしてないの!？」

ヤンリン「だってハンターのせいで足止めを喰らわされて……」

ネス「僕も同じく……」

ナナ「そんな事言ってる暇はないわよ!クイズもあるんだから、さつさとやるよ!」

舞「私も手伝うから!ちよつとは力になれたら……」

時間が無い中、四人は再び公園に移動する。先ほどの紋章の回収をしようとする舞だが……

舞「あれ!?!ない!?!」

ヤンリン「どうした?一体何があったんだ?」

舞「クイズに答えたのに紋章がなくなっていたの!?!」

ヤンリン「はあっ!?!」

そう、舞が手に出来るはずの紋章が消えていたのだ。その証拠にスライドは閉じ、画面はクイズ画面が表示されており、別の問題が表示されている。一体、どういう事なのかとパニックになる四人。すると、ナナがある事を思い出す。

ナナ「そう言えば、ヴィータが去っていくのを見たわ！」  
ネス「ヴィータが・・・？舞が紋章を・・・？去っていったヴィータ・・・まさか!?」  
舞「嘘でしょ・・・!?」

ネスの考えは見事に的中した。そう、二人がハンターから逃げようと公園から離れたのが原因で、何も知らないヴィータが紋章を入手してしまっただ・・・！つまり、舞はもう一度発行しないといけない・・・！  
紋章を横取りされてもう一度クイズをやらされる事に四人は激怒する。もちろん、怒りの矛先はあの少女・・・！

ヤンリン「あいつ、漁夫の利で持って行きやがって！ふざけんなー！！」  
ナナ「再度クイズなんて酷過ぎるわよ！！」  
ネス「この場にいたら超能力で始末したいんだけど、舞、もう一度やろう！」  
舞「うん！間に合えば・・・！」

ヴィータに対しての怒りを抑えつつ、四人はクイズに挑戦する。しかし、そんな四人の前にハンターが接近。しかも、そのハンターはヴィータを取り逃したハンターだ・・・。

ハンター「……！」

見つかった……！

ヤンリン「この問題は……ちい！こんな時に……！」  
ネス「逃げるよ！」

ビーーーーー

LOCK ON MAINESS YONGLINK NANA

219

ハンターが接近して来た事に舞とネスとヤンリンとナナは走り出す。  
散らばる彼らにハンターが目を付けたのは……

舞「私……！？」

不運な事に舞が狙われたのだ。全力で逃げるも、彼女がハンターに

敵う訳がない。最早、逃走不可能・・・。

舞「きゃあー！」 ポン

66:58 美翔舞確保 残り41人

舞「本当なら私が紋章を入手していたのにヴィータちゃんのせいだわ！咲、ごめんね・・・」

ヴィータに振り回されたプリキュアの運命だ・・・

ひかり「『美翔舞確保。残るは41人』舞さんが確保された!？」

咲「舞が捕まったー!!?」

のぞみ「プリキュアに確保者が出た・・・!」

ネス「舞が捕まった・・・！ヴィータのせいだ・・・！」  
ヤンリン「後でとつちめてやらねえと・・・！ネス、問題に答えるぞ！」

理不尽すぎる逃走劇を目の当たりにした二人は急いで紋章を入手し、ミッションをクリアした。この地点で全員がミッション2をクリアしたのだ・・・。

ネス ヤングリンク ミッションクリア

次回、衝撃のミッションが・・・！

## 暴挙とミッション2終了(後書き)

「確保者の言葉」10人目：舞

舞「ぐすつ・・・」

カービィ「何があつたの・・・？」

舞、ショックを引きずっています・・・。牢獄はそつとした方がよいので、ミッション2に出ていたクイズの答えをば。

Q：ポケモンBWに出るジムリーダーが持つバッジを3つ答えなさい

A：一応全部挙げるとトライバッジ、ベータシックバッジ、ビートルバッジ、ボルトバッジ、クエイクバッジ、ジェットバッジ、アイシクルバッジ、レジェンドバッジ

Q：これはある並びで並んでいます。？に入るアルファベットは？

A S ?

1：A 2：B 3：C 4：D 5：E 6：F

(ヒント：？の同時期はV)

A：6のF(答えはリリカルなのはのサブタイトル)A's St  
rikers Force=Vivid(4期は二つ)

Q：これはある共通点で結ばれています。？に入る平仮名は？

ゆの、なり、か？、あこ

(ヒント：みか、みく)

A：う(プリキュア5の登場人物のフルネーム(ゆめはらのぞみ、なつきりん、かすがのうらら、あきもとこまち、みなづきかれん、みみのくるみ))

Q：ハートキャッチプリキュアに出た多田かなえが持っていたこの花は？

A：ブラックベリー(花言葉は人を思いやる心)、ちなみに多田かなえはつぼみとえりかの同級生でスクープを狙う女の子です

Q：なぜなぞです

花屋を経営している花咲みずきさん。彼女は最近のおながが出てきました。ところがみずきさんは気にする様子はなく、むしろ喜んでいきます。なんで？

A：みずきさんは妊婦さんだから。ちなみにアニメでふたばを懐妊しました(つぼみの妹って事)

Q：長文を読んで答えなさい

ドクターマリオが持っているビンにはばい菌が1匹います。そのばい菌は1分経つと倍に分裂し、60分後にはばい菌がビンを満たします。

では、最初からビンにはばい菌を2匹入れると何分後にはばい菌がビンを満たしますか？

A：59分。ばい菌は1分毎に倍に分裂する点に注目(1匹から2



匹、2匹から4匹となるからね)。

1匹だと60分後にはビンいっぱいになるから、最初から2匹いれると1分は短縮されてしまうので、答えは59分。2匹だと倍になって半分になるから30分と勘違いする人も多いはず。

Q：なぜなぞです

スマブラ屋敷にロボットが1機いました。するとロボットが3体屋敷に来ました。

では、屋敷にいるロボットは何機ですか？

A：1機。問題文に注目。ロボットの単位に注目すれば、引っかきに気づくはず(機と体)

Q：長文を読んで答えなさい

ある日、キャロはヴィータの強制的な命令でアルミニウム100グラム貰ってこいと言われ、同時に1000円札渡されました。

隣町に行くとアルミニウム工場があり、そこに行くとタダでいくつでも貰えますが、自分のいる町と隣町を結ぶ橋は台風で飛ばされてしまいました。舟はありますが、片道で600円とかがかります。

また、キャロがいる町にはパン屋、薬屋、銀行、魚屋、肉屋、八百屋しかありません。

さて、どうやってアルミニウム100グラムを入手するにはどうしたらよいか？

A：銀行に行って1円玉を100枚に両替してもらおう。1円玉の素材はアルミニウムで重さは1グラム。

Q：川渡り問題です

ある日、オリマーは大地のエキスとピクミンとコチャッピーを携え

ていました。

すると川があり、横には舟があったのでオリマーは舟を使って渡ろうとしました。

しかし、「舟を漕げるのはオリマーだけであり、舟はオリマーと他の物が1つとしか乗りません」。

さらに「ピクミンはオリマーがいないと大地のエキスを飲み」、「コチャッピーはオリマーがいないとピクミンを食べてしまいます」。さて、全ての物を失わずに向こう岸に行くにはどうしたらいいか？

A：最初にピクミンを向こう岸に連れて行き、オリマーは戻る。次にコチャッピーを向こう岸に連れて行き、ピクミンを連れて戻る。その次にエキスを運び、オリマーは戻る。最後にピクミンを連れていけばクリア。エキスとコチャッピーの所は逆にしても正解。

Q：川渡り問題です

ある日、3人のファルコと3体のカービィが舟で川を渡ろうとしている。舟は1つしかなく、「一度に乗れるのは2人までであり、誰でも漕げます」。

しかし、「それぞれの岸においてカービィの数がファルコの数より上回るとファルコが食べられてしまいます」。

さて、全員が向こう岸に渡れるにはどうしたらよいか？

A：分かりやすいようにファルコにA・B・Cと、カービィにA・B・Cとつけます。

1：カービィAとカービィBが移動

2：カービィAが戻る

3：カービィAとカービィCが移動

4：カービィAが戻る

5：ファルコAとファルコBが移動

6：ファルコAとカービィBが戻る

7：ファルコAとファルコCが移動

8：カービィCが戻る

9：カービィAとカービィBが移動

10：カービィAが戻る

11：カービィAとカービィCが移動（これで正解）

りゅーと「ちなみにこの問題はヨッシーやアイクでも代用が可能で  
すwww」

ファルコ「OTL」

Q：吊り橋問題です（川渡りと同じです）

ある日、ウルフとトゥーンリンクとプリンとリュカが闇夜の中、細  
い吊り橋を渡ろうとしている。

橋は古く、「2人分までの重さにしか耐えることができない」。ま  
た、暗く危険なので橋を渡る時にはカンテラが必要である。

さて、「ウルフは橋を渡るのに1分」、「トゥーンリンクは2分」、  
「プリンは5分」、「リュカは8分」とかかるのだ。

ただし、「カンテラは1つしかない」ので、2人が一緒に橋を渡る際  
には遅い方の人に合わせて渡らなければならない」。しかも、「カ  
ンテラの火が消えるまであと15分しかない」。

この条件で、15分以内に全員が橋を渡り切るにはどうしたらよい  
か？

A：時間と一緒に移動を説明します

1：ウルフとトゥーンが橋を渡る（2分）

2：ウルフが戻る（3分）

3：プリンとリュカが橋を渡る（11分）

4：トゥーンが戻る（13分）

5：ウルフとトゥーンが橋を渡る（15分&クリア）

驚愕のミッション！！（前書き）

「牢獄 DE とーく」

舞「私は一生懸命頑張ったのにどうしてここなのよー！！もうっ！今日は牢獄でやけ食いならぬ、やけお菓子よー！！（怒&差し入れのお菓子を食べる）」

ラフィーナ「これ、完全に止められないわね・それ以上食べると体に良くないわよ？」

レムレス「いや、izumiさんからのスイートポテトはヘルシーで美味しいし、それにお通じにもいいよ。」

ティアナ「へえ・・・でも、あの四人には意味がないと思うけど。」

ドンキー&カービィ&ヨッシー&ワリオ「ガツガツガツガツ・・・」

フェーリ「オナラ騒動だけは勘弁してほしいけどね・でも、あの赤帽子が来る前に全部食べて、そのついでに呪術でも・・・うふふ（黒）」

全員（怖っ！）

シグ「おーい、横浜学園都市部さんから差し入れのお菓子だったー！」

ワリオ「マジか！？俺らはポン・デ・リングで、生き残りにはプリンアラモードかよ・・・差が酷いぜ・ん？」

シグ「どうしたの？（イチゴのショートケーキを食）」

ドンキー「自首したのに何故にそんな豪華なケーキを？」

シグ「いやー、相手が勝ち組の僕にだってー」

カービィ&ヨッシー（じゅるり・・・）

シグ（さっさと食べないとやばいかもー・・・）

今回の牢獄のトークが先の理由はミッションの説明とゲストがいるので

差し入れ、ありがとうございますー&現在、牢獄ではプチパーティー中（笑

## 驚愕のミッションー！

ピピピピピー！

りん「結果のメールだ！えつと・・・」

奏「『ミッション2の結果、逃走者全員紋章を入手した。』全員出来たのね！」

デデデ「これで大丈夫ゾイ・・・少し休みたい・・・」

ミッション2をクリアし終えた逃走者達。すると間髪いれずにまたメールが・・・

ピピピピピー！

のぞみ「またメール？『ミッション3』・・・」

えりか「先ほどのミッションで発行された紋章はブラックライトにかざすと数字が現れるようになってる。『そのなの？』」

ソニック「ミッション3つて早いな……。ブラックライトってこれか！」

ピーチ「あ！中心に数字が出てきた！」

フェイト「ナンバーは……。24」

はやて「お、またメール。」

メールの指示通りに全員はゲーム開始時に配布されたブラックライトを使って手に認証されている紋章を照らす。すると紋章の中心に数字が現れた。

ちなみに紋章と数字は逃走者によって違い、重複するのは紋章だけで数字は重複せず、紋章は地・水・火・風と四大元素をモチーフにした紋章が全部で4つ。

だが、この紋章と数字が逃走者全員に混乱をもたらす！！

ピピピピピ！

ルイージ「まただ……。メールの続きだ。」実はその数字は紋章発行装置で紋章を発行した際の順番だ。『ふーん……。』

のぞみ「『その中に3の倍数を持つ逃走者は南エリアにあるゲーム

センターに向かい、ピンボールゲームをやってもらおう。『ゲーム？』

アルル「『だが、このピンボールゲームは・・・』」

全員「『ゲームの結果次第でエリア封鎖と該当する紋章を持つ逃走者の強制失格が決定する。』はああっ！？」

『ミッション3』エリア封鎖と強制失格を阻止せよ！！

残り時間55分になると全てのエリア封鎖と逃走者全員が強制失格となってしまう。阻止するにはミッション2で入手した紋章の発行順が3の倍数である逃走者が南エリアにあるゲームセンターに向かい、ピンボールゲームに挑戦して、エリア封鎖と強制失格を阻止しなければならぬ。

ゲームの結果により、エリアの封鎖と該当する紋章を持つ逃走者の強制失格が決まり、封鎖されたエリアにいた逃走者は強制失格となる。さらに3の倍数以外の逃走者達はミッション3のメールが届いた時にいたエリアから出る事が禁止され、ミッション3の結果が出る前に別のエリアに出てしまうと強制失格となる（3の倍数の逃走者は移動が可能で、ゲームの結果で失格にもなる可能性あり）。

咲「ちょっと待ってよ！あたし達の運命は3の倍数の逃走者が握っている事！？」



スバル「しかも、エリアから出てはいけないうって事は55分になる  
までは一つのエリアで逃げ回れって事じゃん!!」

ガノン「片方が阻止できても、強制失格はあり得るのか・・・!」

リンク「責任重大だぞ!俺は・・・6番!?!」

ゼルダ「お願い・・・!」

ちなみに紋章の所持者と逃走者の位置はこうなっている

地の紋章：ピーチ、リンク、ガノン、フォックス、ポポ、ひかり、  
咲、のぞみ、つぼみ、はやて、アルル

水の紋章：ヤンリン、デデデ、ファルコ、ウルフ、ウォッチ、かれ  
ん、えりか、奏、なのは、クルーク

火の紋章：マリオ、ルイージ、レッド、ネス、ナナ、オリマー、り  
ん、響、フェイト、シグナム、アミティ

風の紋章：ゼルダ、トウーン、ピカチュウ、プリン、ソニック、く  
るみ、いつき、スバル、ヴィータ

東エリア：リンク、レッド、プリン、ナナ、咲、くるみ、響、奏、  
シグナム、クルーク

西エリア：ピーチ、トウーン、フォックス、ファルコ、ウルフ、つ

ぼみ、えりか、スバル  
南エリア：ゼルダ、ピカチュウ、ポポ、オリマー、りん、いつき、  
フェイト  
北エリア：ルイーダ、ヤンリン、ネス、ウォッチ、ひかり、かれん、  
なのは、アルル  
中央エリア：マリオ、ガノン、デデデ、ソニック、のぞみ、はやて、  
ヴィータ、アミティ

責任重大の3の倍数を持った逃走者は・・・

ウルフ「おいお前、どういう事か分かってるよな？」  
ピーチ「信じたくないけど、一言で言うなら頼むわ」

「トウーンちゃん」

トウーン「にゃー・・・」

周囲からのプレッシャーに押されている小さな勇者の右手には15の数字が刻まれていた・・・

「ミッション2終了時の結果」

逃走者：41人

ハンター：7体

「アイテム所持者」

ルイージ：レイガン、おいしいみず、なんでもなおし、ファイアフラワー、のろいのキノコ、たまごバクダン3つ、北エリアの地図

ピーチ：スター、スーパースコア

リンク：マキシムトマト、おいしいみず、なんでもなおし、モンスターボール、スマッシュボール、チーム回復だま、北エリアの地図  
ヤンリン：おとしあなのタネ、フリーザー、ポケモンパンセット（ちよつと食べた）、スマッシュボール

トウーン：スピードブーツ（残り8分）、さかさまキノコ、スマッシュボール、ロンロン牛乳、北エリアの地図

ピカチュウ：スクリューアタック、ゲキニガスプレー（あと2回分）、ピーピーエイダー、オボンの実3つ、北エリアの地図

プリン：チューインボム、スターロッド、リップステッキ、おいしいみず、なんでもなおし、すごいキズぐすり（いつきから貰った）、北エリアの地図

北エリアの地図

デデデ：ケセランパスラン、モンスターボール

フォックス：レイガン、スマートボム、無敵サングラス、スピード

ブーツ（未使用で10分）、ハートのうつわ、北エリアの地図

ファルコ：ミックスオレ3つ、オボンの実3つ

ウルフ：ビームソード、赤いクスリ、かみなりドツカン、ハリセン、ウサギずきん、ワープスター、双眼鏡、北エリアの地図

ネス：デクの実、ホームランバット、ボム兵、ポケモンパンセット（ヤンリンから貰った）

ナナ：フリーザー

オリマー：チーム回復だま

ソニック：ファイアフラワー、捕獲ネット

ひかり：ヨツシークッキー、マジックシールド

咲：PANPAPAパンの新作パン、キズぐすり5つ、すごいキズぐすり（いつきから貰った）、モンスターボール、北エリアの地図のぞみ：ハンマー、プリキュアパンセット

りん：ハリセン、捕獲ネット

かれん：どせいさん、望遠鏡

つぼみ：サッカーボール

えりか：ウサギずきん、ゼリージュース2つ、北エリアの地図

いつき：スマッシュボール、ロンロン牛乳、ユキヤこんこん、北エリアの地図

響：例のパーティグッズ（笑）、青いクスリ、羽ぼうし（3分間だけ飛行が可能）、北エリアの地図

奏：双眼鏡、チュチュゼリー

なのは：シャトー・ロマーニ

フェイト：ウサギずきん

スバル：スピードブーツ（未使用で10分）、いいキズぐすり5つ、双眼鏡、なにがおこるかな2つ、北エリアの地図

シグナム：双眼鏡

アルル：ゲキカラスプレー（あと1回）、緑のクスリ2つ、ウルトラキノコ、双眼鏡、北エリアの地図  
アミティ：バナナの皮、緑のクスリ

驚愕のミッションー！（後書き）

「ミッション3の説明」

りゅーと「今回のミッションはゲストを招いて説明しますー。ゲストはizumiさんとアイクです。」

izumi「はじめまして、僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！シリーズの作者のizumiです。」

アイク「その小説での逃走者のアイクだ。差し入れと宣伝、ありがとうな。」

izumi「しかし、今回のミッションは大勢の逃走者が強制失格に巻き込まれるものが来るとは・・・」

アイク「その条件が特定の逃走者の協力か・・・現段階ではフェイトとリンクとトゥーンか。あいつらは大丈夫だろうか・・・？」

りゅーと「まあ、運と意志しだいよね。だけど、言葉で説明するとめんどいから、ちょっと実際にやってみようかな？」

りゅーとが指パッチンすると場に巨大なピンボールマシンが現れた！

izumi「これが3の倍数を持つ逃走者のやるピンボール・・・」

りゅーと「そう！izumiさんとアイクには1球ずつボールをあげるからやってみて。ちなみにこのマシンはミッション3に使われる機体の処女作だから多少は強くやってもいいよ。」

izumi「へーい。1球行ってきまーす！！」

カン！カン！カン！（フリッパー（球を打ち返すバーの事）で弾く音）

アイク「お！ポケットに入ったぞ！えつと・・・」北エリア封鎖解除」。これで北エリアの逃走者の強制失格と北エリアの封鎖が阻止されたのか！？」

りゅーと「まだよ！紋章が残ってるわよ！」

izumi「これがガノンが言ってた事か・・・。次はアイクの番！」

アイク「OK！ぬうん！」

izumi「プランジャー（スタート時に球を発射する装置）を強く引きすぎ！って、すげー飛んだ！？」

カン！カン！カン！（同じくフリッパーで球を弾く音）

izumi「入ったのは「地の紋章所持者強制失格解除」！地の紋章所持者が全員助かった！」

りゅーと「この地点で助かった人は？」

二人「ひかりとアルル！」

りゅーと「正解。しかも、このミッション中は3の倍数の逃走者はメールを開いた時にいたエリアに分けられるから、南エリアとは認定されないからね。一番苦痛なのは・・・」

アイク「他の逃走者は同じエリアで逃げ回れ・・・」

izumi「一部のアイテムでの移動は禁止って事か・・・」

りゅーと「正解。このミッションは3の倍数の結果次第で全滅もあり得るってことよ？」

アイク「絶対にクリアしてほしいな・・・確か人数は・・・」

izumi「41人だから13人いるね。13人頑張れー！！！」

以上でミッション3の説明を終わります。

それと、ゲストのizumiさんの僕の好きなアニメ&ゲームのキ  
ャラで逃走中！シリーズもよかったですらどうぞ。



ゲームしたいのなら・・・（前書き）

ウルフ&リンク「てめえらのせいで怒られただろ・・・！」

ネス&ヤンリン&響「さーせんwww」

リンク「咲夜の能力と黒子の能力乱発は怖かったぞ！しかも、フェーリとアリスの最強技もあって、フェイトとシグナムとスバルが・・・」

ウルフ「俺、花畑でジェームスに会ったぞ・・・（ガクブルガクブル）」

izumiさんの所ではっちりを受けた模様

ゲームしたいのなら・・・

ミッション3でエリアの封鎖と強制失格の阻止を託された3の倍数を持つ逃走者。彼らは55分になるまでに南エリアにあるゲームセンターに向かい、ピンボールゲームでエリア封鎖と強制失格を阻止できるのか・・・!?

ちなみに3の倍数の逃走者を紹介しよう。

3	:	アミテイ	6	:	リンク	9	:	フォックス	12	:	えりか	15	:
トウ	:	ウン	18	:	奏	21	:	ひかり	24	:	フェイト	27	:
み	30	:	マリオ	33	:	ウオッチ	36	:	シグナム	39	:	ウイ ータ	

マリオ「これは全員の首を絞めてる事だろ!? 流石にこれは行った方がいいぞ!」

メールの内容を見たマリオは南エリアにあるゲームセンターへ向かう。幾度もピーチ姫を救って来た配管工は持ち前の正義感でゲームセンターへ足を進ませる。一人でも少ないとミッションのクリアの確率が低くなる事に十分把握している模様・・・。

しかし、そんな彼の前方に・・・

ハンター「・・・!」

マリオ「うげえ！こんな時にハンターが！？」

前方にハンターがいる事に気付いたマリオは自分に向かってくる相手に気付き、大急ぎでUターンして家のフェンスに隠れる。自分を確保しようとするハンターの存在に彼は苛立つ。相手は少し周りを見渡した後、角を曲がっていく……。

マリオ「こっちは急いでいるのに……ふざけんな！」

逃走中は常に危険と隣り合わせだ……

ナナ「移動できないのって本当に厳しいわね……」

メールの内容のせいで東エリアから出る事が許されないナナ。彼女は結果が来るまでの間、ハンターに見つからないように身を低くして隠れる。そんな彼女の前に……

ハンター「……」

ナナ（いるっ・・・！）

近くにハンターがいる事に気づき、茂みの死角に隠れる。幸いにも相手は前方しか見ておらず、近くの茂みにいる逃走者には気付いてないようだ・・・。

ナナ「あつぶなー・・・。しかし、この数字のせいで移動が無理なんでしょ？ポポに会えないよー・・・。」

やり過ごす事しかできない氷山登山家の少女は同業の少年に会えない原因を作りだしている38と刻まれた数字とにらめっこする。原っぱで寝そべる彼女は休もうとした時、ある事に気づき、携帯で電話をする！

その相手とは・・・

ブブブブブー！

ヴィータ「うっせえなあ！ハンターに見つかったらどうするんだよー！」

一方、ゲームスタート時からベンチの下に隠れ続けるヴィータの携帯に着信音が鳴り出した。手に着信機器の音をハンターに聞かれないように通話ボタンを押すと、もちろんの通りに電話に出る。

ヴィータ「へい、もしも「ヴィーター」！あんだ、隠れてんじゃないわよー！！」「ぬおおー！！」

電話で相手に文句を言おうとした瞬間、先手を相手に奪われる。電話の相手はナナだ。彼女は相当怒っており、ヴォルケンリッターに怒りをぶつける。突然の事にヴィータはキーンと耳鳴りする耳から携帯を離し、電話の相手に口を出す。

ナナ「あんださ、漁夫の利を狙ってんじゃないわよー！！」

ヴィータ「はあっ！？一体、何の事だよ！？あたしは何も・・・」

ナナ「ミッション2の時に紋章発行装置でクイズに答えずに人の紋章を持って行ったでしょ！？あれね、舞の物なのよー！！」

ヴィータ「持って行ったって・・・！つか、あれって、クイズがあったのかよ！？」

ナナ「そのせいで舞はクイズをもう一度やらされるはめになって、そこをハンターに狙われちゃったのよ！しかも、舞が入手できる紋章は39で今回のミッションに必要なものよ！それがあんだの手にあるのよ！分かってるでしょー！！」

ヴィータ「何故にあたしの番号を知ってたんだよー！！」

相手の一方的すぎる口論。ナナがヴィータの番号を知っている理由は自分の認証後に近くに舞とネスとヤンリンがいたのだ。そこから割り出すと相手の言う通りにヴィータの手には39の数字が……。

ナナ「もし、あんたが余計な事をしなかったら、ぐうたらなヴィータより真面目な舞が向かうはずだったのよ！そ・れ・に！このミッションで3の倍数の所持者は14人となってクリアしやすくなっただのよ！！」

ヴィータ「マジかよ！！舞が捕まっていなかったらそうなるのかよ！プリキュア、捕まりやが「人のせいにするんじゃないわよ！！！」

自分に説教する逃走者にヴィータは切れそうになり、携帯を切るうとした。だが、相手は最後に……

ナナ「このミッションは自分や他の人の運命がかかっているんだから、絶対にゲームセンターに行きなさいよ！！舞のための罪滅ぼしよ……！！」

ガチャ ツー……ツー……

ヴィータ「なんだよあいつ！あー、説教が終わったし、休もうか。」

ピュピュピュ！

ヴィータ「あん？また電話？もしも「ヴィータのあほんだれー！！」消えていった舞のためにミッションに絶対に向かえー！！」今度はヤンリンかよ！？」

ヤンリン「いい条件があるんだから、これぐらいは絶対にしろ！ヴォルケンリッターだろ！！」

二度目の電話の相手はヤンリンだった。電話の内容はナナと同じミッションに貢献しろという内容。相手も倍数に気付いてたため、すぐさまに電話をかけただろう。受話器部分から漏れる音を服で包み、さらにハンターに聞かれないように地面に伏せておく。

ヤンリン「これでやらなかったら、トライフォースラッシュの刑にしてやるからな！！」

ガチャ ツー・・・ツー・・・

ヴィータ「一方的のはこれで二度目・・・。紋章のは手に出来なかった相手が悪いだろ！ゆっくり隠れ・・・」

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

グイータ「おい・・・（マジ切れ）。今度は何「ジゴクニオチロ」  
今度はネスかよー!!」

ネス「マイノタメニモミッションスリーハゼツタイニヤレ。サモナ  
イト・・・」

グイータ「うるせー!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

完全に根に持っている模様です・・・

フェイト「はあ・・・はあ・・・ようやく着いた!」

24の数字を持つフェイトはミッションを貢献しようとゲームセンターへ向かう。自分がいたエリアが幸いにも南エリアだったため、彼女はハンターに警戒しながら前へと進む。すると大型のゲームセンターが見え、フェイトはガッツポーズをする。店に着くなり、店員を呼ぶ。  
すると奥からDJ風の恰好をした女性が現れ、フェイトに短く挨拶をする。

フェイト「すみません、ゲームセンターでピンボールゲームをした  
いのですが・・・」



女性「えつと、スペシャルピンボールの事ですか？」

フェイト「はい、それです！今からでも大丈夫ですか？」

女性「では、マイボールを持って来ていますか？」

フェイト「へっ？」

エリアの封鎖と逃走者の強制失格を急いで阻止したいのにピンボールゲームが出来ないのだ。なのはやはやて、同僚や部下を救うために来たライトニング分隊長はどういう事かと聞き出す。すると・

女性「スペシャルピンボールはお客様が調達したボール状のものでやるゲームです。これは特定の人のみにしか出来ない使用となっていますよ。例を言うならモンスターボールやボム兵やくす玉でやられるお客様が最近増えて人気になってますからね・・・」  
フェイト（まさか、宝箱に入っている球体や丸いアイテムでやらないといけないの!?!）

実はこのゲームセンターのピンボールは宝箱に入っている球体や丸いアイテムを使用しないとイケないのだ。フェイトが持っているアイテムは足が速くなるウサギずきんのみ・・・。モンスターボールやバンパー、ボールなんて持ってない。

これは直接来る逃走者にとってはまずいと判断する彼女の近くに・・・。

ハンター「……」

フェイト「それがあれば、誰でも出来るのね！」

女性「はい、最大3回まで出来ますよ。」

フェイト「3回か……。ちよつと宝箱のアイテムを探るか、誰かから貰うか……。って、きゃー！」

見つかった……！

ビーーーーー

LOCK ON FATE

フェイトは接近して来たハンターに気付き、大急ぎで逃げる。しかし、近距離なので持っていたウサギずきを装備して距離を稼ぎ、ハンターの視界から外れる。うまく撒けた彼女は息を整え、汗を拭く。

フェイト「あつぶな！会話中に不意打ちは卑怯よ！ずきんがあつてよかった……。ん？宝箱？」

アイテムの無駄遣いを防ごうとフェイトはウサギずきを外し、ほとぼりが冷めるまで待つ。するとゴミ捨て場の陰に宝箱が二つあった事に気付いた。箱を開けるとカービィのビーチボールとルアーボールが入っていた。

フェイト「ラッキー！これならピンボールの球の代わりに出来るはずよ！カービィのビーチボールは膨らまして・・・」

「一から膨らませないといけない事にライトニング分隊長は苛立ちながらも気合いで大きくする。一気に二つのアイテムを入手し、再度ゲームセンターに向かおうとしたが足を止めた。

フェイト「これは知らない人がいると思うわ！ちよっとメールで・・・！」

球体や丸いアイテムを消費しないといけない事を思い出し、フェイトは逃走者全員にメールを送った。

プププププ！

くるみ「ん？フェイトからのメールだわ。えーっと・・・」

ルイーダ「ミッション3はピンボールを挑戦する時に球体や丸いアイテムを持ちこんでやるみたいです。』 なっ……!?!?」

りん「最大3回出来るみたいですので、逃走者はアイテムを譲ってあげてください。』 うわ、この鬼畜使用は何……!?!?」

ゼルダ「宝箱はほとんど開けられているみたいですから、大丈夫かしら……?」

このメールの内容に逃走者は……

リンク「レアアイテムの消費は痛いけど、全部ピンボールに次ぎ込んだ方がいいかもしれないな……!?!?」

デデデ「おい、マリオ!これを使うゾイ!」

マリオ「モンスターボールをくれるのか!デデデ、ありがとな!」

ルイーダ「少しはあげた方がいいかもね……誰かいたら……!ボールだけじゃなく、他のアイテムをあげないと危ないかも!」

アイテムの譲渡や3の倍数の逃走者に遭遇した時に備え、逃走者同士の協力を考える。一方、牢獄の方でも・・・

レムレス「これさ、あげても大丈夫だよな？」

フェーリ「いいんじゃない？何もしないよりはマシよ」

舞「通りかかったらあげよう！」

カービィ「じゃあ、ぼくがボールになればー」

牢獄全員「いや、それは無理だ」

カービィ「ぼく、それで主役を務めたのにOTL」

かれん「このどせいさんも使えるのかも・・・」

腕の中で「ぼえーん」と鳴く謎の生物も使えるのではないかと考えるかれんは望遠鏡で3の倍数の逃走者を探す。すると、ズームをした先に同じプリキュアの少女を見つけた。相手は輝く生命を司るひかりだ。

ひかり「このミッション、嫌だー・・・」

かれん（ん・・・？手の数字って・・・3の倍数！）

ミッション関係者がアイテムを探している事に気付いた彼女はひかりに話しかける。すると相手は軽く挨拶をし、事情を説明する。

ひかり「アイテムの1つでも欲しいのですが、見つからなくて・・・」  
かれん「大丈夫よ。これ、よかつたら使ってみて。」

丸っこいという理由でどせいさんをひかりに渡す。しっかりと貰う彼女の手には21の数字が刻まれていた。ちなみに二人がいるエリアは南エリアの反対側である北エリアであり、急いで移動をしないといけない。

1つだけだと大きなプレッシャーに晒されるも、せつかくのチャンスを無駄にしたくないと意気込む。しかし・・・

ハンター「・・・」

ひかり「どせいさんを球代わりにするって、ちょっと心が・・・」  
かれん「仕方ないわ。ここは我慢して・・・」

ハンター「・・・!」

見つかった・・・！

ビーーーーー

LOCKON HIKARI KAREN

かれん「残り時間は・・・って、こんな時に!？」  
ひかり「来ないでー!嫌ー!」

ハンターに狙われたミッションの鍵を握るひかりとかれん。  
二人の運命は・・・!?

ゲームしたいのなら・・・（後書き）

「オマケ」子供組のトーク

ネス「これさ、ヴィータは行くと思う？」

ヤンリン&ナナ「行かないに1000円と切り札と咲とシグナムに  
密告」

ネス「さんせい！これ、12人だなうん。」



## 向かう者と待つ者（前書き）

ちなみにミッション3のピンボールを考えた理由はリリカルショー  
バイさん並みの鬼畜ミッションを考えようとしたのがきっかけです。  
最初はミッション2と連動させたら面白そうと考えたのですが、少  
しパンチが足りなかったので内容に悩みました。

どうしようかな・・・と置いていたら、家の倉庫から中古のゲーム  
が出て、そのゲームの中にGBのカービィピンボールとGBCのポ  
ケモンピンボールがありました。少しの間遊んでいたら、これは使  
えるとイメージが湧き、エリア封鎖や強制失格と絡ませたら、現在  
のミッション3が出来上がりました。

リアクションが思った通りの反応があったのでよかったです。

## 向かう者と待つ者

ハンターに狙われたひかりとかれん。二人は早めに気付き、振り切るうと全力で走る。元々足が遅い彼女達であるが、距離と障害物が功を奏してか、ハンターとの距離はほぼ一定のまま。このまま踏ん張れば逃げきれるだろう。

ひかり「もう少し走れば逃げられます！」

かれん「ええ！こんなところで捕まったら、笑われちゃうわ・・・！」

ハンターのスピードと持久力が落ちかけている事に気付いたプリキユア。次の角を利用して、どこかに隠れば逃げきれるだろう。二人はそう思った。走った先が無事だったら。

「なっ・・・！」

角を利用して逃げようとした時、短い悲鳴を上げる逃走者がいた。その悲鳴は一瞬だけであったが、発した者にとっては絶望と終わりを告げる最後の言葉だった。その意味はハンターに確保されて牢獄行きというもの・・・。

その悲鳴を上げたのは・・・？そして、悲鳴の理由は・・・？

かれん「私、逃げられないわ！」

そう、かれんだ。水のプリキュアが走り続けていた足を急に止めたのはその先が原因だった。ひかりと共に逃げた先は住宅街が密集する中央エリア。

そう、北エリアに分類され、3の倍数の所持者ではない彼女は中央エリアに行く事は禁じられている・・・！3の倍数であるもう一人の逃走者は難なく通れるが、かれんにとっては行き止まりを意味する・・・！

かれん「ひかり、これを持って行きなさい！」

ひかり「そんな事したら、かれんさんが・・・！」

かれん「いいから、ゲームセンターへ行きなさい！！みんなを助けないさい！」

さらに残りのアイテムを投げ飛ばすとひかりに一喝する。自分が囮になるから前へ進めと伝えると、相手は中央エリアへと走り出す。自分の役目を果たすかれんはひかりをハンターから遠ざけようと自ら追って来たハンターの方へUターンする。

結果は時間稼ぎになると同時に少し進んでからの確保。

64:26 水無月かれん確保 残り40人

かれん「生徒会長をしているから、誰かを助けちゃう癖がどうしても出ちゃうのよね。ふふっ。」

確保されても人のために役に立った彼女は誇らしげに笑っていた。

りん「『水無月かれん確保。残り40人』かれんさんが捕まった！？」

ポポ「エリアの制限でやられたんじゃない……！」

アルル「隣のエリアの境目は危ないね……！ちょっと移動しなきゃ……！」

ひかり「かれんさん……！ごめんなさい……！絶対にやります！」

ウルフ「トウインの奴、大丈夫かなー・・・？」  
ピーチ「何もやらないよりはマシよ。勇気を持って行った方がいいからね。」

つぼみ「こんなにも責任重大系のミッションは誰にとっても苦痛ですからね・・・。」

一方、西エリアで結果を待つのはウルフとピーチとつぼみ。三人はやる事が無く、ハンターに見つかからないように行動をする。普段は余裕を見せているスマブラファイターもこの時ばかりかは苦悶の表情を浮かべる・・・。この空気はつぼみにもひしひしと伝わってくる・・・。ついには無言に・・・。

ウルフ「・・・」

ピーチ「・・・」

つぼみ（会話が続きませんね・・・。こっとなったら！）

シュツ シュツ

ウルフ（ちょっと不安になってきたな・・・あん？）  
ピーチ（マリオ、大丈夫かしら・・・あら？）

気が滅入っている二人の鼻に入ったのはほのかな花の香り。その香りは二人の鼻孔をくすぐり、気分を爽快にさせる。フレッシュな香りが好きなキノコ王国の姫君と強すぎる香りが嫌いなスターウルフのリーダーも気に入り、横の方を見る。すると、そこにはココロパフュームを持つ花の名を持つプリキユアがあり、彼女はにっこりとほほ笑んでいた。

ピーチ「つぼみちゃん、あなたの香水の？」

ウルフ「これまた面倒なものを・・・」

つぼみ「香り強すぎてごめんなさい。少し落ち着いた方がいいですからね。ですけど、一つ言わせてください。」

普段は引つ込み思案である彼女は口を開き、二人をなだめる。気休め程度であるものの、ぴりぴりした空気では逃走中の参加意欲や逃げ切りの決意が消えてしまうだけではなく、ゲームセンターに向かっている逃走者に対して失礼にあたると注意する。

つぼみ「このミッションはほぼ運を頼りにしますし、ちゃんと行っているかと不安になるのは分かりますが、私達のために頑張る人をそういう風に貶すのは駄目ですからね！ウルフさんはトゥーン君を、ピーチさんはマリオさんを、私はえりかをいなくなるまで見送ったのは何のためですか！」

二人「・・・！」

いつものオドオドした態度とは一変し、つぼみは一喝する。自分より年下の子供に注意された二人はハツとなり、何かを思い出す。その様子を見た彼女は二人の間を通り、西エリアの花壇に咲く花をしやがんで摘む。摘まれた花は白くて花弁が多くある可愛らしい花。その花は全部で三輪あり、一本ずつウルフとピーチに手渡す。

つぼみ「この花はお二人や私にぴったりだと思います。アスターの花、花言葉は信じる心です」

ウルフ「信じる心……」

ピーチ「信じて待つ……」

受け取った花とその花が持つ花言葉に何かを察した二人。花の事に詳しい彼女は「絶対に逃げきりましょう！」と片に手を置いて気合いを込める。そんな三人の元に……

ハンター「……!」

ピ

LOCKON TSUBOMI PEACH WOLF

ウルフ「確かに俺らもあいつらを信じないといけないな・・・」  
ピーチ「私ったら、助けてくれるマリオを信じなかった日なんてないわ・・・」

つぼみ「その強く結ばれた絆は信頼関係を表していますからね・・・」

「こんな程度では諦めない！」

ハンターから逃げだす三人はミツシヨン3に向かったマリオとトゥーンとえりかを信じ、走り続ける。足は遅い方に分類されるものの、3人の戦闘で鍛えられた運動神経はよく、柵を軽々と飛び越え、橋から飛び降りて下の道へ避難すると逃走者を苦しめたハンターも諦めるしかない。

ウルフ「これでよし！大丈夫か！つぼみの一言で目を覚めたぜ！」  
ピーチ「つぼみちゃん、ありがとう。さっきの香水、ゲーム終了後に香りを教えてくれない？」

つぼみ「いいですよ！ただ・・・」  
ピーチ「ただ？」



つぼみ「橋から飛び降りた際に足が痺れて動けませ〜ん!!」  
チユドゴーン!!（二人がずっこける音）

その頃、願いを託されたマリオとトウーンとえりかの三人はと言う  
と・・・

マリオ「お前ら、ちゃんといるか!」  
トウーン「いるよ!」  
えりか「こっちもっしゅ!」

三人は自分達を信じている者たちから貰ったアイテムをしつかりと抱え、ゲームセンターを目指していた。三人の足は速度を上げる靴や木の実の効果によって風のように速くなり、ゲームセンターとの距離を縮める。マリオはピーチ、トウーンはウルフ、えりかはつぼみのためにも行くことと決意する。たとえ、ゲームの結果が悪くとも可能性を信じ、多くの犠牲者を出さないように足を進ませる。南エリアに突入し、後はゲームセンターに行くのみとなった。しかし・・・!

ハンター「……！」

見つかった……！

ピーーーーー

LOCK ON MARIO TONLINK ERIKA

マリオ「目の前にゲーセンがあるのに……これだと正面激突に・

・！」

トウーン「マリオ、僕に任せて！後ろ向きに走れー！」

えりか「邪魔すんなー！！！」

正面にいるハンターに進行方向が逆になるさかさまキノコを使った。するとハンターは自分達の方向を向いたまま遠くへ移動する。その隙に角を曲がり、三人はゲームセンターに辿り着いた！

三人「すみません！ピンボールをしたいのですが！ボールはありませんー！」

女性「はい、かしこまりました」

リンク「ちょっと待ったー！俺もさせてくれー！」

ひかり「はあ……！はあ……！私もさせてください！」

マリオ「リンクとひかりも来たのか！？大丈夫か！」

ひかり「これくらいは大丈夫です……！1球しかないんですけど・

・・」

リンク「（どせいさんで！？）ひかり、俺は多くあるけど、使うか？」

ゲームセンターに辿り着いたのはマリオ、リンク、トゥーン、ひかり、えりかの5人。その後、フェイトも戻って来て6人となった。残りアミテイ、フォックス、奏、のぞみ、ウオッチ、シグナム、ウィータの6人。残り55分になるまでにゲームセンターに来ないと、ゲームセンターの扉は閉まり、ゲームセンターに来た逃走者のみでのピンボールゲームとなり、クリアの確率が格段に落ちてしまふ……！

りん「うっひゃー、目の前にゲームセンターがあるのに……！」

南エリアのゲームセンターの前には炎のプリキュアの名を持つりん。彼女は宝箱からつきゅうと水晶を見つけ、これがゲームに繋がっていると分かるも、番号が違うため、ピンボールゲームが出来ないのだ。店の店員に入れないと断られ、素直に諦める。しかし、このままだと申し訳ないのでりんはある考えを出す。

りん「そうだ！あたしが中央エリアと南エリアの境目に行って、3の倍数の人に渡せばいいんだ！そのついでに案内もすれば確実に行けるわ！」

意外な方法で人助けが出来る事に気付くと、りんは重たい二つのアイテムを持ってエリアの境目に移動をする。後は3の倍数の逃走者が来るまでお店の陰に隠れるのみ。その考えは見事に的中し、誰かが中央エリアに向かってやってくる。それは・・・

りん（のぞみだ！あれ？のぞみの数字が27だ・・・まさか、のぞみにいくとはね・・・）

自分に迷惑をかける幼馴染がその数字を持っている事に頭が痛くなる彼女はのぞみを呼ぼうと声を出す。エリアから出て強制失格にならないように注意し、前に進む。しかし・・・

りん（のぞみ、泣いてる・・・!?）  
のぞみ「ひっぐ・・・!ひっぐ・・・!」

幼馴染の号泣、その訳は・・・

向かう者と待つ者（後書き）

「確保者の言葉」 11人目：かれん  
牢獄にて・・・

ハンター「・・・・・・・・（後ろ向きで牢獄の方に向っている）」  
かれん「何、このシュールな光景は・・・・・・・・」

トウインのキノコの効果で牢獄までムーンウォークしたみたいです

## 幼馴染（前書き）

「小ネタ」平和

平和1：昼寝中のウルフとトゥーンとプリンとリュカとネス。そこにピーチ姫が日傘を差す

平和2：なのはとフェイトとはやてが仲良くピクニック。お弁当のおかずを交換中

平和3：お菓子作りをする奏とエレンと咲。そこにつまみ食い常習犯の響が現れ、追いかけてこ開始。その光景を舞がスケッチ&みのり（咲の妹）が笑っている

平和4：部活に精を出すりんご。メモを取りながら考え中（アルル達との買い物、ぷよの研究）

平和5：屁をこく岩（屁岩）

マルス「この光景って何!？」

ドクター「スーパーマリオくんネタ!？」

沢田ユキオ先生の漫画は大好きです

## 幼馴染

りんの目の前にいるのは涙を流すのぞみ。一体、何があったのか・  
・？

数時間前・・・

ナナ「このミッションは自分や他の人の運命がかかっているんだから、絶対にゲームセンターに行きなさいよ！！舞のための罪滅ぼしよー！！」

ヤンリン「これでやらなかったら、トライフォースラッシュの刑に  
してやるからなー！！」

ネス「マイノタメニモミッションスリーハゼツタイニヤレ。サモナ  
イト・・・」

ヴィータ「・・・」

ミッション2で許されない行為をしたヴィータ。彼女の脳にミッシ



ヨン3に行けという言葉がガンガン響いている。クイズをやらずに紋章を奪う行為は誰から見ても許されないもの。しばらく考えた後、ヴィータは顔をキリっとさせる。真剣な目つきになり、そして・・・

ヴィータ「行かねえぞ！（ドーン）」

どや顔で今回のミッションを参加しないと決めた。もし、本人達がいたら殺されるのは間違いない・・・。そうしているうちに誰かが走って来た。それは・・・

のぞみ「アイテムが全然ないよ〜！どこなのよ〜！」

そこにいたのはミッション3を貢献しようとするのぞみだった。手に27の数字を持つ夢のプリキュアは今いるエリアを移動しながら宝箱を探すと奮闘していた。宝箱を見つけても誰かが入手していたり、開けるとびっくり箱だったりとありがちな不幸だけじゃなく、途中でハンターにニアミスすると思ったようにうまくいかない。

それでも諦めきれずに宝箱を探しながら移動をする彼女の目に飛び込んだのはベンチの下にいるヴィータだった。相手を見かけたのぞみはアイテムを分けてもらおうと歩く。しかし、その安易な声かけ

がトラブルの原因になるうとは……。

のぞみ「ヴィータちゃん」

ヴィータ「ああっ！？何だよ！！って、プリキュア5の無能野郎じゃねえかー！」

のぞみ「ちょっとそれどういう意味よ！」

相手の悪口に怒りを堪え、のぞみはヴィータにアイテムを持っていないかと聞く。その時、彼女の手にも3の倍数がある事に気付き、のぞみはミッションに誘う。しかし……

のぞみ「アイテム持っていない？どうしても必要で……」

ヴィータ「持ってねえよ！！第一、あたしはここにずっといたんだからアイテムの存在なんて無視した！」

のぞみ「隠れてばかりなんてよくないよ……」  
ヴィータ「何だった？」

のぞみ「何でもないよ……あ！ヴィータちゃんの数字は3の倍数だよ！よかったら一緒に行か「はあっ！？」」

一緒にミッションに行こうと誘うと手を伸ばした瞬間、ヴィータはのぞみの手を払い除けた。突然の事に今まで怒りを堪えていた少女はついに切れる。

のぞみ「ちょっと、ヴィータちゃん！その態度は何なの！！？ミッション3は全員で協力しないといけないの分かってるの！？」

ヴィータ「知るか！！そんなミツシヨン、行くとハンターに捕まるオチだろ！仮に行っただとしてもピンボールゲームは失敗するに決まっただよ！！」

のぞみ「それさ、ミツシヨンに行ってる人に失礼すぎるでしょ！！？少しでも多くの人を助けられるのに！」

ヴィータ「そんなのは捕まってもいい奴が挑むんだよ！」

のぞみ「マジであり得ない！！もういい！私、行ってくる！！」

これ以上付き合うとよくないと分かると早々に向かう。しかし、走りだそうとした瞬間、ヴィータがのぞみの手を掴む！

のぞみ「ちよつと何！？私、急いでいるのよ！」

ヴィータ「お前、3の倍数だろ！！ちよつとよかった！！ピンボールゲームであたしのいる中央エリアと風の紋章に当ててくれないか！！」

のぞみ「ええっ！！？」

最悪な事にヴィータは同じ3の倍数ののぞみに自分の身を安全にする事を要求してきたのだ！全員の身を優先するのぞみにとって、この要求は断固拒否反対する。自分の身の安全を優先にしたいのなら、その手に持つ数字の役目通りに果たせばいい。それさえすれば、同時に少しの人を助けられるうえにエリアをキープ出来るのだ。ピンボールの報酬がいいものである事に変わりはない。

我が身の優先を他者に任せるヴォルケンリッターと自身で他者を優先する夢のプリキュアという言葉は次第に口論の原因となり、ついには暴言交じりに……。そして、ヴィータは勢い任せに飛んでんもない事を口にする……。

ヴィータ「何の取り柄もないプリキュア5のリーダーに言われたくねえんだよ！周囲はスポーツ万能や芸能人や小説家志望や生徒会長の間があるのに、リーダーのてめえは馬鹿で運動音痴だし、目立たないのに出しゃばってるんじゃないよ！！」

のぞみ「・・・」

この暴言にのぞみは深く傷ついてしまい、ついに涙を流してしまう。耐えられなくなった彼女はハンターに見つかる事をお構いなしにどこかへと走る。

のぞみ「ヴィータちゃん、最低・・・！酷い・・・！」

ヴィータ「はあっ？あたしは本音を言っただけなのに・・・。あ、ゲームセンターに向かうなら、絶対に中央エリアと風の紋章を当てるよなー！！」

そして、現在に至る・・・

のぞみ「私、何も出来ないんだ・・・迷惑をかけちゃった・・・」

りん「一体、何があったの！？どうしたの！！」

ヴィータとのやり取りを知らないりんは泣きじゃくるのぞみをあやし、話をしようとするも彼女は涙を流してしまう。最初は絶対に逃げ切ると決意した幼馴染が今では心が折れてしまっている……。

りん「のぞみ、迷ったの!? アイテムがないの!? ほら……あたしが……」

のぞみ「りんちゃんはうらやましいよ! スポーツ万能で人から頼られるし、私は何も出来ないのよ! みんなには迷惑をかけてしまうし、ミッションは全然貢献が出来ないのよ! アイテムも見つけられないし……」

のぞみ「私なんて頑張ったって無駄なのよ!」

パン

南エリアに響いたのはある一つの音。その音はりんがのぞみの頬を叩く音で、その音をきっかけに彼女は涙を流し続けるも、りんの行

動に何も言わなくなる。少し静かになった事を確認するとりんは目の前にいる幼馴染の頭をつかんで目を合わせた。

りん「のぞみ！あなたの精神力と何かを最後までやり遂げようとする心はそんな程度なの！？あたしの知っているのぞみはそんなじゃないよ！何年も付き合ってるあたしが見ているのぞみとは違う！」

のぞみ「・・・！」

りん「あたしが小さい時に涙を流していた時に一緒にいてくれたのは！？恋に悩んだあたしのためにアドバイスしてくれたのは！？その強い心でナイトメアの策から救ってくれたのは！？そして、キュアローズガーデンを救って解放しようとしたのは！！？何度も何度も迷惑をかけながらも頑張ったのは誰！！？」

りん「あなたにしか出来ない事があるんじゃないの！だから、リーダーになっただんじやない？」

のぞみ「りんちゃん・・・」

自分を信じてくれる幼馴染に一喝を入れられると、涙を拭う。先ほどの泣き顔はなく、そこにはいつもののぞみがいた。

のぞみ「りんちゃん、私は行ってくる！絶対にみんなを救ってみせる！絶対に頑張る！」

りん「おっし！そんなのぞみにはこれをあげる！」

アイテムを渡すと一緒に向かう事を告げる。そんな中・・・

ハンター「・・・！」

見つかった・・・！

ビーーーーー

LOCK ON NOZOMI RIN

のぞみ「うわっ、重たっ！！もうちょっといいのはいのー！」  
りん「警沢言わない！っち、こんな時に・・・！」

ハンターの接近に気付いたりんは持っていた捕獲ネットを使い、ハンターの動きを止める。すぐに動きを封じると火のプリキュアが前に出て夢のプリキュアを先導する。目的のゲームセンターに着くと、のぞみを後押しする。

りん「いい結果じゃなくても、多くの人を救いなさい！」  
のぞみ「もちろんよ！絶対にりんちゃんやみんなを救う夢を叶える  
ね！そして、逃走成功の夢も……！」

響「エリアの外に逃げたいのに羽ぼうしが使えない……！」

奏「アイテムが全然見つからないわ……」

響&奏「あ……」

東エリアで偶然にも森の中で遭遇した響と奏。幼馴染である彼女達はミッション3のデメリットが原因で思うように動けない。相手も自分達と同じように困惑している中、同じ声を出す。

響「今回のミッション、厳しいね……」

奏「うん……。私、このミッションは嫌なのよね……」

響「あー、分かるー……！」

奏「手にある紋章が恨めしいと思うわ。私じゃなく、運動しか取り柄のない響ならダッシュで行ってくれるのにー。」

響「どういう意味よー！ムキー！お菓子作りしか能がない奏が選ば



れるなんて信じられないんだけどねー？（怒）」

奏「私がお菓子作りにしか興味がないという意味なのー！？ひーび  
ーきー（怒）」

お互いの本音を言いながら、ミッションの不満をぶつける音を司る  
プリキュアの二人。最初は勢いだけのケンカも次第にほとぼりが冷  
めてしまい、ついには無言になる。その直後にお互いの顔を見て盛  
大に笑う。

響「でもさ、こんな風にケンカしててもあたし達は仲がいいもんね。  
ミッションも一緒に頑張ったり、二人揃って逃げ切りを目指してさ  
！」

奏「最初は二人に逃走中の招待状が届いた時はビックリしたもんね  
！その時は先に残ってやるとか、賞金の使い道で張り合っていたも  
んね。面白いの思い出しちゃったわ。」

近日の出来事を懐かしい思い出のように語る二人は笑顔を放ってお  
り、にっこりと見合わせる。それと同時に二人のそばに何か落ちて  
た。落ちたのは布に包まれたタマゴばくだん2つ。いきなりのアイ  
テムの登場にはてなマークを思い浮かべるも、奏にとっては……。

奏「これなら、ピンボールに挑戦できるよ！私行ってくる！これは  
私にしか出来ない事だから……」

響「待ちなさいよー！それじゃあ、あたしが役立たずという意味じ  
ゃん……！」

奏「だってー、これは3の倍数の18である私の役目だし……」

響「あたしも出来るんだからね！えいっ！」

エリア移動をしようとする奏の頭には羽のついたマリオの帽子があった。その帽子をかぶせたのは目の前にいる幼馴染の大親友。パタパタと羽が羽ばたくと、奏の体はふわりと浮き始める。天使のように飛んでいく少女とそれを見送る少女は最後に顔を見合わせ・・・

奏「気合いのレシピを見せてあげるわ！」

響「奏を信じているからね！」

二人「それと、ルイーダさん・・・アイテムありがとう！」

二人のいる東エリアの横には北エリアに該当する高台があった。その高い所に位置する所に永遠の二番手がいた。

ルイーダ（普通に渡したかったけど、エリア移動の禁止があったからね。それにあの場面では出れないからねー。こっそりしたかったけど、でも、勘付かれちゃったね。）

この直後にのぞみと奏がゲームセンターに到着した・・・。

店員「……」

## 幼馴染（後書き）

もうじきでミッション3が終了します。成功するのか・・・！

ん？ゲームセンターの画面に何かが映し出されている・・・  
「特殊ハンターの情報」ヒント3：能力を具体的に言うと2人は身体能力アップ系、3人は属性を操る、1人は変化系（重要なヒント）

運命のピンボールゲームはミッション3の終了を表す(前書き)

「小ネタ」ミッション2発動前のあの箱について

サムス「そう言えばさ、ミッション2が発動する前にいつきとピカチウが見つけた秘密のものを取り寄せる箱ってすごいよね。あれは誰でもいいの？」

りんご「誰でもいいみたいだけど、チームの輪が乱れるほどの恐ろしい効果があるから特定の時にしか使わないんだってよ？」

美希「ふーん……。中身は空っぽなのに……。？あ！ファルコンとスネークが来たわ！」

リデル「サムスさん、モテモテですねー」

サムス「もうっ……。私のはあの二人の事なんか……」

ロボット「アツ！ナニモハイッテイナイハコカラアイテムガデテキマシタ！」

キャロ「アイテムの効果ですね。出たのは……」

ユウちゃん「中身は何かなく？え……」

箱から出てきた中身：ファルコンとスネークがコレクションしているサムスの写真(全部隠し撮り)

レイくん「修羅場勃発フラグ……」

エリオ「うわぁ……。ストーカー……」

うらら「ねーねー、サムスさんの写真が多くあるみたいですけど……」

こまち「はい、君達はこっちに移動しようねー？(全員を避難)サムス……(チャージ中)」

ファルコン「おーい、サムス！よかったらお茶でも……」



## 運命のピンボールゲームはミッション3の終了を表す

別の場所にて・・・

レムレス「よかったらボム兵を持って行って！これを球代わりに！」  
舞「コウラも使って！アミティちゃん、頑張つて！」

アミティ「ありがとう！」

ソニック「本当なら俺と一緒にいきたいんだけど、役に立てなくてごめん・・・。Sorry・・・」

アミティ「気にしないで！ソニックのおかげでミッションやハンターから逃げられたんだ！今度は私がソニックを助ける番だよ！」

中央エリアで牢獄からアイテムを貰った彼女は大親友のソニックや牢獄からの声援を受けて南エリアへと向かう。今まで助けられた分をここで返す番と意気込む少女はアイテムを持って走り出す。しかし、曲がり角で・・・

ハンター「・・・！」

アミティ「きゃああー！こんな時にハンター！！？ここではたんきゅーはごめんだよ！」

ぽい つるっ バターン！

手持ちのバナナの皮を後ろに投げつけるとハンターはアミティの投げた黄色い果物の皮で転ぶ。こんなギャグ漫画的要素で転ぶ無表情の男に彼女は苦笑いするも、新たな危機に遭遇する。それは・・・

ビーーーーー

LOCK ON AMITIE

ハンター「・・・！」  
アミティ「もう一体別のハンターが来ちゃった！？ゲームセンターまであとちょっとだから・・・一か八かで！」

南エリアに差し掛かった時、別のハンターに遭遇したアミティはアイテムを持っているせいで動きは遅くなるも、全力で走り続ける。ハンターとの距離は縮まるも、目的の建物を見つけた瞬間、さらに全力で走りだす。

その結果、ミッション3に貢献する思いが勝ったのか、彼女の足はゲームセンターの敷地に入り込む。その瞬間にハンターは追跡を止めた。そう、ピンボールゲームの挑戦権を得たのだ・・・。

アミティ「絶対にクリアするね・・・！」



その後、時間ギリギリでフォックスとシグナムとウォッチが到着し、その数分後にゲームセンターの扉は閉ざされた……。同時にゲームの時間はストップし、ハンターは一時的に動きを止める。逃走者も同じだ。

そう、この時間はゲームセンターに行った3の倍数の逃走者であるアミテイ、リンク、フォックス、えりか、トウーン、奏、ひかり、フェイト、のぞみ、マリオ、ウォッチ、シグナムの12人がピンボールゲームに挑戦するという意味であり、エリア封鎖と他の逃走者の運命を委ねられた瞬間だった……。

全員が待つ中、こいつは……

ヴィータ「zzz……」

寝てるとはいいい度胸だな……？

逃走者全員が結果を待つ中、全員は3の倍数の逃走者を信じてずつと待ち続ける……。

緊張と無言が逃走者や牢獄、ドリームワールド全体を支配する。短い時間は長く感じられる……。そして、結果発表が……！

りゅーと「みんなー！おまたせー！結果発表の時間だよー！」

ドリームワールド全体にあるスピーカーからある声が逃走者の耳に響いた。その声はこの逃走中を企画した作者りゅーとの声。

急な放送に待機していた逃走者は仰天し、緊張と無言は強制的に消される。

ウルフ「びっくりした！いきなり流すんじゃないよー！……」

つぼみ「耳がキーンとしたですー……」

ピーチ「この短い時間が長く感じられたわ……」

ヴィータ「人が気持よく寝ているのに……（怒）」

ファルコ「逃走中があった事を忘れていた……！気を引き締めね

えと・・・」

アルル「結果はどうなったの・・・！二つとも大丈夫かな・・・？」

クルーク「来ないでくれ・・・あわわわわ・・・」

りゅうと「待ちに待った結果発表だよ！自分のいるエリアと自分の持つ紋章をしっかりと確認して！じゃあ言うよ・・・。エリア封鎖と該当する紋章の強制失格は・・・」

はたして・・・！

りゅうと「エリア封鎖と紋章所持者の強制失格は全くありません！したがって、ドリームワールドにいる逃走者全員は通常通りにゲームが出来ます！！」

全員「いやっただあああああああああああああああああああ！

「!!」

ゲームの結果はなんと奇跡的に封鎖エリアは一つもなく、紋章の強制失格はまったくなかった。

この結果に全員は大喜びし、近くにいる逃走者と抱き合う者もいれば、安心と同時に座りこむ者もいれば、嬉しさのあまりに緊張の糸が解けて大号泣する者もいた……。

しかし……!

りゅーと「しかし、ミッション3が終わったからと言って安心しないで!ここで嬉しいニュースと悲しいニュースがあります!」

ガノン「嬉しいニュースと悲しいニュースだと……!?!?」

エリア封鎖と強制失格の恐怖から逃れられた逃走者全員に再び緊張が走る。

作者の言葉からすると内容が嬉しいニュースと悲しいニュースがあ

るからにして、3の倍数の逃走者がピンボールゲームで何をしたのかと察せられる。一体、何があったのか……。

ゼルダ「内容を教えて！（まさか……！）」

りゅーと「そのニュースを言うね？嬉しいニュースは……」

全員「ドキドキ……」

りゅーと「ピンボールゲームでマリオがボーナス10万円を入れました！よって、自首や逃げ切りをした場合は10万円が加算されます！」

全員「おおー！」

マリオ「これで逃げ切れば130万……くふふ」

マリオが出した結果がもたらしたのは逃走者全員にとっては嬉しいものだった。それは10万円のボーナスがプラスされた事。この10万円は自首や逃げ切った場合に加算され、逃走成功だと130万

円となる・・・!

これには出したマリオを全員は感謝する。だが・・・

りゅーと「嬉しいニュースで舞い上がっているところ悪いけど、悲しいニュースがあるわよ!」

いつき「悲しいニュースの方を忘れてました・・・。最後に悲しいニュースを持ってこられると余計に緊張が走りますね・・・悲しいニュースって何ですか!？」

りゅーと「悲しいニュース? 悲しいニュースは・・・」

「強制失格者が1人出ました」

全員「!？」

ジュジュジュ！

衝撃的な放送内容と同時に全員が持っている携帯が一斉に鳴りだす。  
この音に牢獄の逃走者もびっくりし、携帯の画面を開く。

ドンキー「強制失格ってどういう事ウホか!?」

かれん「みんな落ち着いて！ちよつとメールを開いているわ！」

カービー「全員無事じゃないの!?どうして!!」

ティアナ「分からないわよ！あつちの方で私たちが知らない事が起きたと思うわ！」

ラフィーナ「ちよつと事情が何か分からないけど、一人は消えちゃったのね・・・」

ヨツシー「残っている3の倍数以外の逃走者は無事ですよね！じゃあ・・・」

レムレス「ピンボールゲームに挑戦した人が失格に・・・」

ワリオ「ふざけんなよ！誰が失格になつちまつたんだよ!？」

舞「咲は・・・お願い・・・!!」

シグ「ちよつと笑えない事が起きちゃったね・・・」

フェーリ「メール画面が出たわ・・・！かれん、教えて・・・」

かれん「ミッション3の強制失格者は・・・」

全員「ドキドキ・・・」

かれん「Mr・ゲーム&ウォッチ！」

55:00 Mr・ゲーム&ウォッチ強制失格 残り39人

ウォッチ「タシカニコレハシカタナイデスネ……。ナンデポケツトニアシモノヲハイチスルンデスカ……。トホホ……。」

ウォッチの言葉の意味とは……。？次回はポンボールゲームに挑戦した逃走者達の場面を！



運命のピンボールゲームはミッション3の終了を表す（後書き）

「確保者の言葉」 12人目：ウオッチ  
ウオッチ「ミッションスリーハオワツタンデスケド、ジカイハゲー  
ムセンターナイブニツイテシヨウカイシマス。ソノトキニムカッタ  
バイスウトウソウシャノヨウストワタシノキョウセイシツカクノド  
ウリヲオシエマス。」

彼の手に持っている看板には・・・

「片言で読みづらくてごめんなさい」

内部では・・・(前書き)

外にて・・・

マルス「あれ・・・ウォッチだよね？」

ロイ「うん、ウォッチだ」

アイク「あいつ、逃走中に出てなかったのか？」

メタナイト「しかし、よく見ると・・・」

全員「マスハンに連行されているような気がする・・・」

一体、何があったのかは本編で！

内部では・・・

ミッション3を活躍したとも言える3の倍数の所持者である逃走者。12人の活躍とその事件を見てみよう・・・。

ゲームセンターに辿り着いた彼らは一人ずつとある個室に案内された。そこは巨大なピンボールがあり、ポケットの部分には？と書かれたプレートがあつた。そこにエリア封鎖の阻止や紋章所持者の強制失格の阻止に関係している事が書かれているだろう。よくよく見るとプレートには切れ込みがあり、持ってきたアイテムの重みでひっくり返る構造になっているのだろう・・・。

電飾やカッコいいイラストで装飾されたピンボールを見渡すと全員は気合いを入れ、プランジャー（ピンボールで球を発射する装置）にアイテムをセットした。

アミティ（3の数字：中火：ボム兵・赤コウラ）

挑戦者の横には数字・該当エリアと紋章・所持アイテムです

アミティ「いっくよー！それ！フリッパー（球を弾く操作の出来るバー）でポケットに入れて・・・」

カン！カン！カン！（弾く音）

アミティ「入ったのは・・・！」

アミティの結果：火の紋章の逃走者の強制失格阻止、水の紋章の逃

走者の強制失格阻止

アミティ「よし！残りの人も頑張つて！」

リンク（6の数字：東地：スマッシュボール・チーム回復だま・モンスターボール）

リンク「みんなには悪いけど、ゼルダには残ってほしいからな……行くぞ！」

カン！カン！カン！

リンクの結果：南エリアの封鎖阻止、風の紋章の逃走者の強制失格阻止、西エリアの封鎖阻止

リンク（ゼルダは確実に助かった……残りの方も助かったな……）

フォックス・マクラウド（9の数字：西地：バンパー）

フォックス「一つしかないけど、負担を減らさないと……！」

カン！カン！カン！

フォックスの結果：北エリアの封鎖阻止

フォックス「別のが出てしまった・・・！すまん・・・！」

来海えりか（12の数字：西水：テレサボール（ルイージマンションでテレサを見つける時に出るフェイク）・サッカーボール・地球儀）

えりか「アイテムのは絶対にふざけてるよね〜；だけど、つぼみやみんなのためにもやるっしゅ！あたしは奇蹟の女よ！！」

カン！カン！カン！

えりかの結果：西エリアの封鎖阻止、地の紋章の逃走者の強制失格阻止、レアアイテムプレゼント

えりか「つぼみは助かった！あたしは水の紋章が出れば・・・ん？レアアイテム？」

クレハン「えりか、レアアイテムに当てたのか？」

えりか「うん、そうだけど・・・げー！！左手が急に出たー！！」  
クレハン「落ち着けー！！」

えりかの疑問を答えるかのように部屋にスマブラのクレハンが現れた。彼の登場に海の名を持つプリキュアは腰を抜かすも、防音対策が練られている部屋では絶叫の意味がない。女の子らしくない相手

に破壊神は指をくるりと回すとえりかの前にある物を出す。それは三つの宝箱……。

クレハン「どれか一つ選べ」

えりか「貰えるんだ！じゃあ……左の宝箱！」

クレハン「これでいいのか？じゃあ……」

クレハンはえりかの選んだ宝箱を場に置き、残りの二つを握るとどこかに消した。すると、ドリームワールドのどこかに宝箱が新たに二つ設置された。

えりか「選ばれなかったのはエリアに置かれるんだ……。これ、つぼみにあげよーっと！」

その後、トウーン、奏、ひかり、フェイト、のぞみが挑戦し、ほとんどのエリアの封鎖阻止や紋章の逃走者の強制失格の阻止に成功した。挑戦者は自分の身や大切な人、多くの人を救おうと自分を信じ、ゲームに挑戦する。

しかし、重複をしている事や誰がどこを当てたかは誰も知らない……。孤独と自分の運と戦わされている気がする……。早く終わってほしい……。

マリオ(30の数字：中火：パサラン、ビーチボール、ボム兵)  
マリオ「行くぜー！多くあるアイテムを無駄にしないように・・・  
！とりゃ！」

カン！カン！カン！

マリオの結果：中央エリアの封鎖阻止、地の紋章の逃走者の強制失格阻止、ボーナス10万円

マリオ「10万？」

マスハン「これは自首や逃走成功時の賞金が10万円加算される。

つまり、逃げできれば130万円獲得出来るのだ。」

マリオ「マジかよ！？つて、マスハン！お前も来てたのか！！」

マスハン「ああ、クレハンもいるぞ。ちなみにゲームの舞台作りに私達も手伝ったんだ。他にもちよっとお仕事をしている。」

マリオ「へえー・・・。」

Mr.ゲーム&ウオッチ(33の数字：北水：スイカ、どせいさん)  
ウオッチ「イキマス！スコシデモタスカレバ・・・！」

カン！カン！カン！

ウオッチが最初に入れたのは南エリアの封鎖阻止。南エリアにいる

逃走者の負担が減らせると同時に自信を出す。次の結果でいいのが  
出れば……！

ウォッチ「ニカイメ！ケツカハ……」

ウォッチが入れたポケットの文字：強制失格

ウォッチ「へ？」

マスハン「ウォッチ、強制失格ー！（ウォッチの首根っこを掴み移  
動」

ウォッチ「ちょっとマツテクダサイ！ピンボールゲームニコレハア  
リマセンヨ！？セメテワープシテクダサイ！ソラヲトンデイドウト  
ナルトサラシモノニナルー！！ギャー！」

シグナム「全部のエリアと全部の紋章の阻止に成功したのか。よか  
った……。あたしは主はやてが無事で何よりだ。ん？」

ゲームセンターを出たシグナムの目に飛び込んできたのは空飛ぶ右  
手に連行されるレトロゲームの大先輩の姿だった……



シグナム「変な事をするとかんな羞恥プレイがあるのか……晒しものだけは勘弁だ……」

「ミッション3終了時の結果」

逃走者：39人

ハンター：7体

「アイテム所持者」

ルイージ：レイガン、おいしいみず、なんでもなおし、ファイアフラワー、のろいのキノコ、たまごバクダン、北エリアの地図

ピーチ：スター、スーパースコア

リンク：マキシムトマト、おいしいみず、なんでもなおし、北エリアの地図

ヤンリン：おとしあなのタネ、フリーザー、ポケモンパンセット（ちよつと食べた）、スマッシュボール

トウーン：スピードブーツ（残り6分）、スマッシュボール、ロンロン牛乳、北エリアの地図

ピカチュウ：スクリユアアタック、ゲキニガスプレー（あと2回分）、ピーピーエイダー、オボンの実3つ、北エリアの地図

プリン：チューインボム、スターロッド、リップステッキ、おいしいみず、なんでもなおし、すごいキズぐすり（いつきから貰った）、

北エリアの地図

デデデ：モンスターボール

フォックス：レイガン、スマートボム、無敵サングラス、スピードブーツ（残り7分）、ハートのうつわ、北エリアの地図  
ファルコ：ミックスオレ3つ、オボンの実3つ

ウルフ：ビームソード、赤いクスリ、かみなりドツカン、ハリセン、ウサギずきん、ワープスター、双眼鏡、北エリアの地図

ネス：デクの実、ホームランバット、ボム兵、ポケモンパンセット（ヤンリンから貰った）

ナナ：フリーザー

オリマー：チーム回復だま

ソニック：ファイアフラワー、捕獲ネット

ひかり：ヨツシークッキー、マジックシールド、かれんから貰った望遠鏡

咲：PANPAKAPANの新作パン、キズぐすり5つ、すごいキズぐすり、モンスターボール、北エリアの地図

のぞみ：ハンマー、プリキュアパンセット

りん：ハリセン

えりか：ゼリージュース2つ、クレハンから貰ったレアアイテム、

北エリアの地図

いつき：スマツシュボール、ロンロン牛乳、ユキやこんこん、北エリアの地図

響：例のパーティーグッズ（笑）、青いクスリ、北エリアの地図

奏：双眼鏡、チュチュゼリー

なのは：シャトー・ロマーニ

スバル：スピードブーツ（未使用で10分）、いいキズぐすり5つ、

双眼鏡、なにがおこるかな2つ、北エリアの地図

シグナム：双眼鏡

アルル：ゲキカラスプレー（あと1回）、緑のクスリ2つ、ウルト  
ラキノコ、双眼鏡、北エリアの地図  
アミテイ：緑のクスリ

「補足」

クレハンの手によりレアアイテム入りの宝箱が二つ追加

内部では・・・(後書き)

「牢獄 DE とーく」

ウォッチ「アンナシウチハヒドスギマスOTL」

りゅーと「ちなみに違反者は両手が裁きに行くみたいだよー？」

## ミッション4は戦え！（前書き）

ウルフ「ここに小説を投稿してから1ヶ月とちよつとか……。これで21話目……。みんなのおかげで来れた……。」

トウーン「感想や評価、お気に入り登録してくれてありがとうねー！」

プリン「あとね、ちよつとしたミッションで投票をする事になるから、協力をしてほしいでゅー！」

リンク「感想と同時に差し入れを送ってくれてありがとうな！みんなで分けて食べていると同時に感謝しているからな。」

ネス「まあ、ボク達はみんなに悪戯が出来れば十分幸せだけどねー」

ヤンリン「そうそう！打ち上げ時には全員を巻き込んで熱湯風呂やアツアツおでんを……」

ファルコ「それ以上したらランドマスターで場外にするぞ？その糞餓鬼コンビ？」

ルイージ「落ち着いてね。じゃあ、小説本編をどうぞー！」

## ミッション4は戦え！

ミッション3を終えてから51人いた逃走者は残り39人となった。何度も来るミッションに振り回されながらも逃走者全員は逃げ続ける……。

プリン「ふう……これで無事でしゅね……」

ゲームの結果が伝えられた後、移動の制限はなくなった。これでも安心できるかと思いきや、相当なプレッシャーが原因でプリンは少し動けなくなっていた。怖くなった彼女はずっと身を潜めるも恐怖は抜けない。

泣きそうになるプリンは自首に向かおうかなと悩んだその時……

ピュピュピュ！

プリン「ひっ！……携帯でしゅか……誰から……」

携帯の着信音をハンターに聞かれないようにすぐに電話に出る。電話の相手の声を聞いた瞬間、プリンは笑顔になる。

プリン「ウルフしゃん！」

ウルフ「プリンか？俺だ。大丈夫か？」

プリン「大丈夫じゃないでしゅよー！東エリアから出れなくなつてハンターに会いそうになつて怖かつたんでしゅ！」  
ウルフ「そ・・・そうなんだ・・・」

電話の相手は自分と仲のいい狼。彼の声を聞くとポケモン界の歌姫は今までに溜めていた感情を吐露し、ウルフに文句を言う。しかし、その文句を言う可愛らしい言葉を放っているポケモンは涙を流すも、少し笑顔だった。

ウルフ「でも、お前がそのようにいると言ってるなら大丈夫みたいだな。俺様はトウーンを迎えに行くついでにお前のいる所へ向かう。」

プリン「え・・・」  
ウルフ「残り時間がもう半分に差し掛かるだろ？その付近になると厄介なミッションが下されると思うから、早めに合流した方がいいと俺は思う。次のミッションはミッション3以上の厄介なものが来ると考えられる。」

そう、次のミッションは危険なものが来ると判断した相手はミッションが来る前に早めに行動した方がいいと考える。早めに対策を練ったか練らないかで次のミッションの成功が失敗を左右するだろう・・・。  
大半の逃走者も同じ考えをしているはず。その言葉を聞くと、プリンは涙を拭き、真剣な目つきになる。

プリン「ウルフしゃん、プリンは待っているでしゅ！」

ウルフ「ああ！プリンも絶対に残れよ！」

相手の激励の言葉を聞いたプリンはミッションが来る前に何か出来ないかと思い、行動をした。

えりか「つぼみー！！あたしはやったよー！！（涙）」

つぼみ「えりか！静かにしてください！見つかったちゃいます！」

一方、南エリアでハートキャッチプリキュアの二人が合流した。つぼみとえりかはお互いを思い、一つの場所に合流すると決めた。ハインターに見つかる恐れがあるかもしれないというのにうっかりと大声を出す親友は「悪い悪い」と笑顔で謝る。冷や冷やする場面があったものの、二人は安堵をする。

えりか「つぼみの事を考えてちゃんと入れたよ！へへーん！」

つぼみ「私のために・・・自分の方も・・・」

えりか「いいの！つぼみは家で待っているお母さんやお父さんやおばあちゃん、それに生まれたふたばちゃんのためにも絶対に頑張るなよ！」

つぼみ「あ・・・そうでしたね！」

えりか「あ！そうだ！これ、つぼみがくれたサッカーボールで当たれアイテムなの！つぼみはアイテムを持っていないんだから一つは持っていた方がいいよ！」



えりかは先ほどのゲームセンターで当てたレアアイテムをつぼみに渡した。渡されたのは綺麗な妖精が入ったビンだった。綺麗なものに弱い彼女にとって、プレゼントは嬉しいもの。相手の気持ちを粗末にしないように受け取るとポケットにしまう。そこに・・・

ハンター「・・・」

つぼみ「このアイテム、大事にしますね！・・・！ハンターがいる！」

ハンターの接近に気付いた二人は大急ぎで離れるように移動を試みる。つぼみは右の角、えりかは左の角を曲がる。幸いにもハンターは二人に気付いておらず、周囲を見渡すのみだった。

そして・・・

残り時間50分

ヤンリン「ネスー！宝箱からパーティグッズの大仏お面を入手したぜー！」

ネス「僕もだー！僕は馬のお面だ！これ欲しかった！やったー！」

ハズレとも言うべきアイテムの入手に大喜びする少年二人。何事も前向き思考で逃走中に挑むネスとヤンリンの携帯に・・・

ピピピピピ...

ネス「来たぞ！」

ガノン「『ミッション4』・・・」

ファルコ「『残り45分になるとエリアにいる7体のハンターは消え、代わりに・・・』」

ピカチュウ「『特殊ハンター3体が追加される。』特殊ハンター・・・？」

なのは「『彼らを撃破せよ。』戦い・・・！？嘘でしょ・・・！」

『ミッション4』特殊ハンターを撃破せよ！

残り時間45分になるとドリームワールドにいるハンターは一時的に消え、代わりに3人の特殊ハンターが追加される。特殊ハンターは戦闘に特化されており、遠慮なしに能力を使って来る。

彼らを退けるには5回ブレイクが条件。その際に技の使用や能力の使用を認める。先ほどの宝箱の一部のアイテムの使用も許可する。ただし、彼らに撃破されてしまうと戦闘不能とみなされ、強制的に確保されてしまい牢獄行きになる。ちなみに特殊ハンター戦では以下のルールを採用する。

- 1：特殊ハンター戦ではレベルシステムを稼働。全員の初期レベルはレベル1
- 2：特殊ハンターとの戦いでバトルに勝つと特殊ハンターのブレイク数がカウントされる。その際に戦闘に携わった者達全員は有無を言わずにレベルが1段階上がる。
- 3：なお、ブレイクのカウントはバトルに勝利するだけではなく、強力な一撃でのダメージや急所への一撃が見なされると即カウント&レベルアップ
- 4：ただし、レベルが高くなるにつれ、特殊ハンターの能力がぐんと上がるので要注意。
- 5：さらに他や後半の特殊ハンター戦でもレベルは継続されるので要注意。
- 6：ちなみに特殊ハンター戦は時間が止まったまま&自首は不可（ここ重要）

なのは「負けたらアウトじゃん！しかも、これは後半になるにつれて私達が完全に不利になるし！」

ヴィータ「しかも、45分固定と自首は出来ない！？ふざけんな！！！」

咲「特殊ハンター戦は全員倒したらミッションが終了ってことだよね・・・？つまり、みんなが戦わないと全滅って事もあり得るじゃん！！！」

フォックス「だから、一部のアイテムは規制がかかってたのかよ・・・」

クルーク「これ、早めに自首でもした方がいいんじゃないかな・・・」

ミッション4の内容に逃走者全員は驚きを隠せず、疑問の声をあげる。メールが届いたのは50分弱、後5分でハンターはいなくなり、特殊ハンターが出現する。逃走者は彼らを倒す事がミッション4の内容・・・。

デデデ「読みが当たったゾイ・・・！これは・・・！」

ミッション3のみに使用されたゲームセンター。そのゲームセンターの内部には3の倍数の逃走者を案内した女性の店員がいた。彼女は通信機でミッション4の内容を確認すると、体が光り出した。発行が消える本来の姿に戻り、スタッフルームへと向かう。スタッフルームの扉が開くとそこにいたのは別の人物が肉まんを食べていた。相手は部屋の扉が開いた事に気付くと顔を上げる。

????4「????5殿、もう少しで拙者達の出番でござる。」

????5「え?もう?ボク達の出番なの?早いねー」

????4「いや、正確に言うともう少し先でござるよ。????3殿が最初に動いてからで、その後に拙者と????5殿が動くのでござる。しかし……」

????5「急に呼び出した事をまだ思ってるの?大丈夫だよ!ボクは????4さんを怒ってないからね!肉まんも十分に貰ったし。それに????6はもうちょっとで来るから、ミッション5には間に合うよー!」

????4「よかった……」

????5「あと、ボクからのお願いがあるけどいい?」

????4「ん?肉まんの追加でござるか?」

????5「そうじゃなくてー……」

????5「あとでデートに行いっね」

「???4」・・・(照)

ゲームセンターで盛り上がっている中、別の建物では・・・

「???3」そろそろ私の出番だね。私が最初に行けばいいのか・・・緊張するけど、逆に楽しみだ！そして楽しみだ！」

準備をする???3の後ろにある机の上に乗っている作戦が記された紙が風に乗って飛んで行く・・・。

彼らは一体、何者か・・・！？

紙には・・・

「特殊ハンターのヒント」

ヒント1：ジャンルはアニメ枠

ヒント2：男が4人で女が2人、全員能力持ち

ヒント3：能力を具体的に言くと2人は身体能力アップ系、3人は属性を操る、1人は変化系（重要なヒント）

ヒント4：個人のデータ（大ヒント）

「1人目」

男で30代後半ぐらい。性格はお節介焼きで面倒見のいいおじさん。人に好まれやすい。

個性のあるメンバーをまとめられるストッパーとフォロワー役をこなせるツツコミ持ち。今回の特殊ハンター達のリーダー格。

能力は身体能力アップ系でパンチ系の技を使う。戦闘方法は地形を利用した戦い方が得意で、ワイヤーギミックを隠し持っている。さらに機転を働かせたり、最後まで粘るので油断は禁物。性格が違う2人目とよくコンビを組んでいる。

「2人目」

男で20代半ば。性格は几帳面で真面目のツンデレ。1人目とコンビを組んでいる。

能力は1人目と同じ身体能力アップ系だが、こっちはキック系の技専門。戦闘方法は持ち前の頭脳で確実に相手を仕留める&接近戦に特化。プライドが高いので変な刺激を与えると暴走するので要注意。しっかりしているが、突然の予期せぬ事態には意外にも弱い部分があり。1人目とは性格が釣り合わない部分があるも、何だかんだ仲良くやっている。

「3人目」

男で20代後半。性格は明るくて洞察力があるが、ありえないほどの天然。包容力のある人。4人目とは仲がいい。能力はある属性を操る。戦闘方法は能力をフルに活用するため、逃



げ切りや撃破は厳しい。4人目のピンチに行く時もあるが、持ち前の天然スキルが原因で周囲が巻き込まれてしまう事がある……。しかも勘違いをするので余計に厄介。こうなってしまうと力づくでやらないと危険。

「4人目」

男で10代後半。性格はちょっとネガティブで智略家。人見知りが激しく、誰かの後ろに隠れている事が多い。変な事に巻き込まれやすい子（特に3人目と5人目、個性のある人、女子に何故か気に入られる）。守ってあげたくなるタイプ。

能力は変化系統。偵察や混乱がメインで、6人の中では弱い方に入る。だが、元々の戦闘能力が高く、場や状況によっては彼自身が最強になる恐れがあるので要注意。3人目や5人目、周囲のサポートを十分に受けており、助けられる事もあれば巻き込まれる事もある（大半の原因は3人目の暴走）。5人目の事が好きだが、嫌われたらどうしようかと怖がっているが・・・

「5人目」

女で10代半ば。この中では最年少。性格は明るくてボーイッシュでおしゃれに最近目覚めた。誰とでも仲がいい&女の子っぽいものや可愛いと言われるのが苦手。誰とでも仲が良く、4人目と6人目と女の子とは仲良し。花より団子の部分が多いが、スタイルは良い。食べる事が大好きで肉まんが大好き。

能力はある属性を操る。戦闘方法は能力を使い、さらに覚えている武術を組み合わせる。実は頭を使って考えるのが苦手、作戦を考える1人目と2人目と4人目のアドバイスを受けている。4人目が大好き！！

「6人目」

女で10代半ば。性格は流行に敏感の超多忙な女子高生。いろいろ

な人と仲がいいが、思春期でややスレ気味。ツンデレ気質あり。スタイルにちょっとコンプレックスを持ち、戦いになると女王様になる。一言で言うならば氷のように冷たくなる。

能力はある属性を操る。妨害や移動、遠距離攻撃に優れている。しかし、防御と体力が低いのが欠点で、ピンチになると可憐に回避技を使う。戦いはスタイリッシュかつ美しく。

噂では1人目の事が気になっており、年の差や性格、相手の事情などでかなり悩み、凄いつんつんしているがたまーにデレる？バツ1の子持ちの人に恋する女子高生で悪かったわね！

## ミッション4は戦え！（後書き）

特殊ハンターのヒントはこれで全部です。次の次あたりに特殊ハンターとの戦闘が開始です！

## 5分間での行動（前書き）

「小ネタ」読むと時間の無駄になりますのでスルーしてください

アミティ「パピパピパピコパピコ」

アルル「パピ？パピーコ！」

アミティ「パピー！パピーコ！」

アルル「パピコー！パピパピパピーコ！」

場所は変わってカフェでお茶中

アルル「パピパピパピ？」

アミティ「パピパピパピパピーコ。パピーコパピーコパピコ、パ

ピコパピーコパピパピコ。」

アルル「・・・」

アミティ「パピコ？」

アルル「パピパピ・・・パピコ・・・パピコパピパピーパピーコ・・・

」

アミティ「・・・！？」

アルル「パピコパピコパツピーコ。パツピーパツピコパピコパピコ

パピーコ・・・、パピ・・・パピコパピコパピコ・・・」

アミティ「パピコー！」

アミティ、アルルの頬を叩く！

アルル「パピコ・・・?」  
アミティ「パピコパピコパピコパピコパピコパピコパピコパピコ  
パピコパピコー!パピコー!」

アミティ「パピコパピコパピコパピコパピコパピコパピコパ  
ピコパピコパピコパピコパピコパピコパピコパピコー!」  
アルル「パピコパピコパピコパピコパピコパピコ・・・!パ  
ピコー!」  
アミティ「パピコー!」  
アルル「パピコー!」

二人は涙を流し、抱きついた・・・

りんご「出口の見えないコントをするなああああああああ!  
!!(魔法発動)」  
二人「ぎゃあああああああああー!!!」

元ネタはでんぢやらすじーさん&紀葉さんの小説の質問でやりまし  
た

## 5分間での行動

特殊ハンター戦の事をメールで知った逃走者全員。残り45分になると3体の特殊ハンターとの戦いが始まる……！

そんな最中、北エリアと中央エリアの境目にある3人の逃走者がいた。ネスとルイージとデデデだ。3人の会話はもちろんミッション4についてだ。

ネス「だけど、こんなに広いフィールドやアイテムがあるって事は特殊ハンターが強いんだよね？」

ルイージ「原作を知っているキャラがいればいいけど、それ以外は力押しや連携などだからね……。一人で挑むのはよくないし、ちよつと小さなグループを組んで様子を見た方がいいかも！」

デデデ「これは我輩らの出番だゾイ！この亜空間トリオが指揮を取ってで……。最低でも三グループは欲しいゾイ……」

亜空の使者で活躍した三人は僅かな時間内で出来る事はないかと策を練る。この5分間の動きでミッション4の行方を左右するといっても過言ではない。基本的な策を考えるとネス、ルイージ、デデデは別れ、残った逃走者にメールを送る。

「メールの内容」

メールを見たよね？レベルアップや相手の能力次第では全滅もあり得る！

たった今、僕とネスと大王が特殊ハンター対策チームを作った。戦

闘に協力してくれる人は特定の場所に向かって！戦闘が苦手な人でも持っているアイテムでのサポートや援護も可能だから、ちよつとでも多く参加してほしいんだ。現在、知り合いに電話をかけて連絡しているから、何かあったら連絡をちょうだい！また、僕達以外のグループを作つて別行動もいいよ！戦う意思がない逃走者や戦闘が苦手な人は反撃や逃走手順は用意した方がいいかも・・・。

長い文章でごめんだけど、みんな頑張つて・・・！

ポポ「これ、ちよつと考えた方がいいかも・・・！真つ先にナナに会いに行かないと・・・！」

リンク「先に姫の元へ・・・！だけど、45分までの間は普通のハンターがいるから気を付けないと・・・！」

ヴィータ「戦うのかよ、こんなのは大勢いるんだからいいだろ！特殊ハンター3人程度でガタガタ言ってる奴がよつぽどアホだぜ！」

くるみ「ちよつと少しまずいわね・・・。変身した方がいいかも・・・」

ルイージ「兄さん、ちよつと戦闘を手伝つ「嫌だ」・・・クソ兄貴（怒）」

レッド「戦闘前にさっさと自首しよう！今は60万を超えたから、マリオが当てた10万を加えると70万円・・・！これはいい金額だ！」

一方、東エリアの森にいるレッドは特殊ハンターが来る前に自首をしようと移動をしていた。その途中で宝箱を開けており、彼が開けた宝箱は全部で四つ。中身はほぼ当たりと言えるもの。これをどう使うかが鍵となる・・・。

アイテムを入手して有頂天になる彼はまたしても宝箱を見つけ、五つ目のアイテムを入手する。それと同時に自首用の公衆電話を見つける。しかし、レッドの背後に・・・

ハンター「・・・！」

見つかった・・・！

ビーーーーー

LOCK ON RED



レッド「確か番号はえーっと・・・って!?ハンター!!!」

自分に向かって走って来る黒ずくめの男にレッドは驚く。せつかくの自首のチャンスにハンターに來られて、確保となると水の泡となる。普通なら逃げるが、彼の場合はアイテムを多く所持している。その中にあるアイテムを使って回避する事も可能だ。レッドの所持アイテムは・・・!

- ・スマッシュボール(特殊ハンター戦のみに使用可能)
- ・スターロッド(これも特殊ハンター戦のみに使用可能)
- ・MP回復薬(いつでも使用可能&MP全回復)
- ・リップステッキ(3度目の特殊ハンター戦のみに(ry)
- ・ハンマー(言うまでもなく特殊ハンター(終了))

レッド「って、俺が全部持っているアイテムって特殊ハンター戦のみに使えるやつだけじゃん!!!俺はこんなところで確保されたくねえー!!!」

なんと、レッドはルールを破り、ロックされているハンマーを勝手に使用したのだ!すると、ハンマーを使用したポケモントレーナーは前へと進み、ハンターを何度も叩く。ダメージを受けたハンターは攻撃してくる少年から一時的に離れる。



「教訓」宝箱からたくさんアイテムを入手出来るからといっても、持っておくアイテムのバランスを考えましょう。通常のハンターには特殊ハンター用のアイテムは使えません。また、その逆も同じ。自首を目前にルールを破ったレッドは両手に潰されながら連行された。その際に暴れる彼から所持していたアイテムがポロポロと全部落ちる。その様子を見ていた逃走者が・・・

ピカチュウ「あいつ、アホだ・・・；持っておくアイテムはバランスよく考えるって言っただろ！つか、自首をしようとしたのかよ・・・。しかし、レッドの残したアイテムは上質のものだし、貰っておくか。」

ご主人の強制失格に頭を押さえるピカチュウはメールの確保情報にも目をくれず、レッドがいた場所へ向かう。そこに落ちているアイテムを回収するとどこかへ移動をした。

「牢獄 DE とーく」

ワリオ「ロックされているアイテムの使用はルール違反となって強制失格かよ・・・；」

ヨッシー「罰が重かったから終点の技で蚊のように潰されたんですね・・・；」

ウォッチ「シヨウジキイウトワタシノホウガジュウブンマシデシタ

ネ。」

レムレス「そつちはミッション中の強制失格だから軽かったんだと思う。」

かれん「じゃあ、今みたいになげると……」

ラフィーナ「こうなっちゃうのね；レッドが紙のようにぺらぺらに……」

ティアナ「このままだとレッドが風で飛ばされちゃうから空気ポンプで膨らみましょう。」

舞「そうしましょう。レッド君、ちょっと待ってて……」

カービィ「あつちでも事件が起きたね。だけど、本命は……」

フェーリ「特殊ハンターまであと3分……一体誰が……？」

ドンキー「俺も戦ってみたかったウホー！俺のパンチなら一発で……！」

シグ「この大勢に3体って、相当相手は余裕があるんだね」

スバル「あーウルフだー！やっほー！」

ウルフ「よっ」

咲「スバルも来たんだ！」

ルイージ「隠れて隠れて」

北エリアの遺跡付近の広場で作戦を考えるルイージの元にウルフ、咲、スバルが集まった。道中でもアイテムを拾い、戦力にも出来ないかと考える。集まったのは戦闘の腕に優れた逃走者。後にトゥーンやプリン、他の逃走者も向かうだろう。戦力とアイテムは十分かと思いきや……。

咲「あたし、舞がないと変身が出来ないよ……」

意外な落とし穴。そう、一部のプリキュアと一部のキャラは特定の条件下でないと変身や技が使えないのだ。これにはルイージも「あちゃー……」と苦笑い。だが、彼女の意志や覚悟は本物。戦闘が出来なくてもサポートは多少は可能だ。

咲「これでも出来るナリ！あとちょっとで相手が来るからご飯食べよう！あたしのお店のパンでも……」

スバル「ちようどおなか空いていたし、いったきまーす！あ、飲み物もいる？」

ウルフ「くれ。だけど、回復効果のあるのはなるべく残した方がいいぞ。」

僅かな休息で食事や体力の温存、アイテムの確保を行なう逃走者。そして……

特殊ハンターが動き出すまであと10秒……

1	2	3	4	5	6	7	8	9
.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.

「……風と共に……」

## 5分間での行動(後書き)

「確保者の言葉」13人目：レッド

レッド以外の全員「えっさえっさ・・・(ポンプで膨らまし中)」

レッド「ぶく〜・・・」

りゅーと「破裂させちゃだめだよー。あと、レッドは復活したら全員分のジュースとお菓子を買いに行きなさい。これでキャラにするから?」

レッド「へーい・・・(ぶくー)」



特殊ハンターの洗礼は・・・(前書き)

皆さんのおかげでPVアクセスが100000超えました！

お気に入り登録、感想、メッセージ、お祝いコメント、ありがとうございます！

特殊ハンターの洗礼は・・・

残り時間45分

残り45分になった瞬間、タイマーは止まり、ドリームワールドにいた7体のハンターは消えた。

この静かになった逃走エリアには逃走者と特殊ハンター以外誰もいない。特殊ハンターは一体、何者なのか・・・？

そう思っている中、中央エリアでは・・・

マリオ「あー、早く終わんねえかなー？ずっと止まりっぱなしって面倒だな・・・」

くるみ「でも、これだけの人数がいれば勝てるよね？まあ、多少はさぼっても問題はないし・・・」

ヴィータ「みんな特殊ハンターにビビりすぎだろ・・・」

ガノン「さつき、リンクが大急ぎでアイテムを集めていたのを見か

けたぞ。」  
クルーク「こういうのは隠れてやり過ぎすのが一番！」

一方、中央エリアの住宅街にいるのはマリオとくるみとヴィータとガノンとクルークの五人。彼ら全員はメールや電話が来ているにも係わらず、一向に向かおうとしない。

それどころか、戦闘の準備や変身などもせず、拳句の果てにはハンターがいなくなった大通りで堂々と座っていたり、見晴らしのいい道を歩く始末。完全に他人任せだ……。

マリオ「しかしさ、特殊ハンターの役をしているのって誰なんだ？  
くるみ「ちよつと気になるわ……。現れた時は現れたで攻撃すればいいし。」

ガノン「だったら、見に行ったらどうだ？お前が行ってくれ」  
ヴィータ「動くのが面倒だから嫌だ！動いたら殺されるフラグが立つ！！」

クルーク「たかが三人の人間程度で全員ビビるなんて……」

特殊ハンターが放たれてから数秒。他人任せの五人に特殊ハンターの洗礼が……



ドリームワールドの静寂を裂いたのはある轟音。その轟音は中央エリアからであり、遠くにいる逃走者の耳に入った。中央エリアを占めていた住宅街には巨大なクレーターが出来ており、周辺の家や塀は粉々に砕け、原形を留めていない……。クレーターが出来た影響でそこから中心に風が衝撃のように放たれ、タイルやアスファルトの下にある土や砂がむき出しになっている……。

つぼみ「今の音は何ですか！？まさか、特殊ハンター……！」

フェイト「メール！？何々……」特殊ハンターの手により、マリオ、ガノンドロフ、美々野くるみ、クルークが撃破。『4人も！？』

ゼルダ「『残るは34人。』……！開始してから10秒でやられるなんてありえないわ！？皆さん、強いはずなのに……！』」

スバル「こいつら、ミッションを他人任せにしたから、狙われたんだ……！」

45:00 マリオ、ガノンドロフ、美々野くるみ、クルーク撃破

残り34人

他人任せ組がこうなるのは自業自得だ。大半の人達はそう願く。この人数が牢獄に飛ばされると非難の嵐は間違いなく飛び交うだろう。・・・  
だが、この攻撃から逃げられた人がいた。それは・・・

ヴィータ「今の技ってなんだよ！！怖えーし！！！！」

にじファンでは（ミッションをやらずにしぶとく残ると）有名なヴォルケンリッターのヴィータだ。  
彼女がなぜ避け切れたかは今から30秒前・・・

マリオ「しかしさ、特殊ハンターの役をしているのって誰なんだ？くるみ「ちよつと気になるわ・・・。現れた時は現れたで攻撃すればいいし。」

ガノン「だったら、見に行ったらどうだ？お前が行ってくれ」  
ヴィータ「動くのが面倒だから嫌だ！動いたら殺されるフラグが立つ！！！！」

クルーク「たかが三人の人間程度で全員ビビるなんて・・・」

特殊ハンターの攻撃が来る前にヴィータを含む五人は中央エリアの大通りにいたのだ。この数秒後に特殊ハンターの攻撃が飛んできたのは覚えているだろう。

だが、ハンターの攻撃が直撃するまで15秒前にこんなドラマがあった・・・。

マリオ「ふと思ったんだけどさ、賞金を手に入れたら何に使うんだ？」

くるみ「私はココ様とナッツ様に振り向いてもらえるように美容に使う！」

ガノン「俺は高級なワインと武器を調達する」

クルーク「僕はマーケットで魔道書探し！」

マリオ「やっぱり、自分のために使うよなー！俺さ、この間ルイージに貯金しろと言われてさー・・・」

くるみ「貯金つて・・・。貯金なんてもつたいないわよ！100分逃げてお金を得られるゲームで得たお金を貯金しなくてもいいのに。」

ガノン「貴族と庶民の考えは違うからな。生きているうちに贅沢にした方がいいぞ。好きなものは十分に味わって・・・」

クルーク「今はお金がなかなか入手できないからねー。僕なら将来的に使える方向に使えばいいのにさー？」

牢獄行きになった四人が得られるお金の使い道と世間話。この時、風の球がぶつかるまであと10秒。

全員が全滅する時にそれは起きた。





九死に一生を得た彼女は牢獄に転送される自分と同類の逃走者に無向きもせず、大急ぎで移動を始めた。

ヴィータ「あたしが何をしたというんだよ!! ミッション4は逃げるに徹する!! 特殊ハンター? 他の奴らは挑むけど、さつさとやられちまえばいいんだよ!!」

ひかり（上空に何かがある・・・）

いつき（動いたらマリオさんみたいに牢獄行きになる・・・）

はやて（空中移動はやめた方がええな・・・）

上空に何かがあると察する逃走者は少しの間は様子を見ると決める。相手の情報が無い中で勝負を挑むのは自殺行為に当たる・・・。賢い者や戦いのプロはそう判断し、物陰に隠れて上空を見る。全員は先ほどの攻撃がきっかけで場に緊張が走る。上空には何が・・・?

ルイーダ「それよりもトウーンやプリンに合流しよう！二人が危ない……！」  
咲「うん！」

早々に合流をした方がいいと判断すると動く。だが、特殊ハンターはルイーダ、咲、スバル、ウルフの動きを捉えた！

ウルフ「次のエリアに行けるかが不安だ……。さつきから風が強……みんな、避ける……！」

ウルフの一言がきっかけで先ほどの風の球が飛んできた。攻撃の兆しを見切った彼は咲を抱えてウルフフラッシュで移動し、スバルは戦闘モードに切り替えて回避し、ルイーダはバックステップで避ける。四人のいた場所には先ほどと同じクレーターが出来ている……。

咲「今のって……！」  
ウルフ「言うまでもなく、特殊ハンターだ……。おい、俺らを狙ったのはてめえか……!?」

ウルフの目に映ったのは白と紫を基調としたロングコートのような装束を纏い、銀色のヘルメットをかぶった人物。胸には有名なスポンサーロゴを掲げ、アームパーツやブーツ、ベルトには金や銀の装飾が施されており、外見は騎士をイメージさせる。その人物は背中

に装着されているジェットパックと持っている能力で宙に浮いている。相手は手に小さな竜巻を作り、自分達を見ている。こいつが特殊ハンターの一人だろう……。

だが、この特殊ハンターは……！

ウルフ「何でTIGER&BUNNYのスカイハイがいるんだよ……！」

彼らが接触したのはTIGER&BUNNYのヒーローの一人のスカイハイだった……！

ヒーローが特殊ハンターとして現れた事に四人は言葉を失う。特殊ハンター……スカイハイは彼らの言葉に感じるかのように言葉を発する。

スカイハイ「私は風の魔術師スカイハイだ！よろしく！そしてよろしく！」

特殊ハンターNo.3：スカイハイ（TIGER&BUNNY）

風の魔術師の名を持つ元KOHのヒーロー<sup>キング・オブ・ヒーロー</sup>。能力は風を操る

彼の扱う能力は攻撃・防御・移動能力に長けている。スピードが速く、遠近両用の攻撃が出来ると万能型でほぼ死角がない。レベルが低い状態でも強敵&上空からの奇襲に要注意。撃破を狙うには連携や準備が必要。

やられてしまってもシステムの助けや本人の作戦の切り返しもあり、連戦でも怯まない。スカイハイだけでも恐ろしいが・・・

特殊ハンターの洗礼は・・・（後書き）

「確保者の言葉」 14人目：マリオ 15人目：くるみ 16人目：  
ガノン 17人目：クルーク  
牢獄組全員「てめえら、何しに行った？（怒）」  
四人「すみませんでしたOTL」

番外編：みんなでしりとり（前書き）

「しりとり」

注意！これはラルのPVについていたオマケ映像のしりとりのパロディです。進む前にちょっと注意をば。

- 1：版權キャラがしりとりをします
- 2：ジャンルはスマブラとプリキュアとリリカルなはとぶよぶよ
- 3：鼻屑のキャラが多くなります
- 4：キャラ崩壊は当たり前（今回はメタナイトがストーリーカーになっています）
- 5：ファンの方は逃げて！

この地点で嫌な予感がしたら逃げて下さい！  
よろしいですか？

りゅーと」「そろそろしりとりを始めるよー！最初はしりとりの「しり  
「！

しりとり

## 番外編：みんなでしりとり

リンク「俺が持つフックショットやクロショットはスマブラ用にちよつとリール改造しているんだ。これでアクロバティックな動きが出来るぜ！」

リール

ロイ「うわー、俺の髪みたいに赤い宝石だー。マルスの物？」  
マルス「うん、これは僕が依頼でもらったルビールの指輪だよ。」  
ルビー（長音は含めなため、次の文字は「び」です）

なのは「尻からスターライトブレイカー!!!」  
フェイト「なのはが魔法を極めすぎて壊れたー!!!」  
ビーム

ネス「アイスでも食べようつと（冷蔵庫から取り出す）」  
ヤンリン「まだ残っているし俺も（小皿とスプーンを持って来る）」  
ネス「じゃあ・・・（蓋を開けるとアイスから毛が）」  
むだ毛

ネス&ヤンリン「キヤー!!!（ショックのあまり、ベバラ風に）」

原画

ルルー「あの小娘め、私からサタン様を奪って……！ちょっと痛い目に遭わせてあげるわ……。とりあえず、靴の中に画鋏を一箱分入れておこうかしら？」

画鋏

子供リンク「ウサウサ（・x・）」  
ウサギ

ピーチ「ちょっと、そこのお兄さん。遊ばない？」  
クツパ「うひょー！美人のお姉さん、大歓迎ー！」  
銀座の女

アルル「せんだ」  
アミテイ「みつお」  
シグ&りんご「ナハナハ」  
ナハナハ

ルイージ「今日はキノピオスーパーではにーシロップが大安売り！」



？行かなきゃ！」

HONEY（本編ではしりとりの場合に ルクの曲が入っています）

ファルコン「サムス、はあはあ・・・（覗き）」

スネーク「こちら、スネーク。ミッション遂行中（覗き）」

生きがい

シグナム「ええ加減にせえや！！逃走中に悪口言っなー！！シグナム頭突き！」

ヴィータ「ぎゃぼー！（クリーンヒット）」

石頭

響「えっ！？お客さんが来るの！？紅茶とお菓子を用意しなきゃ！」  
奏「お菓子は冷蔵庫のケーキでいいよね！部屋は掃除を・・・」  
間に合わせ

ピーチ&クツパ「かんぱーい！」

接待（一部のしりとりはストーリーリー風になっているので見逃さないように）

イカ「げほげほげほ・・・」  
つぼみ「風邪気味のイカって・・・」  
いかがわしいイカ

カービィ「焼き焦げよー！ファイアー！  
ファルコ「ぎゃあああああああ！！！！」  
火葬（元ネタは花葬です）

ロイ&アイク「べちべちべちべちべち（うちわで叩き合い）  
うちわ喧嘩  
マルス「痴話ゲンカでしょ！！」

メタナイト「ペロペロペロ・・・」（カービィのリコーダーを舐める）  
カービィの笛

オリマー「行け！ピクミン！」  
ピクミン「ミー！ミー！」  
遠隔操作

ウルフ「トウーン、このスーツのシミは何だ？（笑顔）」

トウーン「えーつと・・・そのー・・・」

ウルフ「昨日、寝る前にジュースは飲むなど言っただよなあ？」

トウーン「ジュースは飲んでないよー？（目は別の方へ向いている）」

ウルフ「じゃあ、このシーツの黄色いハイラル地図はなーに？」

さらに笑顔

トウーン「・・・ジュースは飲んでませんが、寝る前にロンロン牛

乳を飲みました」

ウルフ「罰としておやつ抜き」

トウーン「にゃーーーーーー！？」

叫び

ファルコン「おお、サムスが・・・風呂に入るぞ・・・（はあはあ）」

スネーク「大佐、サムスが・・・サムスが・・・（目が充血）」

病気

クツパ「んでさー、マリオの奴が・・・」

ピーチ「へえー（相槌）」

聞き流す

ミュウツー「・・・はあっ！！（スプーンを曲げ）」

スプーン「」

黒を基調とした格好した謎の男「ん！（ミュウツーを指で指して同

じ格好をした仲間を呼ぶ」

ミュウツ「なっ!? 誰だ! お前達は! っつて、うわあああああ  
あああああ! (強制連行)」

りゅーと「みんなに言い忘れたけど、彼らは「ん」を管理する者。

このしりとりを終わらせないために「ん」が付く物、人、行為を排除するの。つまり、「ん」が付いたミュウツは「ん」を管理する者に連れて行かれちゃったのよ。」

全員(うわぁ・・・;)

クツパ「んでさー、マリオの奴が・・・」

ピーチ「へえー(相槌)」

聞き流す(「ん」がついたら、前に戻る)

ピット「犬 家(飛行時間が切れ、ドルピックタウンで発見される)」

マルス「何があったの!? (乱闘に遅れたため知らない)」

水死

ダーク「心を蝕むのは何・・・? 悪夢・・・? 狂気・・・? 欲望・・・?  
?それとも・・・あいつへの憎しみ・・・?」

浸食



コーヒーカップから潜水艦登場

クルーク「なんじゃこりゃ・」  
コーヒーの中から潜水艦

「ん」を管理する者「ん！」  
クルーク「ちよつと待つて！僕は関係ないじゃん！つか、出番がこ  
れつて・・・誰かああああああああ！！！！（強制連行）  
リデル「犠牲者が出た・・・」

トウイン「ウルフ、遊んでー！」  
プリン「ウルフ、あそぼっ！」  
リュカ「ウルフさん、遊んで・・・」  
ネス「ねえねえ、何して遊ぶ！」  
ウルフ「いででででで！！！！俺を引っ張るなー！！！」  
引っ張りだこ

クツパ「ピーチちゅわあ〜ん！俺とキスしようぜ〜（出来上がって  
いてセクハラモード）」  
ピーチ「ちよつと、お店ではそついうのはお断りだよ？（受け流す）  
ここじゃ嫌

クロノ「カップ麺でも食べよう・・・まずはやか〇（背後に）ん  
を管理する者」

クロノ「・・・じゃなくてポットでお湯を沸かそう・・・その後、パト  
ロールの仕事に・・・」（ひやつとしたぞ）

夜間やかん・・・パトロール  
ヴァイス「こいつ逃げやがった！！」

ゼルダ「リンク。はい、プレゼント！」  
リンク「ん？」

ゼルダは恋人のリンクに小さな白い花を渡した。彼女が見つけた花  
を見た時、リンクは花を見て口を開く。

リンク「これはスノードロップか・・・。姫、これ・・・」  
ゼルダ「散歩中に見つけたの！この花つて、冬の終わりから春先の  
間に咲くんのだ。春の訪れを告げるんでしょ？」  
リンク「よく知ってるな。調べたのか？」  
ゼルダ「うん！あとね、散歩中に一緒にいたメンバーから聞いたん  
だけど、花言葉は「希望・慰め・逆境の中の希望」と意味があるん  
だよね！これはリンクにピッタリだと思って・・・受け取ってくれ  
る？」

リンク「もちろんだ（ゼルダはいい所しか聞いていないと思うが黙  
っておこう・・・実はこの花は相手に送ると花言葉が変わっちゃうんだ

よな……；スノードロップを相手に送った時の花言葉は「あなたの死を望みます」という意味になっちまうんだよおおおおおおおおおお！！！！ゼルダの優しさを踏みにじれないし、どうしよう俺  
！！？）

s n o w d r o p

のぞみ「ココに会いたい……元気かな……？」  
プラトニック・ラブ

パチーン！

ゼルダ「「ぶ」ったわね！親にもぶたれた事ないの「に」！」  
（セリフの場合はカツコを入れます）

最後の針のある場所で……  
指揮官殿「……」  
リユカ「「兄」ちゃん、もうやめ」て「……」

クッパ「zzz……」  
ピーチ「「店」長、チェックをお願いしま」す「（いい商売だわ？」  
マリオ「へーい」



ウルフ「肉づめえ、お前も食え」

ファルコ「ステークはミディアムに限る」

ステーキを食べるウルフ

サムス「パパ・・・ママ・・・ベビー・・・アダム・・・」  
Forbidden Lover (フォービディンラバー)

えりか「つぼみー！誕生日プレゼントだよー！」

つぼみ「すみません、誕生日プレゼントって相手を喜ばすものだよ  
ね？えりかが持っているそのプレゼントボックス、ガタガタ震えて  
いるのは気のせいですか？」

バースデープレゼント

フェーリ「メガナー、さっさとくたばれー！！（藁人形に釘を打ち  
込もうとする）」

カン！（親指にHIT）

フェーリ「ぎゃー！！」

トンカチ

ぼたり

血

メフィスト「アコがいつも世話になっています」  
父

メフィスト「父」の「乳」(上半身裸)

アコ「お父さん、帰ってこないで」

メフィスト「OTL」

ネス「チ」チチチ「チ」(指を振ってカッコよく決める)

時計「チ」ツチツチツ「チ」・・・  
りん「横着すんな」

舞「ごくごくごく・・・」(ジュースを飲んでいる)

竹輪でジュースを飲む舞

咲「おでんでよく見る光景だ！？つか、ちくわ天をストロー代わりにするなー！」

ワリオ「ゲームでひと儲けー！」

マリオ「「い」い加減にしろ、金儲けしか能がないくせ」「  
ワリオ「＼(＾o＾)／」

マリオ「「2」00万円になりまー」「す」

クッパ（ぼったくりー！！）

フォックス「スイカはどこだー???（スイカ割り中」

ファルコ「おい；何故にこつちに来る・・・；」

フォックス「あ！あそこに割りがいのある青いスイカがあるー。そ  
ーれ（振り下ろす」

ファルコ「前のしりとりで肉を食った事を根に持つてるだろ！！（  
白羽取り中」

スイカ

ラフィーナのカットイン

顔

サタン「アルル・・・いい体だ・・・（覗き中」

ファルコン&スネーク「仲間発見」

おまえもか

ラフィーナのカットイン  
顔

クロノ「カップ麺のお湯は沸いたかなー？あ、ポットのコンセントを繋ぐの忘れてた。」  
お湯

ルカリオ「ユートピアとは理想郷という意味を持ち……んで、何たらかんたらでー……（辞書で調べている）」  
ユートピア

アルル「カー君、好き！」  
I LOVE YOU

ルカリオ「ユートピアは現実には決して存在しない理想的な社会として描かれ、その意図は現実の社会と対峙させることによって、現実への批判をおこなうことであった……（まだ辞書を見ている）」  
ユートピア

かれん「「あ」んたなんか、大嫌「い」・・・！」

シヤマル「みんなのために新作ジュースを持つてきました！インゲンジュースですよ！」

ユーノ「うわあ、100%緑だあ」

インゲン100%ジュース

スルメ「はああああああああ！！！（オーラを放つ）」

スルメの極み

なぎさ「いや、スルメの極みって何！？（大汗）」

Mr・クミュリユニユラエキュペエフヨイイへ

なぎさ「元ネタが謎の生物が出て来たために代理キャラが思いつかないからといって適当に考えるな！つか、言いつらい！」

フェイト「ラ　クの曲に私のイメージにピッタリな曲か・・・」

HEAVEN'S DRIVE

パチーン！

ゼルダ「「ぶ」ったわね！鯉でぶったわ「ね」！」  
リンク「一体何をしたら、鯉でぶたれるんですか姫！？」

ユウちゃん「ピーガガー・・・」

レイくん「・・・；（姉さん、どうしたの；顔がリトルグレイみたいになってるよ；」

姉さんが宇宙人

「ん」を管理する者「ん！（ドアを開けて登場）」

レイくん「しまったー！！しりとりがずっと続いているからといって油断してたー！！？」

パチーン！

ゼルダ「「ぶ」ったわね！鯉でぶったわ「ね」！」

リンク「まただ；（魚臭い・・・；」

ラブ「美希たん、あっちのお店で新しいクリームが売ってたのよ！これを塗ったら、顔がつやつやになったの！」

美希「へえー、どんなクリームなのかし・・・ら！？（相方の顔がねずみ顔になって驚愕）」

ネズミニナールH軟膏

ダークリンク「うわああああああああああ！！！！（大号泣）  
生まれてなんかこなきやよかった

ガタガタガタガタガタガタ！  
はやて「この便器うるさい！つか、便器を改造したの誰や！」  
大変うるさい便所

ゆり「うんしょ・・・うんしょ・・・ふうっ！一皮剥けた！」  
女子高生の脱皮

祈里「世界が平和になりますように。みんなの祈りが神様に届きま  
すように。」  
Pieces

最初辺りにあった笛なのですが、見つかったちゃいました（笑）  
デデデ「「ずいぶんと気持ちの悪い事をしてくれるじゃない」  
？」  
メタナイト「「いや、そのこれは・・・。あれ、何て言う」か  
・・・」  
デデデ「「カービー！こんな奴、ほっといて行」こ」！」  
カービー「この変態！」

メタナイト「生きてれば、いい事はあるのか「な」？（顔に赤い手形）」

ファルコン「な」「い」（即答）」

ファルコン「・・・」「い」や待てよ？「っただけあった」「な」（思い出す）」

メタナイト「な」「に」？」

ファルコン「似」た者同士と見たサムスの着替「え」

ロイ（サムスさん、犯罪者がここにいます）」

Q：四角に入る漢字を答えなさい。 養

いつき「これは分かるよ！答えは・・・」

栄

ロイ「い」「つまでも仲間であいてくれるよ」「ね」？」

「粘」土の匂いを嗅ぎながらアイクは思った。目薬を差しすぎると糖尿病になるとい噂は本当かし「ら」？



ロイ「来」週、俺は故郷に帰らないといけないん「だ」・・・（涙ぐむ）」

「伊」達巻きの匂いを嗅ぎながらアイクは思った。コンビニで冷たい缶コーヒーと肉まんを買った場合は別々にしないとダメだ。だって、缶コーヒーの冷気で肉まんが覚めてしまう「し」。

マルス「シリアス場面なのに、その団長は涼しい顔で変なものを嗅ぐなああああああ！！！」

アイク「失敬な！俺はこれでも真面目だ！！ロイ、俺のどこがおかしかったか！」

ロイ「どこもおかしくなかった！特に粘土の匂いを嗅ぐ時の顔つきはカツコよくて・・・」

マルス「おめーら、バカだろ

！！！」

音のプリキュアがテレビで大暴れ！

スイートプリキュア 日曜の朝8：30から！

CM

トウーン「うりゃー！うりゃー！（どせいさんを投げる）」

ウルフ「おねしょのシーツを隠そうとした罰として、お尻ペンペン100回の計なー」

トウーン「嫌だー！！（抱きかかえられ、連れて行かれる）」

無駄な抵抗

せつな「私はラビリンスのイースだ！お前達の敵だ！」  
ラブ「そんな・・・！」  
嘘でしょ！嘘だと言ってよ！せつなちゃ「ん」！

「ん」を管理する者「ん！」  
クローバー&ラビリンズ「これの事を忘れていたー！！」  
ウエスター「ぎゃああああああー！！」  
サウラー「私は関係ないのにつれていくなー！！」

トウーン「じたばたじたばた（抵抗中）」  
ウルフ「いい加減にしろ」  
トウーン「やーん」

無駄な抵抗

リュカ「僕のお父さんを見なかった？」  
ダスター「見てないぞ」  
うちの父を知りませんか？

シグ「今日のお昼はカレーライスー」  
カレーライスからインド人  
シグ「どんなシチュエーションだよー・・・。って、あー!?!」

「ん」を管理する者「ん！」

シグ「わああああああああああ！！！！」

リンク「ネスのお父さんって、どんな人？」  
ネス「電話」

うちの父を知りませんか？

シグ「今度は大丈夫かなー・・・」

マリオ「こんちは（ぬ）」

カレライリスから・・・マリオ

シグ「ファンに怒られるよー」

マルス「僕、王子」

ロイ「俺、領主の息子」

アイク「俺、傭兵団長」

お金持ち

ポコポコポコポコポコポコ  
恥骨を叩くインド人

「ん」を管理する者「ん！」

全員（なんつーもん、出してゐるんだ！）

マルス「僕、王子」

ロイ「俺、領主の息子」

アイク「俺、傭兵団長」

お金持ち

ドクター「デデデとオリマーはメタボに注意」

二人「ガン！」

聴診器

ルイージ「キノコよし！薬よし！アイテムよし！」

几帳面

「ん」を管理する者「ん！」

ルイージ「あ……じゃあ、行こうか」

マリオ（こいつ、自分から行きやがったぞ）

フェーリ「最近、あのお方を見ると胸が苦しくなって……体温が  
上がった、胸の鼓動が……」

ドクター「恋の病は薬作りのエキスパートの私でも無理です」

クマトラ、ピーチ、テトラ

クマトラ「この集まりは何だ？」

ピーチ「さあ？」

テトラ「共通点でもあるんじゃないの？」

気の強い姫

りゅーと「小説のネタはこれで・・・イラストは・・・」

M a k i n g

ファルコン&スネーク&サタン「あれ？今日はいないぞ」

三人の背後にはフル装備のサムスとアルルが・・・

サムス&アルル「「グ」ツバ「イ」」

三人「ん？」

暗転

後日、「ん」の文字が書かれた墓が三つあったとか……

おしまい

番外編：みんなでしりとり（後書き）

これは特典オマケを見た時に凄い大爆笑したのはいい思い出www  
ちなみに自分の扱うサイトでもしましたが、その時のジャンルは違  
っていました。

ストーリーは気がつきましたか？

V S スカイハイ (前書き)

「小ネタというか次の番外編の予定」  
銀魂パロディかギャグマンガのどっちにしようかな・・・？



## V S スカイハイ

スカイハイの登場に四人は言葉を失い、本物かと凝視してしまう。彼が操る能力・・・NEXTは本物ネクストであり、一瞬にして場に風を吹かす。頬を張り詰める風、本物だ・・・。

明るく挨拶をするスカイハイはルイージの姿を見てある事に気付く。

スカイハイ「あれ？君は牢獄に行つてないのかい？」

ルイージ「え・・・？牢獄・・・？」

スカイハイ「私が倒した相手に外見と服装が同じ逃走者がいて・・・

」  
スバル「それつてまさか・・・」

ヒーローらしい貫禄を出す彼の疑問に四人の脳裏にあの撃破メールを思い出す。あの中に自分と姿が似た兄の撃破情報があった。おそらく、マリオと勘違いしているだろう。

ルイージ「それつて僕の兄さんだと思う・・・。スカイハイ、その時の状況を教えてくれない？」

スカイハイ「ん・・・確か私が撃破する寸前に五人の逃走者がいて、君とそっくりの男と紫色の髪の子とバイソン君並みにゴツい男とメガネをかけた男の子と三つ編みの女の子がいた。」

スバル「ヴィータさん、ギリギリで避けたんだ・・・」

スカイハイ「彼らは全く隠れていなくて路上で話をしていました！その時に赤い帽子の男は道に寝そべっていた！」

ルイージ「マジで・・・？（兄貴、用心しろと言ったのに・・・！）」

スカイハイ「あと、牢獄に君と似た人がいたよ？黄色いあの人って・  
・・」

スカイハイ「君達のお父さん？」

ルイーダ「断じて違います！！！」

咲「スカイハイが凄い天然だと聞いたんだけど、ここまで酷いとは思わなかった・・・」

ウルフ「服装が似ているからと勘違いしたと思う・あれが父親だと俺様でも嫌だ」

スバル「あはは・・・」

噂通りの天然ぶりを見るも、四人は警戒をする。特殊ハンターは5回ブレイクしないと撃破扱いにならない。しかも、目の前にいる風使い以外の特殊ハンターが二人いる。全員倒さないとミッション4はクリアにならない。

最初に動いたのは咲とルイーダ。二人は飛び道具で先制を奪い、攻撃をする。しかし、目に見える先制攻撃はあっさりと風のショットで相殺され、次に来るブラスターの攻撃も防ぐ。

スバル「はあっ！」

ウルフ「キリンググラッシュ！」

ルイーダ「地獄突き！」

スカイハイ「甘い！」

突進して来る三人の攻撃に対しても、スカイハイは風を圧縮させて手に力を込める。即座に作られた風のシールドはあっさり壊されるも、強力なスマツシュ技を塞ぐのは十分。スカイハイはすぐに反撃か防御をせずに後ろへ飛ぶ。理由は・・・

咲「ワープスター！とりゃー！！」

スカイハイ「・・・」

ドゴオン！

スバル「あたし達の攻撃を全部防ぐなんて・・・！？これが王者の実力・・・」

ウルフ「長年キングを務めていた理由も十分に分かる。あれでも手を抜いてもらっているけど、威力は危険だろ・・・」

咲「変身できないあたしに考慮しているけど、ちよつと悔しいわ・・・」

ルイージ「そんな事を言ってる暇はないよ！前見て！」

言葉の通りにスカイハイは両手を前に出し、中ぐらいの風の竜巻を発動させた。ストレートな攻撃はあっさりすぎるも、その技の威力と発動速度は先ほど同様に危険レベル。近くにいるルイージはすぐに避け、スバルも遅れて避ける。そこにルイージの持っていた卵の爆弾を投げ、怯ませるとすぐにスバルの回転蹴りが鳩尾にヒットし、ウルフのかみなりドツカンが当たる。

スカイハイ「かはっ・・・!!」

ルイージ「相手のステータスは高いけど、ヒットアンドアウェイなら勝てるよ!」

咲「みんな、無理をしないで!!キズぐすりが必要ななら、いつでもいいからね!」

スカイハイ「余裕を見せているみたいだけど、ちょっと本気を見せてあげよう・・・!はあっ!」

スカイハイは先ほどと同様に竜巻を起こす。一度見た技に全員は避け、それを見た相手は再び竜巻を起こす。

ウルフ「同じ技はいらないぜ!」

スカイハイ「それはどうかな?」

ウルフ「え・・・?」

手に溜めた風を自身の足元に発動させるとスカイハイは風を纏って四人に突っ込んで来た!足元に能力を発動させる事により、彼の移動能力と攻撃力は爆発的に上がり、敵の不意を突く事が出来る。予想外の行動に四人は大ダメージを受けてしまう。

ウルフ「がっ!」

スバル「きゃあ!」

ルイージ「ぐっ!」

咲「わああっ!!」



スカイハイ「まだ立てるみたいだね……。早々に牢獄に行った方が身のためだと思うよ。」

咲「そんな心配なんかいらないよ！！まだまだ戦えるもんね！」

持っている回復アイテムで傷を癒し、四人は風の魔術師に挑む。ルイージはファイアボールやジャンプパンチのコンボ、スバルはスケート型のデバイスで素早さと接近戦を活かし、ウルフは持ち前の攻撃力と切り返しの早さ、咲は持っているアイテムでの攻撃や仲間の回復と全力を尽くす。

一方のスカイハイは風の力での全体攻撃や単体での大ダメージ、さらには防御や移動と風を使いこなし、自分に挑む逃走者にダメージを与える。攻撃と防御を使いこなす彼であるが、受けているダメージは半端なく、僅かな一撃でもブレイクを許してしまう事が分かる。。。

この戦いを制するのは……！？

スカイハイ「スカアーイハイ！」

ウルフ「今度は突風か！」

スカイハイはエリア全域に風を吹かした。その風はダメージはないものの、台風並みの強風であり、遺跡の柱の破片や瓦礫が飛び交う。あの飛来物でのダメージでも撃破はありうる。ルイージとウルフは飛んでくるは大きな破片を飛び道具で壊す。

ルイージ「瓦礫や破片に注意して！」

スバル「分かっているよ！えいっ！やあっ！」

ウルフ「咲、アイテムの方は大丈夫か！」

咲「大丈夫ナリ！あの岩なら全部レイガンで壊せるよ！」

スバルはガントレットの力を開放し、咲はレイガンで飛来物の破壊をする。しかし……！

カチッ

咲「嘘……弾切れ……！？」

最悪な事にレイガンの弾切れが起きてしまった。金の花の名を持つプリキュアが使う銃からは光線が一つも発射されない。カチカチと操作する少女の目の前に巨大なブロックが……！

咲「いやあああああああああ！！！！」  
ウルフ「間に合え・・・！」

直撃する寸前、スターウルフの狼はウルフフラッシュを発動させ、咲を突き飛ばした。その直後に頭に大きな衝撃と痛みが走り、視界が真っ赤に染まる。遠くには悲鳴を上げる機動六課の少女と永遠の二番手の男。さらに目の前には・・・

スカイハイ「ここで終わらせてあげよう・・・」

キーン—————

ウルフ「ここまでか・・・」



スカイハイの人差し指に溜まる風の球の先には狼が……。誰も撃破されて牢獄行きになると思われた。その時……！

ビュオオオオオオオオオオオ！

撃破となろうとしたその時、またもや突風が吹きだした。その突風はスカイハイの操る風の強さと同じだが、風向きはウルフの方からだった。予想外の風にスカイハイは攻撃の手をやめ、周囲を見渡す。どうやら、彼の能力じゃないようだ。この強い風は……？

トウーン「遅れてごめんね！」  
スバル「トウーン！」

声の方を振り向くと、崖の上にトゥーンが立っていた。真剣な眼差しで下を見下ろす彼を包む風は風の勇者を味方し、風の魔術師を恐怖に染める。

勇気のトライフォースがある彼の左手にはタクトがある……。おそらく、風を操ったのだろう……。

トゥーン「あのねー！風を操れるのは君だけじゃないんだよ！！僕は風を自由に操る勇者なんだよ！僕の操る風は船や冒険の道を切り開くだけじゃなく、勝利を運ぶんだよ！その格の違いを見せてあげる！」

スカイハイ「君が私と同じ風の使い手か……。じゃあ、その実力を見せてもらおう！」

スカイハイはトゥーンに向けて風のショットを放つ。それを見た彼は爆弾を取り出し、風のショットを全部相殺する。さらに矢を無数に放ち、相手を狙おうと弦を引く。多く放たれる矢は全部光の矢で、相手の視界を奪う。

スカイハイ「目が……。！こんなのは広範囲の技で……。はあつ！」

トゥーン「うわっ！全部弾かれた！僕の魔力は少ないのにー！」

矢で風を弾くと視界には自分を狙って投げられた爆発物。風に乗ってゆっくりと弧を描いて飛んで行く爆弾の存在に気付いたヒーローは上空に飛んで避ける。

スカイハイ「ずいぶんと作戦を考えるね。光る魔法の矢で視界を奪ってその中に爆弾・・・」  
トウーン「だけど、その爆弾はフェイクで、本命は後ろにあるよ？」  
スカイハイ「どういうこ・・・いてっ！」

後ろからの別の飛来物。その飛来物によって一時的な衝撃とダメージを受けた相手は意識をそちらに向ける。後ろを振り向くとブーメランがあり、それがスカイハイの首を狙ったのだらう。対象を当てるという役目を果たすとトウーンの愛用する武器は地面に落ちた。しかし、この一瞬でスカイハイの風は止んでしまい、トウーンの猛攻を許してしまう。

トウーン「風使いが自分から風を捨てるとそれは負けになるんだよ！」

そう言うと彼は大きな葉っぱを取り出し、崖から飛び降りる。デクの葉で滑空するトウーンの接近は予想以上に早く、風の魔術師は押し返そうと発動するも遅すぎる。懐に入り込むと風の勇者はあるアイテムを取り出す。

スカイハイ「しまった・・・!!」

トウーン「必殺のトライフォースラッシュー!!!」  
スカイハイ「うわあああああああ!!!」

スマッシュボールを叩き割り、最後の切り札を使用したトウーン。  
カートウーン調にデザインされた聖なる三角は相手の動きを封じ、  
そこに自身の剣術を叩きこむ。無駄のない動きと多彩に繰り出される  
剣術にスカイハイは耐えられず、最後の一撃によって遠くに飛ば  
された。

スカイハイ ブレイク1  
ルイーダ、トウーンリンク、ウルフ・オドネル、日向咲、スバル・  
ナカジマ レベル2

トウーンの決定打となる攻撃によって、場にいる五人のレベルは1  
段階上がった。その証拠に腕についている装置の数字が1から2と  
なった。危機を救った小さな勇者は大ダメージを受けて動けない四  
人に近づく。

トウーン「遅れてごめんね！ちよつとハンターのせいで動けなくて・・・」

ウルフ「気にするな・・・お前はよくやった・・・！ぐっ・・・！」  
咲「ちよつとこれ、傷が大きいよ！早く治療しないと牢獄行きになつちゃう！」

スバル「歩ける・・・？一旦、遺跡内部で治療しよう！」

ルイーダ「予想外の人物の登場でダメージを受けちゃったね・・・でも、ハンターの情報も得られたし、作戦を考えるヒントにもなるんじゃないかな？メールで連絡して・・・」

ウルフ「それよりも次の一手を考える・・・！今、俺らはレベル2だろ・・・？ここでスカイハイや他の特殊ハンターに遭遇したらどうなると思う・・・？」

咲「あつ・・・！」

スバル「確実に牢獄行き・・・！」

この直後にメールでスカイハイの情報が送信された。内容を見た逃走者は・・・

はやて「ここはちよつと危険やから他に任せとこう」

デデデ「我輩にとっては不利すぎるゾイ・・・」

アルル「ちよつと様子を見てからで・・・」

ファルコ「・・・」

ヴィータ「この空野郎があたしを殺そうとしたのかよ!!こんな奴に挑んだら馬鹿みたいに死ぬ!!」

アミテイ「これさ、ソニックのライバルと言ってもいいんじゃない?私も戦うよ!」

ソニック「Good。アミテイ、潰しに行くぞ!」

スカイハイ「さっきのはとんでもない痛手だったな・・・???  
4君の言う通りにあの子達は危険すぎる・・・。1回やられたけど、  
次はそうはいかない・・・!」

先ほどの戦いで痛手を喰らったスカイハイは他の逃走者を撃破しよう  
と滑空していた。彼のいる場所は西エリアの上空で、下を見ると  
美しい港町が目に入る。この素晴らしいエリアでまさか戦いが行わ  
れていようとは誰もが思ってもいないだろう・・・。

スカイハイ「連戦が起きようとこんな程度では屈さない。私の実力

はこんなものじゃない、犯罪者は朝飯前。だが、相手は・・・」

スカイハイ「大行列スマツシユブラジャーズとスタルチュラとミラクルすのことびよびよの奴らに何か負けはしない!!」

ファルコ「いろいろと間違えすぎだああああああああああああああああ!!!!」

スカイハイ「むっ！そこにいるのは誰だ!!」

ファルコ「しまった!!」

大ボケをかます風の魔術師にファルコは思わず身を乗り出してしまった。彼は西エリアにある港の倉庫の屋根の上におり、堂々と構えていた。たった一人で目立つ場所にいるのは自殺行為、誰もが分かるものなのに青い雉は何を考える・・・？

ファルコ「おい！そのスカイハイテンション！悪いけど、俺はあんたに勝負を申し込むぜ！逃げないぜ！」

スカイハイ「それって、私への挑戦状かい？」

ファルコ「あつたりまえだろ！本当なら一対一でやるはずだけど、俺と同じ仲間もいるからちよつとは楽しませてもらっぞぞ！」

その言葉の通りに倉庫の屋根の上に青い何かが高速で横切った。その青い何かは屋根の上を走り回るとファルコの横に止まり、同時に別の何かは屋根の上に着地する。  
そこにいたのは・・・

ソニック「風よりも速いハリネズミ、ソニック参上！」  
アミティ「魔導の探究心は無敵大！アミティもいるよ！」

セガを代表するキャラクターの登場にスカイハイは驚く。二人はスカイハイの情報を聞いて、横にいる逃走者同様に自分から挑みに来たのだ。

ソニック「Hey、空の支配者と豪語する王者だろ？しかも、速さを司るって。俺、あんたの事を聞いた時に戦いたいと思ってさ、いいだろ？」

アミティ「私はちょっとおもしろそうだったから参戦したんだ！それに自分の魔法でどこまでやれるか挑戦すると決めただ！」

速さにプライドを持つ者や逃げずに戦いを挑む者の覚悟と構えは本物で、ずっと黙っていたヒーローは口を開けた。



スカイハイ「その勝負に乗った！私も全力で戦わせてもらおうよ！」

その言葉と同時に四人は走り出した。

V S スカイハイ（後書き）

「スカイハイに挑んだ人達の言葉」

該当者「あの人、マジの天然だなオイ……」

スカイハイ「？」

v s スカイハイ2 (前書き)

ウルフ&リンク「紀葉さんのところのSP、恐ろしい・・・」

ピーチ「同士がいるって素敵だわ」

りゅーと「いやー、このCPマジで最高WWWあれ？二人ともどうしたの？」

ウルフ&リンク「お・ま・え・の・せ・い・だ・このやるおおおお  
おおおおお！！！！」

紀葉さん、回避能力は卑怯ですよWWW

## V S スカイハイ2

1 ブレイクされた風の魔術師。その魔術師の前に立つ三人の逃走者。今度はどちらが・・・？

ファルコ「かかってきやがれ！」

ソニック「Come on！」

アミティ「いつでもいいよ！」

スカイハイ「じゃあ・・・スカイハイ！」

二度目の戦いにスカイハイは場に小さな竜巻を出す。その風をソニックはジャンプで避け、アミティは防御魔法で防ぎ、ファルコは緊急回避を使う。

アミティ「えい！つくよー！もつといくよー！魔法コンボー！」

ソニック「ホーミングアタック！次にスピンドラッシュ！」

ファルコ「リバーススピッキク！んで、ファルコビジョン！リバーソーバーヘッド！」

スカイハイ「はあっ！たあっ！とおっ！」

手加減なしの真剣勝負に四人は目の前にいる相手を倒そうと動く。魔法の際に長けるアミティは手堅く小さなコンボで攻め、ソニックはスピードを生かしての体当たりや連続攻撃、ファルコは多彩にある足技と得意の空中戦で勝負、スカイハイは近距離寄りの風の技と空中戦に切り替えると隙を見せない。

いつしか倉庫の上で戦っていた四人は空中戦へと自然に移り、目の前の相手を撃墜する事にしか頭に入っていない。

スカイハイ（アミティ君は魔法、ソニック君は音速、ファルコ君は空中戦に特化してる。普通に挑んでも共倒れが関の山だな・・・。これはブレイクをとられる。そして、負けてしまっ・・・。だったら・・・。）

相手の動きを分析したスカイハイは三人に気付かれないように能力を使う。その能力の効果はダメージはないものの、相手を蝕むのは間違いない。その効果とは・・・？

スカイハイ「ここまで粘る相手がいるとは・・・ちよつと本気を出させてもらう！」

アミティ「うえっ！？チャージ中なのに！！！」

短い動作で指から風を出す風の魔術師に大きな魔法を放とうとする赤ぶよ帽子の少女に向けて放つ。チャージ中の不意打ちに彼女は一瞬だけ身が固くなる。そこにファルコが前に出てリフレクターを出し、風を弾き返す。

スカイハイ「防御とは・・・！」

アミティ「ファルコ、ありがとう！」

ファルコ「気を抜くな！！専念しろ！！てめえの相手は俺がしてやるぜ！！」

スターフォックスのエースパイロットはブラスターを乱射し、お得意の射撃で相手を狙う。狙うのは関節部分や急所と戦いに影響の出るところを集中的に狙う。一寸の狂いもなしに狙う攻撃にスカイハイは空中へ逃げる。

スカイハイ「あの射撃能力は？？？6君並みに凄いな……。ファルコ君を……」

ソニック「俺の存在を忘れるなよ！もしもーし？」  
スカイハイ「いつの間に！？」

アミティとファルコに気を取られていると背後から音速の青いハリネズミが火の花を持って接近して来た。ファイアフラワーを向けて使用する相手にスカイハイはとつさに風で弾き返そうとするも、ソニックは炎が出たままそれを投げ飛ばす。風によって煽られた炎は逆に威力を増し、スカイハイに襲いかかる。それを見た彼は酸素を含めていない風で消火する。

スカイハイ「私の風を利用するとは……。ずいぶんと舐めた真似をしてくれるね？はあぁー！！！！」

片手を前に出し、風の球を作りだそうと力を込める。手には緑色に発光する風の力が詰まった光球があり、それが徐々に大きくなる。



フォックス「今の音は・・・!?!」  
シグナム「西エリアの方からだ!」

シューウウウウ・・・

アミティ「けほけほ・・・」

全員の攻撃がぶつかった瞬間、空中で大きな爆発が起きた。技を発動させた四人は爆発の際に生じた爆風によって飛ばされ、倉庫に叩きつけられる。ぶつかった際に建物の大半は崩壊し、ファルコ、ソニック、アミティ、そしてスカイハイが大ダメージを受けた事は言うまでもない。

最初にアミティが痛む体を無理して動かしながら立ち上がり、土煙が舞う西エリアを見渡す。仲間を探す彼女は魔力を大きく消費したため、疲れが溜まっている。その証拠に呼吸が乱れ、目に映る背景が歪んで見える・・・。軽いめまいを起こすも、少し安静にしてから顔を上げるとそこに自分と同じ状態の二人がいた。



アミティ「ソニック、ファルコ、大丈夫？すごい疲れているんだけど……」

ソニック「平気だ。お前らの方は大丈夫か？顔がBlueだが……」

ファルコ「大丈夫だ。元が付いていても中身はキングだな……」

魔力の消費や体力の浪費、さらには移動や空中戦で息が乱れる三人は息を整えようと深く呼吸する。アミティは魔法を酷使しているため頭がクラクラし、ファルコは技の切り返しが原因で愛用する武器を握る手が震え、ソニックは自分のスピードを落とさないようにするも若干は落ちている……。ファルコの持つ回復アイテムで一定量回復させ、アミティは消費した魔力を復活させようと薬を飲む。瞬時に回復を終えた彼らの前に傷だらけのスカイハイが崩壊した倉庫から姿を現し、空中を浮遊する。

スカイハイ「しかし、私をここまで追い詰めるなんて……。君達は凄いい！そして凄いい！」

ファルコ「褒めてくれてありがとよ！どんな技だろうと俺らは全力で対処するぜ！」

ソニック「俺も負けられないぜ？あなたの勝負はきっちりやらねえとな！」

アミティ「言っておくけど、私達はあっさりとはやられないからね？」

そう豪語すると四人は再び空中戦を展開する。

ファルコ「ぜってーに倒してあいつに恩を返さないと……（息が苦しい……）」

ソニック「スピードが落ちてるぜ？Kingさん？（何か、ふらふらする……）」

アミティ「次は強い魔法を出しちゃうよー？（あれ……？凄い疲れる……）」

お互いに牽制しながら行われる空中戦を遠くにいるフォックスとシグナムが見ていた。双眼鏡から見える光景に二人は言葉を発する。

フォックス「シグナム、あいつら……！」

シグナム「間違いない！三人とも相手の策にはまっている！」

戦い始めてから一時間が経過しようとする中、四人は持っている力を出し、自分に与えられた役割を果たそうと攻撃に集中する。一瞬の際は命取りになる……。

スカイハイ（少しずつだが、確実に成功している……）

風を自由自在に操るヒーローは動きが徐々に鈍ってくる三人を見て何かを考える。冷静に対処をする彼だが、その真意は仮面に隠れているため三人は知る事は出来ない。傍らから見るとほぼ互角に見える

る勝負。しかし、実際はスカイハイが優勢だ。

スカイハイ（私があれを発動させてから三十分は経つな。そうとう苦しんでいるみたいだし、次の一撃を出せば勝てるだろう・・・）

事の成り行きが彼の用意されたシナリオ通りに進んでいる事に三人の逃走者は全く知らない。その事を知っている張本人はシナリオを一気に終わらせようとかまいたちを出す。

スカイハイ「ここで終わ・・・りにさせてたまるか！」

スカイハイが必殺技を出そうとした瞬間、どこからかともなく矢が飛んで来たのだ。その一筋の矢は相手の肩を貫き、動きを鈍らせる。さらにスマートボムが投げられ、Bと書かれた赤い爆発物はスカイハイに致命的なダメージを与えた。同時にソニックとファルコにスマッシュボール、アミティには魔力の回復効果があるジュースが投げられる。

スカイハイ「ぐっ・・・！」

アミティ「スカイハイがひるんだ！今よ！」

一瞬の隙が生まれた事にアミティ、ファルコ、ソニックは差し出されたアイテムを使い、相手に止めをさそうと最後の切り札と必殺技を発動する。

アミティ「ブラストビード！」

ファルコ「こんなもんより、俺は空がいいぜ！」

ソニック「キメてやる！」

アミティは上級魔法で強い突風の球を無数に出し、ファルコはランドマスターを呼んで砲撃をし、ソニックはカオスエメラルドでスーパーソニックになって攻撃をした。三人が同時に出した攻撃に風の魔術師は風の盾で身を守るも、それは叶わなかった……。

スカイハイ「私がここまで守りに徹するとは……。ここは逃げた方がいい……。」

「悔しいがここは私の負けだ・・・」と素直に負けを認めたヒーローは痛みを耐え、西エリアから離れた。相手の退却と同時に三人の勝ちが決定した。いや、正確には・・・

スカイハイ ブレイク<sup>3</sup>

フォックス・マクラウド、ファルコ・ランバルディ、ソニック・ザ・ヘッジホッグ、シグナム、アミティ レベル<sup>3</sup>

ファルコ「何とか勝ったけど、勝負に邪魔した二人、出て来い？」

怒りが混じった声で自分と同じレベルアップした人物を呼ぶと、そこに弓を持ったシグナムとすまし顔のフォックスが出て来た。おそらく、この二人がスカイハイの攻撃を作り出したのだろう。そうじゃないとレヴァンティンとスマートボムの一撃によるブレイク、そして次のブレイクに繋げるアイテムの差し入れにも矛盾が生じる。

ソニック「俺達の勝負に水を差すなよ！！分かってるのか！」

アミティ「いい感じだったのに、空気を読んでよねー！」

シグナム「全力で挑むのはよい。だが、お前達は過信し過ぎだ。」

アミテイ「え・・・？」  
ファルコ「どういう意味だ・・・っ!？」

スカイハイが退散してから数分後、三人の呼吸が急に楽になった。突然多く入り込む酸素に彼らはむせるも、落ち着いて深呼吸をする。

ファルコ「あれ・・・？呼吸が・・・」

アミテイ「さつきよりも息が深く吸える・・・!」

ソニック「どう言う事だ・・・？」

フォックス「俺らが西エリアに来た時、ある場所に行くとき急に息が苦しくなった。ほら、今みたいに。おかしいと思い、俺はシグナムと共に倉庫周辺を散策したんだ。そしたら、近くでお前らが戦っているのが見えた。」

シグナム「あたしは出るタイミングを窺おうと様子を見ていたら、ファルコとソニックとアミテイの顔色が徐々におかしくなっていて、呼吸が乱れてたのが見えた。風の能力を使いこなす相手は大気の流れを動かすのかと考えていたら、お前達はとんでもない危機に晒されていた。」

ファルコ「危機・・・？」

フォックス「三人が高山病になりつつあった」

三人「!？」

そう、実はスカイハイは能力で三人の空気を奪う技を使用していた

のだ。他の技を多用しても長時間の使用や移動や空中戦を行う三人に合わせれるように広範囲に発動できたのは能力を十分にマスターしている証拠であり、確実に自分達を牢獄へ送る見えない戦意の風・・・。

この技に気付かなかつた三人はスカイハイに自分のプライドや挑戦意欲が刺激され、相手の罠に徐々にハマっていたのだ。まるで底なし沼のように・・・

シグナム「相手に刺激されたお前達は徐々に酸素濃度が減っている事が気付かずに戦い続けていた。酸素が足りなくなると判断力と力の浪費、最悪の場合は呼吸困難で自滅と狙っていた・・・」

フォックス「もし、俺達が気付いていなかったら、三人とも牢獄行きだ・・・」

ソニック「・・・」  
アミティ「ごめん・・・」

スターフォックスのリーダーとヴォルケンリッターの将に「過信は自分の身を滅ぼす」と注意されるとソニックとアミティは何も言えなかった。だが、ファルコは頭が固く真面目なリーダー二人には耳を貸さない。それどころか、全ての言葉が説教のように聞こえ、余計にイライラさせる・・・。

ファルコ「わーってるよ？次から無理すんなと聞いてえんだろ？」  
フォックス「ファルコ！お前は無茶をしすぎだ！前々からだがお前は・・・」

ファルコ「んな事は知ってる！リーダーは人が頑張っている時に余計な手助けをするんだよ！そのせいでな、俺がどれだけ苦しんでい

るのか分かってるのか!!」  
フォックス「え……」

ファルコ「お前が全てのミッションに貢献したり、ハンターを消した時にあなたはいろいろと活躍をし、メールにでも名前が載っている!その活躍を聞く度に俺はミッションに貢献出来なかった事や手伝えなかった事、スターフォックスの同じメンバーとしての働きの差にコンプレックスを抱くんだよ!」  
フォックス「なっ……」

ファルコは自分と仲のいいメンバーに今までの怒りを言葉にしてぶつけた。その言葉には自分とフォックスの能力と働きの差にコンプレックスを抱き、自分はその彼に助けられっぱなしだった。たとえ、自分が成功しても、その陰にはフォックスが何らかの形でいるのだ。スカイハイの撃破に名乗った理由は、プライドだけじゃなく、自分を助けてくれるリーダーに恩を返したいという思いだろう……。だが、結局はフォックスに助けられてしまった。自分を仲間として認め、信頼してくれる狐の青年の言葉にちゃんと答えられず、余計に自分を責めてしまう……。

フォックス「ファルコ……俺は……」

ファルコ「てめえのせいだな、俺はこの場にいる事が辛いんだよ!来るな!!」

フォックス「……!?!?」



近づこうとする狐の足元に光線が発射された。目の前にはブラスタ  
ーを構える青い雉。彼の持つ武器の銃口から殺意が見えた……。

アミティ「二人とも仲がいいのにどうして……」

ソニック「フォックスの気遣いがファルコのプライドを傷つけ、あ  
いつを苦しめたんだと思う……」

シグナム「さりげない言葉や行動でも、時としては人を傷つける凶  
器にもなる……」

スカイハイ「さっきの一撃さえなければ余計なブレイクを……！」

予想外の不意打ちに一回の戦いで2ブレイクを許してしまったスカ  
イハイは後がないと悟る。空高く飛ぶ彼は疲れた体を癒そうと安全  
な場所へ移動をする。着いた場所は東エリアの森の高台。見晴らし  
がよく、高低差で身を潜められると分かり、彼は腕に付いている通  
信機で仲間に連絡を取る。

スカイハイ「ブレイクは3回ほど許してしまった。だが、私が動き  
まわったおかげで大半の人達が今は動けない状態になっている。そ  
こを君達がやるんだよね？」

「???4」その通りです。僕・・・拙者達が次の作戦に進めるように動き回るのでござるよ?。」

「???5」やつとボク達の出番だね!思いつきり暴れるぞー!」

スカイハイ「じゃあ、頼んだよ。それと無理は禁物だからね?」

「???4&???5」はい!」

通信が終わるとスカイハイと話をしていた仲間の特殊ハンターは待機場所の南エリアにあるゲームセンターから出て、残りの逃走者を一網打尽にしようと走りだす・・・。

## V S スカイハイ2 (後書き)

スカイハイのブレイクはあと2回、スターフォックスの絆に入る亀裂、新たに動き出す特殊ハンター・・・。

次回、新たな特殊ハンターが逃走者に牙を向ける！！

動き出す影（前書き）

スカイハイ「タイバニの再放送は人気があるねー……。この間見たのは……」

アコ「しーっ！本編のネタばれになっちゃう！」

スカイハイ「あ……」

ユウちゃん「でもさ、放送が終わってすぐに再放送って凄いやねー！相当人気があるって証拠でしょ？」

レイくん「……（同意）」

ファルコン「噂だと初回特典付きのBD1巻は今でも手に入らないだろ？製作者もここまで考えなかったとは……」

コーノ「アニメイトもタイバニ一色だよ？やっぱり人気があるのはスカイハイとあの二人とあの人だよな？」

全員「うんうん」

タイバニ最高ですv

## 動き出す影

特殊ハンターのブレイクに成功したルイーダ、トウーン、フォック  
ス、ファルコ、ウルフ、ソニック、咲、スバル、シゲナム、アミテ  
イの10人。

全員のレベルは上がり、スカイハイとの再戦や他の特殊ハンター戦  
でも引き継がれる。しかし、ブレイクの一つを得るのにはどれだけ  
苦勞をしたのかが、身を持って知った。己の力を過信する者、一瞬  
の隙を許した者、戦闘から逃げ出して怯える者、・・・そして、恐  
怖に打ち勝って勝利を得た者。

彼らがたった一つの勝利を得るのに払った代償は大きく、特殊ハン  
ター撃破が簡単ではない事が分かった・・・。エリアに一時的に吹  
かれた強風の存在は他者にも影響を与える・・・。  
その影響は十人十色と反応は様々だが、全員が言えるのは・・・

「気を抜いたらやられる」

「牢獄 DE とく」

ヨッシー「現在の結果、スカイハイさんはあと2回で撃破です。レ  
ベル2以上は10人です。」

ティアナ「これは厳しいわね・・・。全員が協力して撃破しないと

危険だわ。」

ウオッチ「ソノトオリデスネ。セントウニスグレテイルメンバーデモ、レンセントナルトイズレカハロウゴクイキニ……」

かれん「ええ。開始早々での一撃死もあり得るわ。その証拠に……」

マリオ&くるみ&ガノン&クルーク「……；（正座中）」

ラフィーナ「ねえ、クルーク？あんたは「このグレートな魔法とグレートな頭脳で生き残ってやる！」とスタート時に豪語していたよね？」

フェーリ「しかも、厚かましく自首をして逃げようとしていたんだっけ？天才的な頭脳と魔法の持ち主がどうしてここにいるの？しかも、不意打ちでの一撃……。」

ドンキー「マリオ、今回の結果はちょっと酷いぞ。ピンボールではすごいと思っただけ、開始早々で秒殺は……；」

レムレス「あつけないのは酷いし……；君達の強さは折紙つきと評価されていたんだけど……；一気に四人同時って、よっぽどの事がない限り酷すぎる……。」

四人「あのー、足が痺れてきたんだけど……；」

舞「ダメよ！このミッションが終わるまではずっと正座をしてくださいー！頑張っている人や注意した人にも申し訳なさすぎる結果よ……！」

四人「がーん……！」

マリオ「こんなだったら、ルイージのメールと電話の通りに動けばよかった……；」

くるみ「今回の件をココ様とナッツ様に見られたら王国に帰れない……；」

ガノン「俺なんて出番がちょっとしかないし……；はぁー……；」  
クルーク「足の痺れがピークに……；（目の前にあの二人がいるし……；）」  
カービー「ねえねえ、レッドはまだ帰ってきてないの？ ジューズとお菓子を買いに行ったきり、帰ってこないよー？」  
シグ「んー、コンビニまでは距離があるし、それにスカイハイや他のハンターとの戦闘に巻き込まれないように遠回りしてるんじゃないの？」

牢獄ではこんな話をしている中……

リンク「アイテムはこれだけでいいかな……？」

一方、北エリアと東エリアの境目にいるのはリンク。彼は特殊ハンターとの戦闘に備え、アイテムを回収していた。ハイラルの勇者は万全の態勢でハンターに挑もうと念入りに準備をする。しかし、特殊ハンターはどこに潜んでいるか、相手は誰かと分からないため、移動中にも警戒を怠らない……。

リンク「電話したいんだけど、下手にやると相手に聞かれちゃうから……。」

本当なら電話をして連絡を取りたいのだが、今の状況では連絡をとるのは自殺行為になる。電話の音が響き、両者が特殊ハンターの危機に晒される……。彼の心にはもちろん……。

リンク「ゼルダ……」

願うは愛しい人との再会。電話越しじゃなく直接会話したい……。この煩わしさに彼は自分の不甲斐なさと苛立ちを覚える。早く助けないと……。そう思う彼は北エリアへ移動する。すると宝箱が目に入った。実はこの宝箱はミッション3でクレハンが追加したものだ。その事を知らないリンクは宝箱を開ける。中には……

リンク「プリキュアチームに該当。このスイッチを押すと逃走中に参加しているプリキュアが単独で変身が可能になる……。マジか！！これなら咲などのコンビ系プリキュアに有利だ！」

素晴らしい効果のあるスイッチを見つけた彼はすぐに押す。するとその事がメールに伝えられた。

ネス「『リンクの活躍によりプリキュアチームが単独変身が可能に



なった。』すっげー!！」

咲「本当なの!?!ちょっとやってみる・・・デュアル・スピリチュアル・パワー!」

舞「やってみてもいい?デュアル・スピリチュアル・パワー!」

コンビ系プリキュアに該当する咲と舞はミックス・コミュニケーションを取り出し変身する。すると二人は相方が不在の状態でプリキュアに変身に成功し、周囲は二人同様に驚きの声を上げる。

周囲の逃走者「おお・・・(驚)」

ブルーム「これなら戦えるナリ!」

イーグレット「復活した場合は有効に使いたいわね・・・」

リンク「俺、また活躍した・・・あいつらも喜んでるんだろっ  
な・・・」

ゼルダ「リンク、よくやったわ・・・」

リンク「姫……！？」

またしても活躍した事にリンクは驚きと喜びを隠せず、逃走中に対してさらに逃げ切りの意欲を出す彼のもとにさらに嬉しい事が。それはずっと探していた思い人の姫君との再会……！

ゼルダ「リンク、あなたは私やみんなのためによく頑張ってくれましたね。」

リンク「い……いや……俺は当然の事をしただけで……」

ゼルダ「聞きましたよ？あなたがミッション3で私を救おうとしてたでしょ？」

リンク「……知ってました？」

ゼルダ「ふふっ、私は何でもお見通しですよ？」

優しく微笑む知恵のトライフォースを持つ姫君は目の前にいる勇気のトライフォースを持つ勇者を称賛する。そんな彼女にリンクは顔を真っ赤にし、言葉がしどろもどろになる……。

だが、リンクは気付いていなかった。この時に敵が近付いていた事と……

ゼルダが後ろに組まれている手にならないがあつた事を……

サンシャイン「陽の光浴びる一輪の花、キュアサンシャイン！」  
ルミナス「光の心と光の意志、全てをひとつにするために！シャイ  
ニールミナス！」

アルル「ここに守備に長けたプリキュアが二人・・・」

デデデ「生で変身を見ると迫力があるゾイ・・・」

ピーチ「いつきちゃんとひかりちゃん、可愛いわー♡」

一方、中央エリアにはいつきが扮するキュアサンシャインとひかり  
が扮するシャイニールミナス、作戦を指揮するデデデとメールによ  
って呼び出されたアルルとピーチがいた。指揮、魔法、攻撃、守備、  
補助に長けた五人が一丸になると特殊ハンターに勝つ確率は高く、  
多少の連戦でも勝ち取ることは可能だ。

デデデ「このメンバーなら二回ぐらいは戦えるゾイ。お互いの短所  
を補いながら、長所で戦闘するゾイ！アイテムは有効に使い、危な  
い場合は逃げてもいいゾイ！」  
四人「はい！」

多少の犠牲を払う事を承知すると五人は動きだす。彼らが行った先  
は中央エリアの噴水広場、そこには牢獄があり、牢獄の者達は彼ら  
の姿に気付く。

シグ「あ！デデデとサンシャインとルミナスとアルルとピーチ姫だ

！  
カービィ「大王、頑張つてー！」  
ドンキー「マリオファミリーは絶対に残れよー！」  
かれん「無理は禁物よ！」

サンシャイン「ちょっと恥ずかしいですね・・・」  
アルル「応援してくれる人がいるというのはいいじゃん！これなら頑張れるよ！」

ルミナス「ベストを尽くせるように頑張りましょう！でないと・・・」  
ピーチ「マリオ達みたいになっちゃうのね・・・あら・・・」  
デデデ「牢獄の四人みたいな結果は嫌だな・・・どんな相手が来ても戦・・・！」

????5「ハイヤーーーーーー！！！」

五人が移動しようとした時、横から雷が襲いかかって来たのだ。突然の不意打ちに全員は持っている防御技で身を守る。突然の雷撃に噴水広場に緊張が走る・・・。

????5「ボクの攻撃を防ぐとは流石の戦闘のプロだね！」

広場に明るい声が響くと牢獄と五人の間に何者かが現れた。そこにいたのは頭にスポンサーロゴが書かれた大きな丸いポップを二つ付け、龍と黄色をベースとした中華風の服を身にまとった少女がいた。

少女の年齢はいつきやひかり達と同じぐらいで相手は長い棍を持っており、それを自分達に向けている……。

カービィ「ちょっと待て！あれは……タイバニのドラゴンキッドじゃない！？」

新たな特殊ハンター、ドラゴンキッドは可愛くターンをすると全員にニッコリと微笑んで挨拶をする。

420

Dキッド「逃走者のみんな、<sup>ニハオ</sup>？好！」

特殊ハンターNo.5：ドラゴンキッド（TIGER & BUNNY）  
稲妻カンフーマスターの名を持つヒーロー。能力は雷を操る  
彼女の扱う能力は攻撃に長けている。接近戦特化で攻撃の出とスピ

ードが速く、さらにマスターしているカンフーを使って戦う。考えるより行動派の部分が目立つので、ある人のアドバイスと援護で戦っている。

本来なら特殊ハンターは4人だったが、逃走者の危険性を察知した同じメンバーが彼女を含め2人急遽呼び出した。花より団子、少しお洒落に興味がある、さらにはボクツ子でボーイッシュとお年頃。好きな人がいる模様。



**番外編：スマブラ剣士sでマユゾンパロ（前書き）**

「注意」

- ・スマブラの剣士キャラで銀魂のマユゾンパロ
- ・キャラ崩壊100%
- ・ぬうんの扱いが酷い（重要！！）
- ・ファンは逃げて！！
- ・覚悟が出来た方はどうぞ！！



## 番外編：スマブラ剣士sでマユゾンパロ

ちなみに配役は銀さん〓ダークリンク、新八〓リンク、神楽〓ロイ、桂〓マルス、さっちゃん〓ピット、マダオ〓アイク、エリザベス〓メタナイトです。ぷよぷよで考えたのですが、こっちの方がしっくりくるので採用www

ダーク「1、2、3、4、5、6・・・ああ大丈夫だ。」

リンク「いや、ちょっと待ってよ。6人か？もう一度数えるよ」

大量のマユゾン（感染すると両まゆ毛のゾンビになる）から逃げ、エレベーター内に避難したダークとリンクとロイとマルスとピットとアイクの六人。命辛々逃げ出した全員はその場に座り、呼吸を整える。先導をしたダークは全員がいるか数えるも、リンクが異議を唱える。

ダーク「んだよ、大丈夫だって。俺に」

「お前に（リンク）」

「嫡（ロイ）」

ダークは人の名前を呼ぶ時にその人にちなんだ特徴で呼びます（一部は別）



ダーク「ぐふうー!!」

ロイ「そうだよー。団長はバンダナしかないぞ」

そう、アイクをマユゾンのいる一階に置いてきてしまったのだ。両のように繋がったまゆ毛のゾンビの群れの中に……。

リンク「一階に置いてきてしまったんだ! まずい! 早く戻って助けないと!」

ロイ「嫌だ。今戻っても全員奴らの餌食になるだけだし。俺、あんなまゆ毛になるのはごめんだ。」

ダーク「それによく考えてみる……」

そう言うとダークは投げられたバンダナを手に取り……

ダーク「これ……ぶつちやけ団長じゃね?」

リンク「どっからどう見ても肉臭いバンダナだろうが!!」

ダーク「いやいや、現実から目を背けずによく考えてみる。コレと一階に置いてきた団長……」

ダーク「ぶつちやっけ……どっちが団長だ?」

リンク「オメーが現実をしつかりと見据えるオオ！」

アイクとアイクの装備品でどっちが見分けつかない事に悩むダークにリンクは突っ込みを入れる。そんな様子を見たロイは閉じていた口を開く。

ロイ「一階のアレ、ただのバンダナ掛け機だぞー」

リンク「バンダナ掛け機って何だよ!？」

ロイ「バンダナを掛けとく棒的なあれだぞー」

リンク「そんなモン、その辺のフックでいいだろうが!!」(激怒)

ロイ「フックだよあんなもんぬうんの。本体はこっちだもんない、ねー? 団長ー?」

マルス「うん、ロイ(裏声)」

リンク「うるせーからおめえは黙ってる!! イラツとくんだよ!!」  
(怒)

アイクの心配をせずにバンダナをアイクと認識するロイ。しまいはマルスもバンダナ=アイクと認識してしまう……。そんな中、ずっと黙っていたピットが……

ピット「リンク……。昔から人々の間では人の心というものが何処にあるのか取り沙汰されてきましたす……。人の心は心臓に……。？それとも脳に？僕が違うと思っす！」

ピット「それはきっとバンダン「おめーらに心は無いのかアア！！」

リンク「アイクのおかげで俺達は助かったんだぞ！もういい！あんならのような薄情者にもう頼まん！俺だけ一階に降りしてくれ！」

仲間を見捨てる非道な四人に切れたリンクはたった一人でアイクがいる一階へ向かう。しかし、エレベーターは三階で止まる。

チーン（三階でストップ）

リンク「あれ？三階？ちょっと！俺は一階で降りしてと言っただぞ！」

ピット「知らないっすよ！屋上のボタンしか押してないし」

リンク「じゃあ、何で止まるんだよ！」

ダーク「あれだろ？三階でエレベーター待っている奴がいるんだろ？」

ダークの答えにリンクを含める他の四人は納得する。三階で止まる

という事は三階にエレベーターに乗りたい人がいる。  
ん・・・？自分たち以外の人達はマユゾンに感染している・・・。  
エレベーター以外は安全ではない・・・。じゃあ、三階にいるのは・  
・

ダーク&リンク&ロイ&マルス&ピット「え・・・？」

ダーク「開くなあああああああ！！！！閉じろおおおおお  
おおおおお！！！！奴らが来るうううううううううううううう  
うううう！！！！（全員がエレベータの閉じるボタンを連打！）」

ダークの指示通りに全員が閉じるボタンを高 名人がビツクリしち  
やうほど連打しまくる！しかし、五人の願いとは裏腹にエレベータ  
ーの扉は開いてしまう・・・

五人「うわああああああああああああああああああ！！！！」

そこにいたのは・・・

メタナイト「・・・」

くっく

番外編：スマブラ剣士sでマユソンパロ（後書き）

「りゅーとの言葉」

一日で3話更新とは・・・；



番外編：スマブラ剣士sでマユゾンパロ2（前書き）

「注意」

- ・スマブラの剣士キャラで銀魂のマユゾンパロ
- ・キャラ崩壊100%
- ・先に謝る。アイクファンの皆さん、ごめんなさい
- ・ファンは逃げて!!
- ・覚悟が出来た方はどうぞ!!

## 番外編：スマブラ剣士sでマユゾンパロ2

前回同様に配役は銀さん〓ダークリンク、新八〓リンク、神楽〓ロイ、桂〓マルス、さっちゃん〓ピット、マダオ〓アイク、エリザベス〓メタナイトです。犠牲者出まーすwww

「前回の続き」

マユゾンの侵入を許すまいとダークの指示通りに全員が閉じるボタンを高 名人がビックリしちゃうほど連打しまくる！しかし、五人の願いとは裏腹にエレベーターの扉は開いてしまう・・・

五人「うわあああああああああああ！！！！！」

そこにいたのは・・・

メタナイト「・・・」

三階にいたのは一等身の仮面騎士で有名なメタナイトだった。意外な人物（？）のあっけない登場に五人は唾然となる。

ダーク「てんめー！こんな所で何やってんだ！！脅かすんじゃねえよ！殺すぞ！コラア！（怒）」

冷や冷やとする危機から急な脱力感に踊らされたダークはメタナイトに怒鳴る。すると、同じ仲間存在にマルスは喜びを隠さず、エレベーターから出る。

マルス「メタナイト！君、見ないと思ったたらこんな所に……。無事だった？」

言葉をかけられても無表情のメタナイト。すると彼の手には行方不明になったアイクが……

マルス「アイク……。！？卿、まさかアイクを助けて……。でかしたメタナイト！」

リンク「凄い！凄いぞメタナイト！」

ダーク「何だよこいつ……。何で無駄に男前なんだよいつも……

」:

アイク運搬中・・・(ダークとリンクが引きずる)

リンク「しかし、あのマユゾンの群れの中、よくここまで来られたな。あ、そうかまゆ毛！考えてみればメタナイトにはまゆ毛がない！」

マルス「そうか！メタナイトにはまゆ毛がない！つまり、メタナイトはマユゾンになる恐れはないという事だね！これは心強い！僕達はハルバート艦を手に入れたんだ！流石はメタナイト、これからは先陣を任せるよ！」

メタナイトがマユゾンになる確率がないという事に安心するマルスは戦力として頼りにする。その言葉を聞いた彼は看板を出す。持っている看板には・・・

「足手まといは「め」だ」

マルス「あはは、君もよく言うようになったね。ん？卿、せっかく

のかっこいいシーンなのに字が間違ってるよ。仕方のない、ここぞ  
というところは決めないと駄目だよ。あはは・・・」

仲間のドジにマルスは笑う。この場面を見れば場が和むのだが、エ  
レベーター内にいるダークとリンクは笑っていない。実はこの地点  
で危機が迫っており、マルスは気付いていない。

「足手まといはごめmだ」

マルス「ははははは・・・」

ダーク&リンク「・・・」

「ごめmだ」

マルス「ははははは・・・」

「m」

マルス「!？」

マルス「・・・」

パタン・・・（エレベーターの扉の閉まる音）

マルス「あゝ ああああああああああああああー！！！！  
（大絶叫）」

リンク「ダーク……」  
ダーク「言うな、王子の死を無駄にするな。俺達は何としても生き残るんだ……」  
リンク「いや、そうじゃなくアイク……。メタナイトが連れて来たという事は……」

メタナイトがマユゾンの感染者という事の中にいるアイクは……まさか……。その嫌な予感を決定づけるさせるかのようにアイクはゆっくりと立ち上がる。目覚めた彼の目は焦点が定まっておらず、まゆ毛は繋がっている……！

アイク「ううゝ（感染）」

四人「ぎゃあああああああああああー！！！！」

リンク「やっぱりだー!!やっぱりやられちゃってるぞアイク!!」  
「?  
ピット「みんな!繋がった眉を剃り落とすっす!マユゾンを倒すにはそれしかないっすー!!」

狭い空間に敵が現れた事にパニックする中、ピットは全員に剃刀を渡す。ピット曰く、マユゾンの撃退方法は繋がっている部分を剃り落とすというアバウトすぎるもの。自信満々に答える天使にダークは疑問を持つ。

ダーク「天使君、眉毛って言ったってそんなもん・・・!?」  
アイク「うがあゝ!!」  
ダーク「(来てるし!?)・・・っ!うおりゃあああああああああああああ!!!(剃)」

ジヨリ(アイクの髪を盛大に剃る音)  
ダーク「え・・・;(青ざめる)」

アイク「・・・!?!?・・・!?!?」(シヨック)

ダーク「あの・・・違うの・・・手元が・・・ごめん、団長。」

かっこいい剣士の髪を剃り込みヘアにした事に謝罪する勇者の間。味方を考慮しての行動がこんな残酷な結果になった事にダークは謝罪する。気が滅入っている彼にロイが一喝する。

ロイ「何やってんだよ！知り合いだからって尻ごみするから手元が狂うんだぞ！思いつきり行かなきゃ！」

心を鬼にしてやらないといけないと豪語すると、フェレ家の獅子は剃刀を持ち・・・!

ロイ「リストラの恨みいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい！！！！」(思いつきりアイクの髪を剃る)

ダーク「お前は思い切りが良すぎー！！さすがしいくらいー！！どこ狙ってんだよ!?!？」



リンク「ああああああ！！アイクー！！どうするんだよあれ！？  
もう元に戻っても外歩けねえし！！」(大汗)

二人の攻撃にアイクの頭は無残な事になっていた(約一名は故意で  
……。このままだとアイクに両方の面でダメージを与えてしまう  
事にピットが切れる。

ピット「何やってるんすかみんな！！！！一撃で仕留めないとかえっ  
てアイクを苦しめる事になるんすよ！？僕がやるっす！！」

他に任せておけないとパルテナ親衛隊隊長の天使は盛大に飛び・・・  
！

ジヨリ(なぜかリンクの髪を剃る)

リンク「な、なんで？！！何で俺なんだよ！？何してくれてんのあ  
んた！！！！」(シヨック&激怒&混乱)

ピット「あ、あれ……？今は……」

チーン（屋上に到着）

四人「逃げる――――！！！！」  
アイク「うがぁ」

おしまい

番外編：スマブラ剣士sでマユゾンパロ2（後書き）

「おまけ」

アイク「あれ・・・？悲しくないのに何故か涙が・・・（頭はダイクとロイによって無残な姿にwww）」

「おまけ2」

リンク「神楽の配役をロイにしたのってあのセリフを言わせたかっただけだろ？」

リョーと「YES」



## VSDドラゴンキッド

広場に現れたドラゴンキッド。彼女の登場に全員は息を飲む……。しかし、目の前に実物があるとなると黙ってはいられない。

ピーチ「きゃああああ！本当にキッドちゃん可愛いわー！可愛いお洋服を着せてあげたいわー！」

舞「私と同じ年でヒーローって凄いね。プリキュア見たいで変身して戦うというので共感できるわー！」

かれん「そう言えば、あの子の声ってうららと同じ人でしょ（キッドとうららの声は同じ人です）？」

アルル「本当だー！あとでさ、うららに通信でお話ししてみない？本人も喜ぶと思うよ！」

サンシャイン「イメージカラーも黄色だし、プリキュアの衣装を着せてみようよ！レモネードやパインや私の衣装やミューズのも……」

ルミナス「おもしろそうですね！後で、みんなを呼んで……」

「キッドに可愛いお洋服などを着せてみようよ！」ときゃあきゃあ盛り上がる女子。勝手な事をする相手に話のネタになっているヒーローは無視されている事と自分で遊ぼうとしている事に不機嫌になる……。

Dキッド「ボクを無視しないでよー！！第一、ボクは可愛くないし、そんなフリフリしたお洋服なんか似合わないよー！！」

女子s（か、可愛い！！）

デデデ「おい、相手が嫌がってるぞー。」

ピーチ「あら？絶対に着せたら可愛いのにー……。あのお洋服を着せたら、キッドちゃんの好きな人が喜ぶと思うよー？」

Dキッド「え……。？」

稲妻カンフーマスターの脳裏には……

「キッドさん、とっても似合ってますよ」

Dキッド「……だったら、ボクを撃破したら考えてあげる。最低でも3ブレイクはしてくれないと無理だね？」

女子「乗った！！」（即答）

デデデ「完全に着せたいようだな。マリオ、お前の彼女の行動力は凄すぎるゾイ！」

マリオ「姫は即行動派ですから！」

意地でもプリキュアの服を着せたい女子（特にピーチ）はドラゴンキッドに挑む！

Dキッド「（真つ先に潰す人がたくさんいる！??? 4さんの言ってた通りだ！）ハイヤー！！」  
アルル「来たよ！」

ドラゴンキッドは何かを独り言のように呟くと手から雷を飛ばして来た。広範囲かつ三連続で飛んでくる雷に全員は防御する。

ルミナス「ハーティエル・ブローチエ！」  
アルル「シールド！」  
ピーチ「キノピオガード！」  
Dキッド「防ぐとは流石だね！じゃあ、これはどう？」

今度は二つ連なった電撃を周囲に多く散ばせる。移動が遅く、範囲を阻ませる雷に一同は苦戦する。近づく事さえ出来ない彼らにさらなる追い打ちが……。

Dキッド「チエインサンダー！」  
アルル「まただ！また防御で……」  
Dキッド「甘いよ！」  
サンシャイン「え……！」

防御に徹する五人に襲いかかったのは直線状を走る雷。その雷は防御で済まされると思っても、それは出来なかった。なぜなら、放たれた技は防御を砕く貫通技だったからだ。その事を知らずに防御をしてしまった彼らは守る事が出来ず、ダメージを受けてしまう……。

デデデ「最悪だ・・・！あいつの技は防御を破るのか！」  
Dキッド「その通りー！えいやっー！」  
アルル「こつちに向かつて来た！えい！たあっ！いくよー！それっ  
！ダイアキュート！アイスストーム！」  
サンシャイン「ここはユキヤこんこんを・・・！」

雷を操る彼女は機敏に動くとアルルの魔法とサンシャインの持つて  
いるユキヤこんこんで呼び出された雪だるまを軽くかわす。稲妻の  
ように動くヒーローはデデデとピーチの方に向かう！

カービィ「二人とも避けて！！」  
デデデ「アホか！こんな所で逃げるのはよくないゾイ！」  
ピーチ「こんな程度で逃げる私じゃないわよ！」  
Dキッド「ボクの狙いはそっちじゃないよ？」  
二人「えっ・・・！！！」

武器を構えようとしていたププランドの大王とキノコ王国の姫君  
が驚くのは無理はない。巨大なハンマーとフライパンが振り下ろさ  
れようとした瞬間、ドラゴンキッドが直前で方向転換をして来たの  
だ！突然の事に二人は驚き、同時に地面に大きな音が響く。予想外  
の行動に急な方向転換をした相手の狙いは・・・！

Dキッド「君だよー！」



サンシャイン「私・・・!?」

彼女の狙いは油断をしていたキュアサンシャインだった！彼女の横に近づくとお得意のカンフーで攻撃をするドラゴンキッド。しかし、太陽の名を持つプリキュアはドラゴンキッドと同じ武術の達人。キックが出た瞬間、彼女もキックで攻撃を受け止める。

Dキッド「ハイヤー！」

サンシャイン「はいっ！」

バシン！

サンシャイン「とおっ！」

Dキッド「アイサツ！」

パン！

二人「たあああああああああああああああああああああ  
ああっ！！！！！！！！！！」

ガキイイイイイイイイイイン!!!!

武術を極める二人は相手の動きと呼吸、気の流れを素早く読み、次の一手を出す。蹴りなら蹴り、突きなら突き、打つなら打つ。中国武術と日本武術の異種格闘戦に全員が息を飲み、思わず目が奪われる……。

ワリオ「あれさ、二人とも普通に中学生ぐらいの女の子だよな？あそこまで強いなんて聞いてないぞ……プリキュアとヒーローって、あそこまで強くなれるのか……？」

かれん「うん。一部は恐ろしい技を使うプリキュアもいるからね。特に私達の所のリーダーは該当するわ。」

ティアナ「わー、なのはさんなみに凄い人がいるんですね……；あはは……；」

ルミナス「これを映画にしたらお客さんが来ちゃいますよ。」  
デデデ「二人とも周りが見えてないゾイ……；」

同じカラーリングと同じ武術の達人の二人の勝負に全員は啞然となった。ドラゴンキッドとキュアサンシャインの本気の対決に言葉を失い、開いた口が塞がらない。その証拠に両者は生き生きとした表情で相手に挑む。

サンシャイン「キッドもやるね！」  
Dキッド「そっちも凄いよ！」

二人「だけど・・・絶対に負けない！」

再び、勝負に持ち込む二人の少女。一瞬の隙が勝敗を分ける・・・。  
そんな中、ドラゴンキッドはある人物の話を出す。

450

???4「キッドさんは攻撃が単純であるのと接近戦がメインだと、ちよつと不利になります。特に防御系の子がいると確実にやられてしまいますね・・・。」

Dキッド「えっ！ボクがやられちゃうの!!？」

???4「キッドさんは直線的な部分と一部の属性が目立ちますからね。これは相手を自分のペースに持ち込む方が一番だと思います。」

Dキッド「ボクは戦って目立つのが得意んだけど、それでもダメなの？」

???4「あ・・・そんな顔をしないでください。相手の傾向を見ただんですけど、切り返しの可能な人や作戦を立てる人、チームプ

レーが優れている人が多いです。そこで相手が多く組んでいる場合に適した戦術を教えます。あと、キッドさんの能力で複数のパターンを用意するんですよ!」

Dキッド「どうやって!教えて!」

???4「まずは・・・」

Dキッド「(この子の戦闘能力はこのチームの要っばい・・・!)  
ハイヤツ!」

サンシャイン「次の一手はここです!」

ドラゴンキッドがキックを繰り返すとキュアサンシャインも同じようにキックを出す。だが、この行動で全てが決まった!

Dキッド「・・・残念!」

サンシャイン「えっ・・・?」

ジジジ・・・バチイ!

サンシャイン「しまった!足に能力が・・・!  
Dキッド「隙あり!」

NEXTを使われ、足に痺れが走ったプリキュアは力を緩めてしま  
う。その一瞬を稲妻カンフーマスターは見逃さず、持っていた棍で  
叩きつける！キュアサンシャインは牢獄近くにある噴水に叩きつけ  
られ、水飛沫が盛大に飛ぶ。綺麗な噴水は一瞬にして無残な姿に・  
・

アルル「サンシャイン！大丈夫！」

サンシャイン「大丈夫よ！これくらいは！キッドは・・・？」

Dキッド「ここだよ！」

声のする方に向くとドラゴンキッドは近くの家の屋根の上におり、  
そこから飛び蹴りをする。勢いのある攻撃を喰らうと太陽の名を持  
つプリキュアの撃破は確定する・・・！

サンシャイン「甘いですよ！サンフラワー・イージス！」

Dキッド「ボクの蹴りが塞がれ・・・うわわー！！！」

キュアサンシャインは武器のシャイニータンバリンを取り出し、ヒ  
マワリの花状の強力な巨大シールドを前方に出した。強力な攻撃を  
塞がれた事に相手はぎょつとし、シールドから出たレーザーで反撃  
を喰らってしまう。

Dキッド「もう一度僕の技でその盾も砕くよ！えーい！！！」

サンシャイン「その雷も塞ぎます！言っておきますけど、今度のはさらに・・・」

デデデ「馬鹿！防御に徹するな！！」

キュアサンシャインが「どう言う事・・・？」とデデデの警告に疑問を持ったと同時にシールドを前方に作り出す。一方の相手は雷を上空から落とすも、狙いはキュアサンシャインじゃない。彼女の後ろだ。

高速で接近する落雷、ガラ空きの背後、自分のいる場所・・・。まさか・・・！

Dキッド「ボクの雷は2千万ボルトだよー？」

サンシャイン「きゃあああああああああー！！！」

噴水の水を伝う雷の感電に一人のプリキュアは悲鳴を上げる。絹を裂くような悲鳴は噴水広場にいる全員の耳に響く。強力な雷によって、キュアサンシャインは黒焦げになりシールドが自然に解除される・・・。そこに稲妻カンフーマスターの少女がツカツカと歩いてくる。

Dキッド「はい、これでおしまいだよ！」

止めにドラゴンキッドが棍で突きを出すと、相手は後ろにある民家に飛ばされる。民家の壁に叩きつけられた少女は自然に変身が解け、いつきに戻った……。

いつき「皆さん、私は無理みたいです……。アイテムはここに置いておきますので倒してください……」

45:00 明堂院いつき撃破 残り33人

ピーチ「いつきちゃん……」

アルル「これが特殊ハンターの実力……」

デデデ「相手の弱点や能力の活用方法をうまく組み合わせたのか……」

ルミナス「目の前で敗北を見るのはきついわ……」

いつき「ごめんなさい、負けちゃいました・・・」

カービィ「よく頑張ったよ！あの試合は本当に凄かったよ！」

ヨッシー「試合に負けても私達を盛り上げてくださってくださったのはよかったですー！」

レムレス「あの子の強さは噂通りなんだね・・・。悔しいけど、認めないとね・・・」

ラフィーナ「あの武術は相当の鍛錬していると見えるわ・・・」

いつきの撃破情報は他の逃走者の携帯にメールで伝えられた・・・

えりか「『特殊ハンターの手により、明堂院いつき撃破。』いつきがやられた!？」

ピカチュウ「『残るは3人。』あいつが倒されるなんて・・・!」

ナナ「いつきはすごく強いのにハンターってやばいの!!!!?」

ヴィータ「だからこうなるのに馬鹿だろ!牢獄行きになるの、分かってるのか!!ちったあ粘れよ!!」



一方、撃破をした特殊ハンターの少女は・・・

Dキッド（本当に倒せちゃった！今で相手の戦力は一気にダウンした！あの人の言うとおりだ・・・！）

大勢相手に逃走者を倒した事に驚く少女は再度武器を構える。ヒールーの名を持つ彼女は残った逃走者の方を振り向き・・・

Dキッド「次は誰が相手？」

その目には強い思いがこめられていた・・・

## VSDドラゴンキッド（後書き）

「確保者の言葉」 18人目：いつき

いつき「負けちゃった・・・；私も正座をするべきでしょうか？」

舞「しなくてもいいよ！いつきは頑張った方よ！ゆっくり休んで！」

フェーリ「残った四人がどう動くかだね・・・」

ウォッチ「ダケド、ピーチサン。キッドサンニカワイイフクヲキセ

ヨウトイヨクヲモヤシテルミタイデスヨ・・・；」

ガノン「そう言えば、凄いゴスロリの服を用意していたらしいぞ・・・

・；しかも、メイド服やナース服やアイドル衣装などもあって・・・

「

ドンキー「それ、一部のスマブラキャラに着せようとしてるやつか・

・・・；」

マリオ「トウーンやリユカも着てたが、メタナイトとルカリオとウ

ルフがマジ泣きしてたぞ；メタナイトは素顔でやったから可愛かつ

たし、ウルフとトウーンがむっっちゃくっっちゃ似合ってたぞ・・・」

いつき「え！？女装姿が凄く可愛いの！！（可愛いものに弱い」

ワリオ「写真あるけど見る？凄いぞ」

Dキッド「ボク、あのフリフリした服は着たくない！！」

ピーチ「絶対に倒すわよー！！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8687x/>

---

ゲームキャラもアニメキャラも全員逃げて戦って大暴れ！逃走中！

2011年12月12日23時50分発行